329
254

始

特233
998

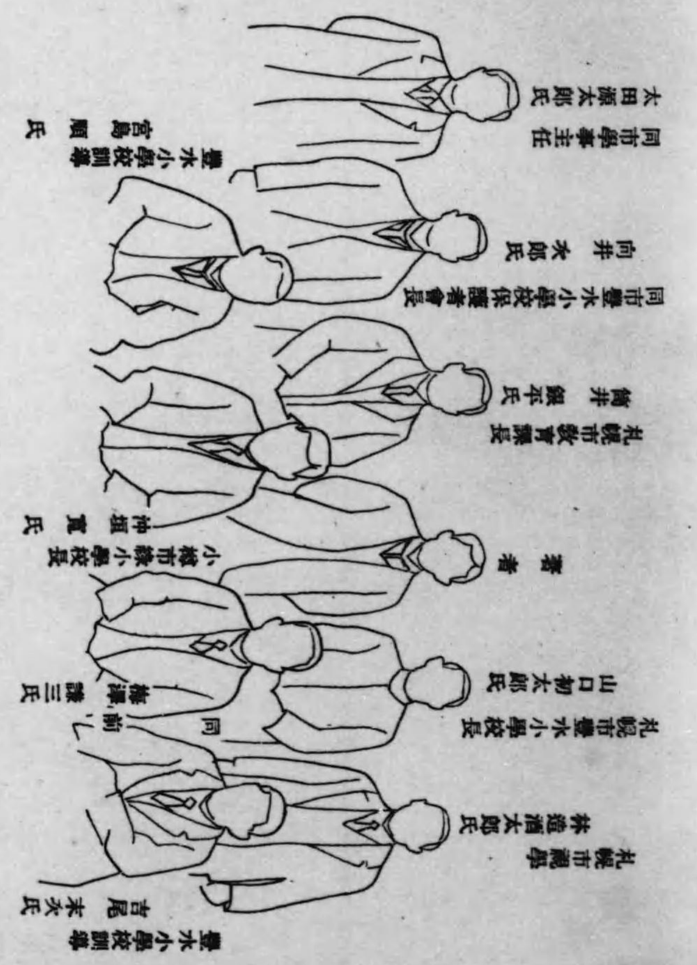
帝國圖書館藏

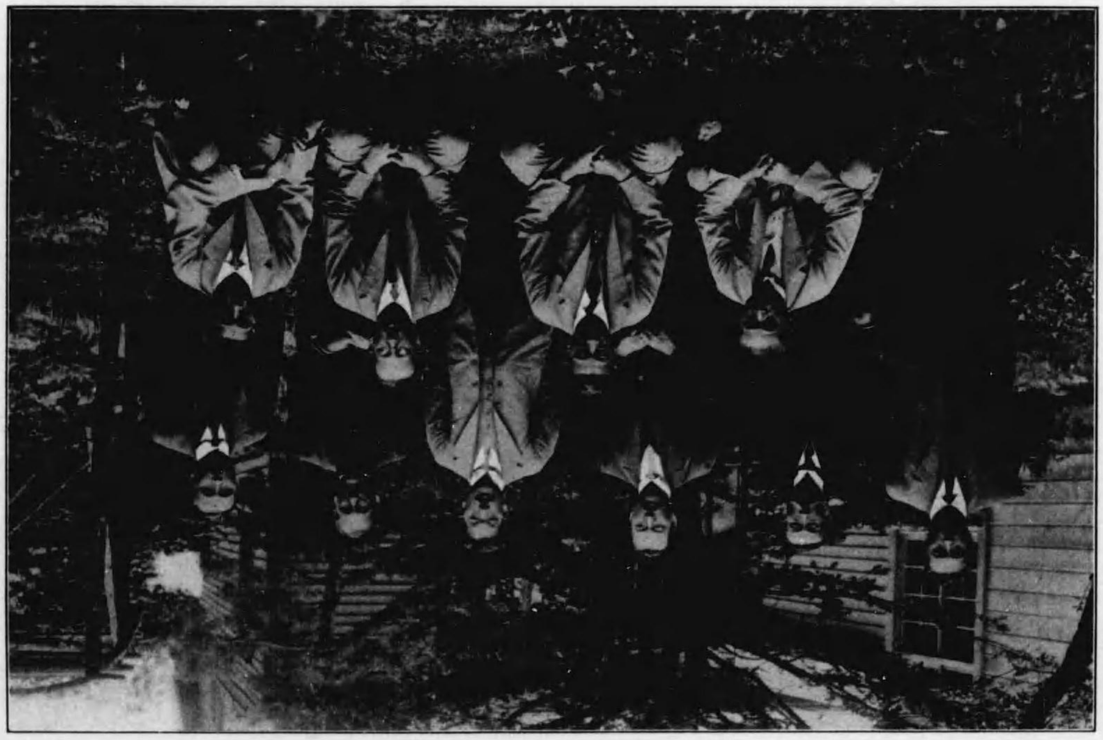
地理文庫

日本の誇 北海道・樺太

北垣恭次郎著

昭和元年 帝國圖書館藏


札幌市農事主任
林善雄太郎氏
札幌市豊水小學校長
山口初太郎氏
同
佐藤勝三郎氏
小樽市築小學校長
神垣寛氏
著者
札幌市豊水小學校訓導
吉尾末次氏
札幌市教育課長
鈴井雄平氏
同市豊水小學校長
向井太郎氏
豊水小學校訓導
宮島國氏
同市農事主任
太田源太郎氏



諸撮ヲ に校學小水豐市幌札

序

地理文庫日本の誇は、自然に備はる土地の誇と、土地に對する人爲の誇とを紹介する方針で書始めたもの。既に**關東**、**奥羽**、**中部**、**近畿**、**中國四國**、**九州**の六卷は發行した。今回其の第七卷として**北海道樺太**の卷を上梓することにした。

北海道は國初以來長らく王化に霑はなかつた處。天明、寛政の頃から、德川幕府が急に意を此の方面に注ぐやうになつたが、それは主として露國に對する警備の爲で、土地の開拓には手がとゞかなかつた。然るに明治二年開拓使の設置以來、官民協力鋭意其の開發に當つた爲に、今や我が國の一大寶庫となつて居る。各府縣が開闢以來幾千年の歳月を費して到達した文化を、北海道は僅か六十餘年の間に築き上げた譯である。

樺太は嘗て日露兩屬の時代があつた。當時我が内地との關係は頗る疎遠であつたが、

明治八年樺太、千島の交換が行はれてから後は、全く我が領土外の地となつた。其の南半が改めて日本領となつたのは同三十八年。我が領土としての施設經營は此の年に始まつたのである。領有以來まだ三十年に滿たないが、既に市街地は内地に對して遜色のない文化的設備を有し、其の他の土地も面目を一新した處が少くない。

一度北海道に客となり、又樺太に渡つて、其の近況を視察すれば、何人も其の急速の發展を見て、國家の爲に慶賀の念を禁ずることが出來ず、尙此の發展は全く維新以來此の地に渡つて、一意其の開發に當つた官民上下奮勵努力の結果であることを思うて、痛快の念を抑へることが出來ない。しかも今後の開發を待てる天然資源は隨分豐富で、人の收容力も甚だ多い。各府縣に於て頻りに論ぜられる人口問題も食料問題も北海道や樺太では當分問題にならない。北見の名都網走町は面積が約四十方里で、其の人口は約二萬五千。稚内町は面積が約三十一方里で、人口は約二萬に過ぎない。又樺太の首府たる豐原町の面積は凡そ四十二方里で、人口は約二萬五千、本斗町の面積は約二十六方里で、人口は一萬未滿であることなどを思へば、人の收容力に綽々餘裕あることの一端が窺はれる。無論我が國の人口問題、食料問題を北海道と樺太とで解決し得る譯ではないが、此の問題に對して多少の緩和力を備へて居るのは否む可からざる事實で、聊か意を强くすることが出來る。

今や北海道は第二期拓殖計畫を樹立して、其の實行に移つて居り、樺太に於ては中央試驗場を設けて、將來の島是を決しようとして居る。十數年の後には、更に刮目す可き發展を遂げるに相違ないが、現在に於ても世の耳目を聳動せしむるに足る施設が殆んど到る處に展開して居る。

本書は北海道、樺太の自然及び人爲の誇を紹介することに努めたものであるが、どちらかといへば、寧ろ重きを後者に置き、各種の施設經營に關する人の努力の貴いことを示すことにした。それは多少經世的色彩を帶びた教育的地理書として成人教育の資料にもなり、又青少年の讀物にもなるやうにしたいと望んだ結果である。

併し、之は著者一般に有勝な手前味噌。意あつて實の伴はぬ恨もあり、又著者の淺學寡聞に基く失態なども少くはあるまいと氣遣つて居る。地理に對する見解も樣々あるから、見る人々の見識如何によつて、樣々に讀まれることと察するが、兎に角識者の批正を仰いで、値打のあるものに仕上げようといふ熱だけは持つて居る。

昭和五年一月二十日

北垣恭次郎　識す

北海道及び樺太の近況視察の爲、著者が此の地方に出張した時、特別の好意を以て多大の便宜を與へられた諸賢の芳名を記し、謹んで感謝の誠意を表し、尙諸賢の御健康を祈る。

函館市教育課長	稲垣利作氏	室蘭市武揚小學校長	三谷忠義氏
同　彌生小學校長	藤澤誠太氏	同　女子小學校長	吉田增一氏
同　新川小學校長	佐々木完太郎氏	同　天澤小學校訓導	中村貞雄氏
同　商工會議所長	小林貞一氏	同　驛長	西野外次郎氏
同　海產商同業組合長	米田清發氏	余市小學校長	中山德次氏
同　圖書館長	岡田健藏氏	小樽市教育課長	林田政德氏
同運輸事務所船舶掛主任	大澤保次郎氏	同　學事主任	五十嵐鐵氏
渡島支廳視學	米澤太藏氏	同　綠小學校長	沖垣寛氏
室蘭市視學	木山新一氏	同　校	職員諸賢

同港灣修築事務所庶務掛主任　水上泰行氏　岩見澤小學校長　澁谷文之助氏
札幌市教育課長　筒井銀平氏　深川小學校長　前田繁藏氏
同　學事主任　太田源太郎氏　留萌小學校訓導　野坂秀太郎氏
同　豐水小學校長　山口初太郎氏　旭川商工會議所理事　赤石忠助氏

同　校　職員諸賢　同　視學　柴田準太郎氏
同校保護者會長　向井次郎氏　同　學事主任　石澤一郎氏
北海道帝國大學司書官　柴田定吉氏　同　北門小學校長　工藤清氏
同書記兼學生主事補　及川兵吉氏　同　文化商會主　末武政一氏
北海道廳技師　石田鼎氏　合同酒精會社取締役　堀末次氏
同　農事試驗場技師　內藤正雄氏　河西支廳第一課長　中野嘉平氏
同　工業試驗場技手　辻太郎氏　帶廣小學校長　金耕太郎氏
富士製紙別江工場　坪野外茂雄氏　同　治水事務所長　齋藤靜脩氏

同　農事試驗場長　川瀨逝二氏　同　女子小學校長　阿部清治氏
北海タイムス帶廣支局　和島登氏　同　農會長　木谷次郎氏
北海道製糖會社技師　篠森賢造氏　宗谷支廳視學　西田健次氏
釧路中學校長　渡邊繁吉氏　稚內北小學校長　丹後次三郎氏
同　市教育課長　北村衞也氏　大泊町學事主任　中谷一雄氏
同　第一小學校長　藤野謙助氏　樺太廳視學　橫山賢市氏
同　魚菜市場取締役　嵯峨久氏　豐原第三小學校長　神部龜吉氏
根室町長　本橋貞七氏　眞岡支廳視學　佐藤清三郎氏
根室支廳　大矢巖氏　同　第一小學校長　八木橋恭藏氏
同　花咲小學校長　淺野正氏　本斗町長　岡井捷美氏
同　訓導　長尾又六氏　同　支廳視學　岩竹繁吉氏
網走男子小學校長　合田綾一氏　同　小學校長　渡邊信市氏

地理文庫

日本の誇　北海道・樺太　目次

第一編　北海道

第一章　沿革、區分及びアイヌ……一

名稱、區分(一)武田信廣(三)松前家(四)函館奉行(七)函館裁判所(八)函館府(九)開拓使(一一)屯田兵(一二)樺太、千島交換(一三)三縣分立、北海道廳(一五)面積、人口(一六)第一期拓殖計畫、第二期拓殖計畫(一八)アイヌ(二〇)アイヌ教育資金(二五)北海道舊土人保護法(二六)バチェラー博士(二八)熊祭(三〇)

第二章　地勢……三三

海岸の出入、渡島半島(三三)津輕海峽(三四)ブラッキストン線(三五)岩内灣、壽都灣(三六)積丹半島(三七)宗谷海峽(三九)猿澗湖、知床半島(四〇)根室海峽、花咲半島(四一)內浦灣(四二)

山脈と山、蝦夷山脈(四三)千島火山脈(四四)屈斜路火山彙(四五)摩周火山、阿寒火山群(四六)雄阿寒岳、雌阿寒岳(四七)大雪火山彙(四八)十勝岳(五二)那須火山脈、惠山(五

六）駒岳（五八）大沼、小沼、蓴菜沼（六〇）昭和四年の駒岳大噴火（六二）有珠岳（六七）洞爺湖（七一）樽前山（七二）支笏湖（七四）恵庭山、眞狩岳（七五）
川と平野、石狩川、層雲峡（七八）上川盆地、神居古潭（八〇）石狩平野（八二）石狩川の改修工事（八三）天鹽川、天鹽平野、十勝川、十勝平野（八九）十勝川の改修工事、釧路川（九〇）釧路川の改修工事（九一）釧路平野、北見の諸川（九二）北見平野、沙流川等（九三）

第三章　氣候……九四

氣候概説（九四）寡雨地帶（九五）降雪期間、大陸的氣候地域（九六）海流の影響（九八）流氷、濃霧（九九）スキーの流行（一〇三）

第四章　産業……一〇五

鑛業、石炭炭田（一〇五）釧路炭田、硫黄産地（一一〇）石油、金屬鑛山（一一二）
林業、林相（一一四）主要樹木と其の用途（一一五）原始林、山火（一一六）
農業、耕地の增加（一一八）農事試驗場（一一九）重要農産物、米（一二〇）稻作の來歴（一二一）北垣國道と本田親美（一二三）土功組合（一二八）實蒔（一二九）水田粗蒔機（一三〇）麥類、豆類（一三二）馬鈴薯、亞麻（一三三）甜菜（一三四）トラクター、薄荷（一三五）苹果（一三六）
牧畜業（一三七）眞駒内の北海道廳種畜場（一三八）馬（一三九）牛（一四〇）豚、緬羊（一四一）開拓を待てる農耕地（一四二）國有及び民有未開地（一四三）許可移民、北海道移住案内（一四四）
水産業（一四五）鰊（一四六）鮭（一五〇）鱒（一五二）鱈、鱈（一五三）鰡、鰈、鮃、鮪（一五四）大鮃、烏賊（一五五）帆立貝、海鼠、タラバ蟹（一五六）昆布（一五七）捕鯨業（一五八）
水産試驗場、鮎の人工孵化場（一五九）

第五章　都會と交通……一六〇

青函連絡、客載貨車渡船（一六〇）貨車航送船（一六一）鐵道函館本線（一六三）**函館市**（一六四）龜田番所（一六五）南部陣屋址、箱館奉行所（一六六）箱館役所、高田屋御殿（一六七）諸術調所、辨天臺場（一六九）五稜郭（一七一）函館海戰忠魂碑、招魂社（一七三）碧血碑（一七四）明治天皇の行幸（一七五）市制施行（一七七）輸出入品（一七九）築港（一八〇）交通機關（一八二）湯ノ川溫泉（一八三）天使園、上磯町、當別の修道院（一八四）福山町（一八五）江差町、大沼公園（一八六）森町（一八七）八雲町、瀨棚線、長萬部（一八八）洞爺湖電氣鐵道、有珠の善光寺、伊達町（一八九）**室蘭市**（一九〇）築港（一九二）主要輸移出品（一九三）高架棧橋（一九四）コンベングローラー等（一九五）日本製鋼所（一九六）室蘭工場（一

九七）瑞泉閣（一九九）輪西工場（二〇〇）天澤泉（二〇一）室蘭本線、**登別溫泉**（二〇二）地獄谷（二〇三）大湯沼（二〇四）瀧本金藏（二〇五）倶多樂湖、カルルス溫泉、白老村（二〇七）**苫小牧町**（二〇八）王子製紙苫小牧工場（二〇九）日高線、浦河町、沙流軌道、北海道鐵道（二一三）夕張線、夕張町、夕張鐵道、萬字線、壽都鐵道（二一四）倶知安町、京極線、膽振鐵道、岩内線と岩内町（二一五）余市町（二一六）**小樽市**（二一七）築港沿革（二一八）廣井工學博士の苦心（二二〇）北防波堤（二二六）青木政德（二二七）南防波堤（二二九）鐵道省の施設（二三一）市營の修築（二三二）將來の築港計畫（二三三）北海製罐倉庫會社（二三七）海運狀況（二三八）水道、小樽公園（二三九）水天宮山、手宮公園（二四一）手宮の古代文字（二四一）市内の名所、忍路の環狀石籬（二四八）**札幌市**（二四九）沿革（二五〇）札幌農學校（二五三）クラーク（二五四）豐平館（二五八）面積、人口（二六〇）大通、望樓（二六一）諸官廳（二六二）主要工業品、交通機關（二六三）北海道帝國大學（二六四）農學部附屬植物園、大日本麥酒株式會社札幌工場（二六六）帝國製麻株式會社札幌製品工場（二六八）北海道物產館（二六九）豐平橋、中島公園、圓山公園（二七〇）札幌神社、北海道工業試驗場（二七一）定山溪鐵道、**定山溪溫泉**（二七二）江別町（二七四）富士製紙の江別工場、江當軌道、**岩見澤町**（二七五）美唄鐵道、歌志内線と上砂川線（二七七）瀧川町、新十津川村、**深川町**（二七八）**留萬町**（二七九）留萬築港（二八一）**旭川市**、沿革（二八三）鈴木龜藏（二八五）交通機關商業節圍（二八九）主要產物（二九〇）上川神社、常盤公園、舊土人部落、鹽谷溫泉（二九二）狩勝峠（二九七）北海道拓殖鐵道（二九八）清水村と河西鐵道、**帶廣町**（二九九）士幌線、十勝鐵道、廣尾線（三〇〇）北海道製糖株式會社（三〇一）新田ベニヤ板工場、池田町（三〇二）**大樂毛馬市場**（三〇三）**釧路市**（三〇四）沿革（三〇五）交通（三〇六）築港工事（三〇七）商工業、御供山（三〇八）厚岸町（三〇九）落石無線電信局（三一〇）**根室町**（三一一）沿革（三一三）築港工事（三一四）野付牛町（三一五）美幌町、相生線、**網走町**（三一六）築港（三一八）桂ケ岡、三眺山、遠輕と石北東線（三二〇）名寄線、紋別町、渚滑線、名寄町（三二一）晉威子府、天鹽線、クッチャロ湖（三二三）**雄内町**（三二四）同築港（三二六）利尻島と禮文島（三二七）

第六章　千島列島（ちしまれつたう）……三二八

維新前後の千島（三二八）面積、人口（三三〇）色丹土人（三三二）千島の探檢（三三五）片岡侍從の千島視察（三三六）郡司大尉と報效義會（三三八）千島の開發（三四一）報知新聞社特派員の千島視察（三四三）

第二編　樺太

第一章　名稱の由來、國境、面積、人口……三四五

樺太とサガレン(三四五)日露の國境(三四七)天測境界標(三四九)中間境界標、木標(三五一)面積及び區分(三五二)住民(三五四)アイヌ、オロッコ(三五六)ギリヤーク(三五七)

第二章　地勢……三五九

海岸の出入、西海岸、海馬島(三五九)南海岸、亞庭灣、千歲灣(三六〇)東海岸、多來加灣、北知床半島、多來加湖(三六一)富内湖、海豹島、對馬暖流、樺太海流(三六二)リマン海流(三六三)

山脈、樺太山脈(三六三)敷香岳、留多加山、東北山脈(三六四)鈴谷山脈、鈴谷岳、中知床山脈、野田寒岳、伊皿山、鵜城山、釜伏山(三六五)

川と平野、幌内川、多蘭川(三六六)幌内平野、凍土帶(三六七)鈴谷平野、内淵川(三六八)鈴谷川、留多加川(三六九)

第三章　氣候……三七一

寒季(三七一)降雪量、結氷期(三七二)暖季、濃霧(三七五)

第四章　産業……三八〇

鑛業、北部炭田(三八〇)中部炭田、南部炭田(三八一)猿津炭田、川上炭鑛(三八二)内川炭礦、内幌炭礦、其の他の炭礦(三八三)

林業、松毛蟲の被害(三八四)山火の被害(三八五)主要樹木と其の用途(三八九)

工業、パルプと洋紙(三九一)製材工場(三九二)

農業(三九二)主要農作物(三九三)農業移民に對する保護(三九四)農事試驗場(三九五)

牧畜業、養狐業(三九六)馴鹿(三九八)

水産業、鰊、鱒(三九九)鮭、鱈(四〇〇)蟹、鰈、昆布(四〇一)臘胡獸(四〇二)鯨、海驢(四〇四)水産試驗場(四〇五)

第五章　都邑と交通……四〇六

稚泊連絡運航(四〇六)**大泊町**(四〇八)町の沿革(四〇九)第一期築港(四一二)出入貨物(四一四)王子製紙の大泊工場(四一五)樺太製藥株式會社等、神樂岡(四一六)亞庭神社、

表忠碑(四一七)鐵道泊榮線、南樺鐵道(四一八)**豐原町**、舊市街(四一九)豐原新市街(四二〇)王子製紙の豐原工場、樺太神社、樺太博物館(四二一)小沼の農事試驗場(四二二)落合町、樺太鐵道、榮濱(四二三)知取町、敷香(四二四)**眞岡町**、豐眞線(四二五)樺太工業の眞岡工場(四二六)築港(四二七)西海岸線、野田町(四二八)**本斗町**(四二九)同築港(四三〇)稚斗連絡(四三一)

第六章　沿革……四三四

間宮海峽發見以前の樺太探檢(四三四)露國使節の來朝と樺太の露寇(四三九)間宮海峽の發見(四四六)樺太境界に關する日露の交渉、プーチャチンとの談判(四四九)ムラビヨフとの談判(四五一)イグナチエフとの談判(四五二)スツレモウホフとの談判、樺太千島の交換(四五八)樺太の南半日本領となる(四六〇)

——目次終——

地理文庫

日本の誇　北海道、樺太

北垣恭次郎　著

第一編　北海道

第一章　沿革、區分及びアイヌ

名稱、區分　北海道とは北海道本島及び其の附近の島嶼並に千島列島に對する總稱である。此の地方は古來我が國の領土ではあつたが、其の位置が東北に偏して居る爲に、長く王化に霑はず、今のアイヌの先祖たる蝦夷の住地として容易に近づくことの出來ない處となつてゐた。國史を見ると、人皇第三十七代齊明天皇の四年に阿倍

比羅夫が齶田（秋田）、渟代（能代）方面の蝦夷を征伐した時、渡島の蝦夷人を有間濱に召集め、之を饗應して還したことがあり、尙翌年比羅夫は更に海を渡つて渡島の肉入籠に至り、後方羊蹄に郡領を置いて歸つたことがある。是等の土地が一々今の何處に當るかは判然しないが、渡島といふのは北海道本島の古名である。

其の頃、蝦夷人は渡島だけではなく、奥羽地方にも住んでゐて叛服常なく、奈良時代にも朝廷は屢〻將軍を奥羽地方に派遣して之を征伐せしめられたものである。其の後第五十代桓武天皇の御代に、坂上田村麻呂が征夷大將軍となり、又第五十二代嵯峨天皇の御代に文屋綿麻呂が征夷將軍として此の地方の蝦夷を征伐してから後、蝦夷人は次第に退いて渡島に住するやうになつた爲に、後には渡島を**蝦夷島**或は**蝦夷地**又は單に**蝦夷**とも呼ぶやうになつた。

さて、此の蝦夷島に和人（大和民族）が出入し始めた時代は判らないが、第八十二代後鳥羽天皇の文治五年源頼朝が大兵を率ゐて奥羽地方に攻入り、藤原泰衡を滅した時には、泰衡の部下にして蝦夷地に落ちのびた者が少くなかつたといふことであるから、それ以前から蝦夷地に入込んでゐた和人もあり、又此處に往來する和人もあつて、蝦夷地の樣子が奥羽地方の人には多少知られてゐたものであらう。

其の後、鎌倉時代には罪人を蝦夷地に流したことがあり、又僧日蓮の弟子**日持**の如きは布教の爲に蝦夷地に渡つたものである、室町時代になつてから、稍名を知られた武士で、此の地に移つたものが多少あるが、其の中特に名高いのは**武田信廣**である。信廣は源義光の子孫たる若狹の領主武田家に生れたが、譯あつて家を繼がず、國を去つて先づ關東に入り、更に奥羽地方に移り、終に蝦夷地に渡つて**松前**（今の福山）地方に勢力を得る緒を開いた。時は第百〇二代後花園天皇の享徳三年で、名高い應仁の亂が起つた年より十三年前、六代將軍足利義政の在職中であつた。其の頃此の地方に於ける名望家は蠣崎季繁であつたが、信廣は其の客將として當時猩獗を極めた蝦夷人を討平げ、遂に季繁の女婿となつて蠣崎を姓とし、居館を洲崎（桧山郡上國村大字北村）に

構へた。かくて信廣は第百三代後土御門天皇の明應三年六十四歳で歿したが、其の玄孫慶廣は第百七代後陽成天皇の天正十八年上洛して豐臣秀吉に敬意を表した。爾來慶廣は秀吉の眷顧を蒙り、遂に同天皇の文祿二年に至つて志摩守に任ぜられ、尙蝦夷全島の島主たる資格を得た。

其の後、秀吉が薨じて（慶長三年）、德川家康が五大老の筆頭として活動することとなつた所から、慶廣は同天皇の慶長四年大阪に上つて家康に謁し、同家の系圖と蝦夷全島の地圖とを献上して敬意を表した上、此の年姓を松前と改め、翌五年今の福山に松前城新築の工事を起した。其の工事の進行中、家康は征夷大將軍に任ぜられたが（慶長八年）、同九年「松前地方に出入する諸國の人々は、松前家の許可なくして蝦夷人と直商買をすることは相成らぬ」こととして、同家を保護した。其の後慶廣は第百八代後水尾天皇の元和二年六十九歳で歿したが、其の子孫は代々松前城（城の完成は慶長十一年）に據つて蝦夷全島の支配者たる資格を保つてゐたものである。さりながら松前家の政令の行はれた範圍は蝦夷地西南の一小部分に過ぎなかつたから、德川幕府に於ても、松前家を一萬石格の大名として待遇してゐたもの。蝦夷島の大部分は千島と共に殆んど放任の姿になつてゐたのである。

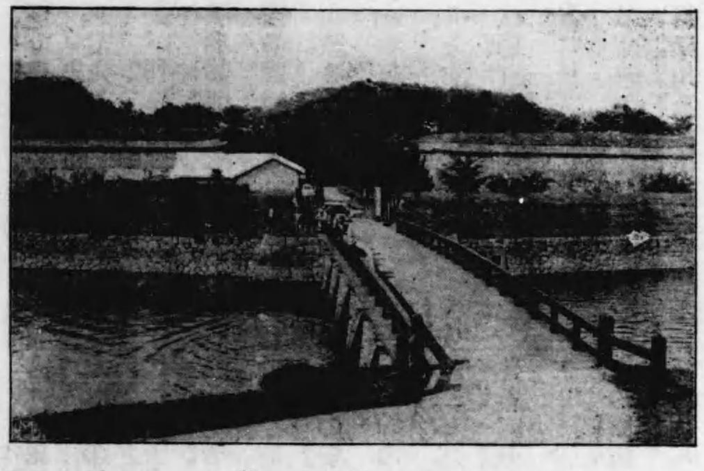
隨つて露西亞人は夙に目を我が千島に注ぎ、第百十四代中御門天皇の正德年間以來勘察加半島方面から南下して次第に千島列島に入込み、終には露國の使節が根室に來て、當時我が國が禁物としてゐた通商を請ふに至つた（第百十九代光格天皇の寛政四年）。幕府は其の要求を却けると同時に、露西亞に對して蝦夷地の警備を嚴重にすべき必要を悟り、寛政十年近藤重藏、最上德內等をして蝦夷地及び千島を視察せしめ、翌十一年東蝦夷地を幕府の直轄とし、南部、津輕兩藩をして其の警備に當らせることとし、尙高田屋嘉兵衞に命じて新に擇捉に達する航路を開かせた。

それより五年の後、卽ち文化元年九月露國の使節が長崎に來り、長崎奉行を經て再び通商の許可を幕府に願ひ出た。幕府は翌年吏員を長崎に派遣し、我が國法を述べて

彼れの要求を拒絶せしめた。露國の使節は大いに失望しながら長崎を辭して樺太方面に向つた。其の頃の事情は本書樺太の部に稍委しく述べることにするが、露人は通商拒絶の鬱憤をはらさんが爲、當時松前藩の支配地となつてゐた樺太南部の海岸を攻擊して掠奪を行ひ（文化三年）、更に千島の擇捉島を襲ひ（同四年）、尙再び樺太南岸を襲擊した（同年）。

幕府は益〻北門警備の忽せにすべからざることを知り、文化四年南部、津輕兩藩をして蝦夷地警備の兵を增させたのみならず、秋田、莊內二藩にも新に出兵を命じ、尙松前家を奥州梁川（今の福島縣下梁川町）に移して、蝦夷全島及び樺太南部地方を幕府の直轄とした。かくて翌五年には仙臺、會津二藩にも蝦夷地の警備を命じ、更に松田傳十郎、間宮林藏をして樺太を探檢させ、同六年には再び間宮をして樺太及び黑龍江下流地方を視察せしめた。以上の如く幕府は寬政十一年以來蝦夷地を直轄して鋭意其の警備に當つてゐたが、曩に梁川に移された松前家では轉封による實收入減少の苦衷を述べて恩典を懇願するのみならず、露國の我が國に對する態度の眞相も次第に明かになり、先年樺太、擇捉に加へた露人の暴行の如きも、露國政府の關知せざる所であることが判つた爲に、第百二十代仁孝天皇の文政四年蝦夷全島を再び松前家に還し與へ、奥羽諸藩から出してゐた警備兵を皆其の領地に還らせ、萬一の事ある場合に蝦夷地警備の應援をさせることとした。

然るに第百二十一代孝明天皇の安政元年幕府は米、英、露三國と和親條約を結び（和蘭との和親條約調印は安政二年）、是等の國々の船が薪水食料積入れの爲、函館に出入することを許した所から、翌安政二年二月松前、江差地方を除いた殘り全部の蝦夷地を再び幕府の直轄とし、南部、津輕、秋田、仙臺の諸藩に命じて蝦夷地の警備に當らせ（後には會津、莊內兩藩にも其の警備を命ず）、函館に函館奉行を置いて直轄地全部を支配せしめることとした。之が爲松前家の領地が著しく減少することとなる所から、幕府は奥州梁川及び出羽の東根を同家に與へ、尙年々金一萬八千兩を給與して三萬石の家格と



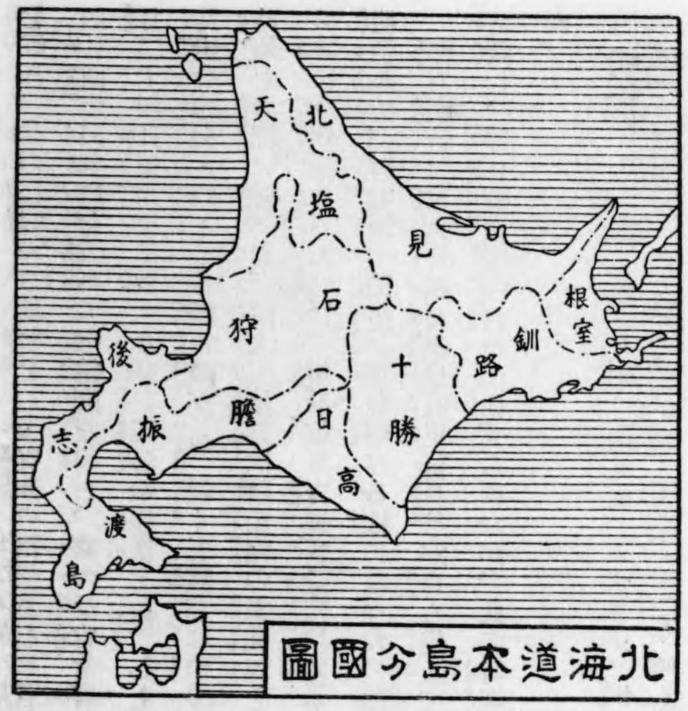
五稜郭

した。當時我が國内は開港、攘夷の論爭が盛に行はれ、幕府の威力も著しく衰へてゐた時であるから、函館奉行が直轄地全部を治めてゐたとはいへ、函館の**辨天砲臺**（安政三年起工、文久三年竣工）及び龜田の**五稜郭**（安政四年起工、元治元年竣工）の築造の外には特に見るべき施設はなく、土地の開拓の如きは殆んど行はれなかつた。

其の後、第百二十二代明治天皇の慶應三年十月德川慶喜が政權を奉還し、王政復古の新政が行はれることとなつたが、翌四年（明治元年）四月十二日五稜郭内の廳舍に**函館裁判所**を置き、其の長官たる總督をして從來の函館奉行に代らせた。然るに同年閏四月二十四日函館裁判所を改めて**函館府**と稱し、其の長官を府知事と改めた。然るに此の年十月二十四日德川家に對する薩長兩藩の態度を快しとしなかつた榎本釜次郎（武揚）、大鳥圭介等を主腦とする脱走團が勢鋭く五稜郭に迫つた爲に、府知事以下の職員は一時難を青森に避けた。爾來五稜郭は脱走團の根據地となつたが、翌二年官軍が大擧して之に攻擊を加へた爲に、榎本等も力盡き、遂に同年五月十八日を以て官軍に降つた。明治政府が蝦夷地の開拓に意を用ひる樣になつたのは是から後である。

即ち明治二年六月四日鍋島直正（閑叟公）が自ら進んで蝦夷地開拓の任に當らんことを奏請し、即日蝦夷開拓督務に任ぜられたが、此の時明治天皇は特に左の詔を賜はつた。

蝦夷開拓ハ皇威隆替ノ關スル所、一日モ忽ニスベカラズ。汝直正深ク國家ノ重キヲ荷ヒ、身ヲ以テ之ニ任ゼンコトヲ請フ。其ノ憂國濟民ノ至情、朕嘉納ニ堪ヘズ。獨リ恐ル汝高年遽ニ殊方ニ赴クコトヲ。然レド



北海道本島分國圖

モ朕之ヲ汝ニ委シテ始メテ北顧ノ憂ナシ。仍テ督務ヲ命ズ。他日皇威ヲ北疆ニ宣ル、汝ガ方寸ノ間ニアルノミ。汝直正懋哉。

かくて同年七月八日**開拓使**廳を民部省内に開き、八月之を太政官内に移したが、同月十五日蝦夷地の名を改めて**北海道**とし、同日全道を分つて渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路根室、千島の十一箇國とした。

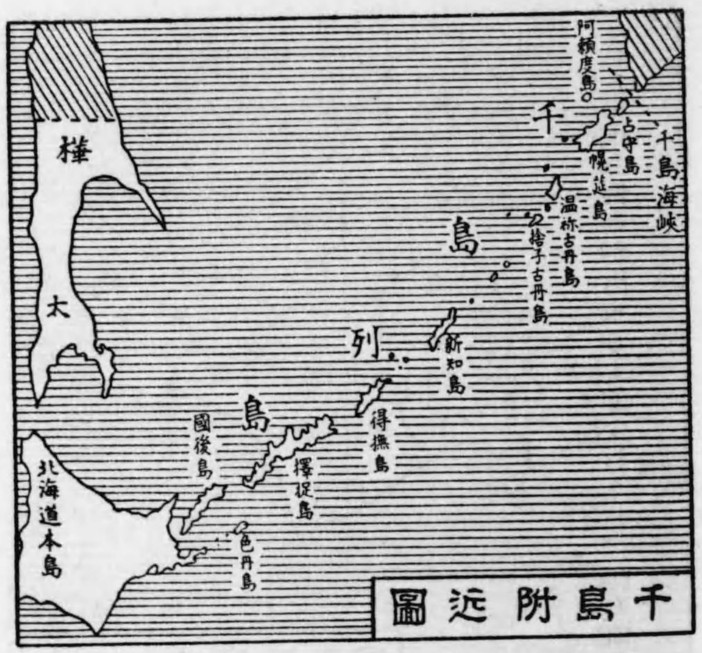
もつとも千島列島の内、得撫島及び其の以北の島々は日露和親條約（安政元年十二月二十一日調印）によつて露領となつてゐたのであるから、此の時の千島國は擇捉島以南の島だけであつた。

翌日鍋島直正は大納言に轉じ、**東久世通禧**が代つて開拓使長官となり、同三年閏十月九日開拓使廳を**函館**に移した（今の渡島支廳所在地）。併し函館は其の位置が西南に偏してゐて、全道の統治上に不便の多いことは明かであつたから、既に前年十一月十日開拓使判官**島義勇**は其の頃殆んど無人の一大森林であつた今の札幌市のある處に足を踏み入れ、此處を開拓使廳所在地とする豫定の下に繩張を始め、引續き新市街建設の工事を進めてゐたのである。同三年二月島判官は轉任を命ぜられて北海道を去つたが、其の計畫は着々實行せられ、同四年に至つて市街の區劃も終り、戸數も二百餘戸となり、略町の體裁を備へることが出來た。爲に此の年五月開拓使を此の地に移し、之を**札幌開拓使廳**と稱へ、翌五年九月更に**札幌本廳**と改稱した。北海道の拓殖事業は實に

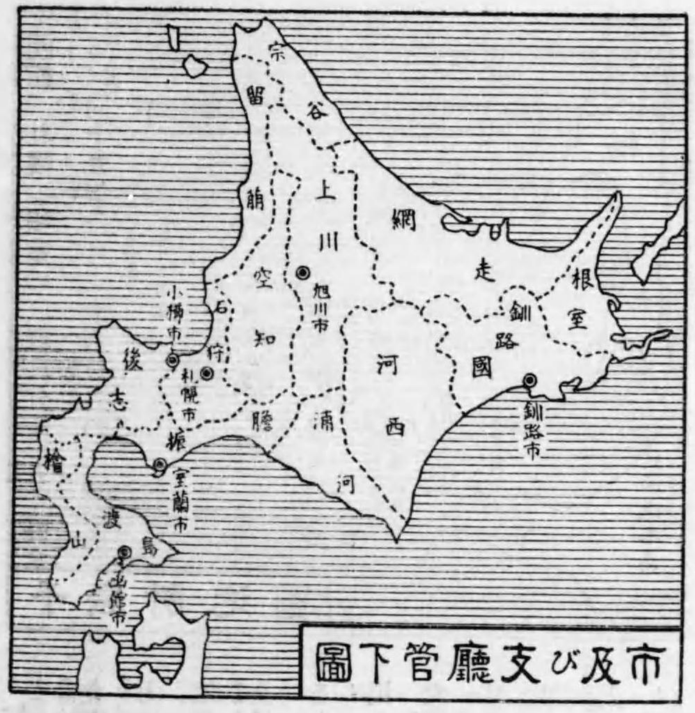
此の頃から本無臺に入つたもので、産業、交通、教育、衛生等各般に亘つて樣々な施設が行はれたものであるが、本道特有の**屯田兵**の制度が設けられたのも此の頃のことである。

屯田兵は本道の警備に當ると同時に開拓事業を促進する目的を以て編制せられたもの。內地各府縣より家族携帶の移住者を募集し、之を道內各地に配置して、土地、家屋、諸道具、食料等を給與し、軍事教育を受けしめつつ、一方に於ては家族と共に農業に從事せしめたものである。此の制度は明治六年十二月開拓使次官黑田淸隆が發案したもので、愈々**屯田兵例則**が出來たのは同七年十月三十日であつた。此の制度は同三十七年九月廢止になつたが、屯田兵によつて創設せられた村落（兵村）は道內諸處に殘つて居る。

さて屯田兵例則が出來るより少しく前、卽ち明治七年八月二日**黑田淸隆**が開拓使長官となつた。



當時特命全權公使として露都に駐劄してゐた榎本武揚は此の年八月下旬樺太に於ける日露の境界劃定の談判を始めたが、露國が樺太全島を露領なりと主張して讓らざるのみならず、我が政府が既に黑田の樺太無用論を採用するに決した後であつたから、翌**八年**五月七日に至つて**樺太千島交換條約**に調印した。此の事に就いては後に樺太の部に委しく述べることにするが、此の條約によつて、樺太全島



市及び支廳管下圖

は露領となり、得撫以北の島々が新に日本領となつたのである。是に於て千島列島全部が始めて日本領となり、此の列島全部を千島國と呼ぶことになつたのである。

其の後明治十五年一月十一日黒田は内閣顧問に轉じ（明治三十三年八月二十五日薨ず）、西郷從道（明治三十五年七月十八日薨ず）が長官になつた。併し翌二月八日開拓使は廢せられ、全道を函館、札幌、根室の三縣に分ち、各々縣令をして其の管下を治めさせることとした。

然るに同十九年一月二十六日右の三縣を廢して新に北海道廳を札幌に置き、北海道長官が全道の統治に當ることとなつて今日に及び、今は其の下に六市長、十四支廳長がゐて、直接其の管下の行政に當つて居る。市及び支廳の名稱及び市役所、支廳の所在地は左表の通りである。

市、支廳名	市役所、支廳所在地	支廳名	支廳所在地
札幌市	同上	空知支廳	岩見澤町
函館市	同上	上川支廳	旭川市
小樽市	同上	留萌支廳	留萌町
旭川市	同上	宗谷支廳	稚内町

室蘭市	同上	網走支廳	網走町	根室支廳	根室町	
釧路市	同上	膽振支廳	室蘭市	浦河支廳	浦河町	
石狩支廳	札幌市	浦河支廳	浦河町	釧路國支廳	釧路市	
渡島支廳	函館市	河西支廳	帶廣町			
檜山支廳	江差町	釧路支廳	釧路市			
後志支廳	倶知安町					

面積、人口　北海道本島は明治二年八月之を分つて十箇國とした關係から、一に十州島とも稱へる。之に附近の屬島と千島列島を加へた北海道全體の面積は**六千百五十五方里餘**あつて、四國、九州、臺灣の合計面積よりも稍廣い。元來土地も廣く、又天與の富も豐な處でありながら、何分にも住民が少い爲に、天賦の富を開くことが出來ず、土地の大部分は天然自然の密林に蔽はれて、熊や羆などの出沒する處となつてゐた。然るに我が政府は開拓使の設置以來、種々の特典を設けて內地人の移住を奬勵し、厚く移住者を保護して只管人口の增殖を圖り、以て盛に開墾事業を促した。のみならず內地の大資本家は夙に北海道に於ける天然資源に着目し、其の開發に投資することを怠らなかつた爲に、人口は年と共に增加し、陸に海に各種の產業が勃興して我が國の一大寶庫となすことが出來た。

今や全道の人口は約二百六十萬。之を明治二年に於ける總人口五萬八千四百六十七人に比較すれば、實に四十四倍餘に增して居る。併し之を全道の面積に配當すれば、一方里に對する平均密度は僅かに約四百三十人で、全國の平均密度の凡そ六分の一に過ぎない。由來我が國は土地狹くして住民多く、人口の稠密なることは世界屈指で、盛に海外發展の必要が唱へられて居る。然るに北海道は其の反對で、人口は今猶稀薄將來少くとも六百萬以上の人を養ひ得る見込みが立つて居る。

顧みれば我が政府は明治五年以來大正十三年までの間に、約二億五千百六十萬圓の國費を投じて開拓の事業を進めた。其の間に於て、本道の開拓上特に世の注意を惹いた計畫は**河島**（醇）長官（明治三十九年より同四十四年まで在職。同年四月二十八日薨ず）の立案たる**第一期拓殖計畫**である。此の計畫は明治四十三年以後十五年間に國費約七千萬圓を投じて、本道の殖産興業、道路の開鑿、橋梁の架設、土地の改良、河川改修並に港灣の修築等を行ふことにしたものであるが、中途から事業を擴張した爲に、實際支出した費用は一億六千萬圓以上に達した。

之が爲に、本道の面目は一新せられ、明治五年より大正十三年に至る間に、本道生産年總額は約百九十萬圓から次第に增して約五億三千萬圓に達した。其の後政府は我が國の實情に鑑みて、本道富源の開發、産業振興の必要を悟り、昭和二年度以後二十箇年間に約九億六千三百三十八萬圓の國費を支出して**第二期の拓殖計畫**を進めることとした。此の計畫遂行の曉には北海道に於ける各種の事業は更に刮目すべき發展を示すに相違なく、生産年總額は凡そ十五億圓に增加し、人口も大いに增加して六百餘萬を計上するに至るものと推定せられて居る。

禮裝せるアイヌ夫妻

想ふに、北海道從來の開發は主として官憲の施設、資本家の投資、移住者の努力によるものであり、將來の發展も亦主として是等の力によらなければならないが、茲に本道内には少數ながら古來本道土着の種族が住んで居る。それは人種學上世界の珍となつて居る**アイヌ**で、北海道といへば人が直ちに之を聯想する傾向のある程に珍らしい民族である。

アイヌ　は昔我が國に於て**蝦夷**と稱へた種族であり、現在法文上に於ては**北海道舊土人**といつて居るものであるが、今日もアイヌといふ名稱が最も廣く用ひられて居る。顧れば嘗てはアイヌ人間に語り傳へられて居る昔噺によつて、もと北海道には**コロボックル**（コロボックングルともいふ。蕗の下に居る人の義）といふ別種の民族も住んでゐたもので、體は至つて小さく、穴居してゐたものであるが、之をアイヌが征伏したものか、或は自然に絶滅したものか、兎に角和人（大和民族）との接觸交渉が起るより前に滅びたものだといふ說が行はれたことがある。若しもコロボックルが住んでゐたことがあるとすれば、其の證據となるものが遺つて居るべき筈であるが、小人の遺した地名もなければ、遺物、遺跡もない。それ故今ではコロボックルはアイヌの間に傳はるお伽噺の材料となつた假想の民族であるといふことになり、コロボックルの實在を承認する人はない。

さてアイヌは昔は單に北海道のみならず、廣く本州及び九州方面にも住んでゐて、屢和人に苦痛を與へたものと見える。元來アイヌには特有の文字も記錄もないのであるから、其の來歷を知ることは出來ないが、我が國史には彼等を蝦夷或は東夷と稱して其の叛亂鎭定の軍を差向けたことが度々出て居り、又富士山の**フジ**、利根川の**トネ**或は能登半島の**ノト**の如く、アイヌ語に基づく地名が內地には少くない。今、日本書紀を開いて第十二代景行天皇の條を見ると、

> 蝦夷は性質强暴で、爭鬪を事とし、冬は穴に宿り、夏は樔に住む。山を登ることは飛鳥の如く、草原を走ることは獸の如し。恩を受けては之を忘れ、仇を見れば必ず報ゆる。擊てば草に隱れ、追へば山に入る。太古以來曾て王化に從つたことがない。

といふ意味の記事がある。此の記事の全部が果して其の頃の蝦夷の狀態を正しく示してゐるか否かは判然しないが、當時の蝦夷は其の數も多くて、侮り難い勢力を備へて居り、しかも屢我が良民を苦しめる獰猛な種族であつたに相違あるまい。又第四十五代聖武天皇の神龜元年に大野東人が築いた**多賀城**は蝦夷に對する警備の爲の城砦で、

今に其の址が宮城縣岩切驛の東方約三十町の處に在り、尙第五十代桓武天皇の延曆二十一年に坂上田村麻呂が築いた膽澤城も蝦夷に備へる爲の城で、其の址は岩手縣金崎驛の東南約半里の地に殘つて居る。どちらを視ても大規模のもので、當時蝦夷に對する警備には餘程の力を注いだものだといふことが判る。

然るに、現在のアイヌは北海道と樺太とに住んで居るだけで、其の分布區域も狹く又其の數も少い。其の上性質も頗る溫順で、嘗て大和民族を惱ました蝦夷の子孫だとは思はれない程に素直である。其の何故であるかを徵すべき記錄がない爲に、其の原因は判らないが、彼等が大和民族に對する反抗心を失つてから後は、次第に蝦夷地に退いて大和民族との接觸を避け、主に狩獵及び漁業によつて生活を營むだけで、統一した社會を組織することが出來なかつたものらしい。

元來、アイヌの生活樣式は簡單で、オヒョウと稱する樹の皮の纖維を織つたアッシを被服とし、姥百合、粟及び魚貝鳥獸の肉を食料とし、掘立家屋に起臥してゐたものであるから（古くは冬季穴居したこともある）、土地は廣く、人は少く、又天然資源の豐富な蝦夷地に於ける彼等の生活は極氣樂であつたに相違あるまい。もつとも彼等の部落同士の間に屢爭鬪は起つたものだといふことであるが、戰つて敗北すれば、住居を他に移しさへすれば、安全に生活することが出來たのである。現に室蘭線白老驛附近の白老土人部落の如きは、出入が便利な爲に、視察者の特に多い處であるが、もとは日高のアッペッにゐたもので、部落間の爭鬪に敗れた結果、逃れて此處に移住したものだといふことである。斯樣な部落間の爭鬪が何時頃まで續いたものかは不明であるが、同種族間の爭鬪は自らアイヌの人口增加に對する多少の障害となつたものであらふ。松前藩が蝦夷地を支配する樣になつてからは、彼等が和人と接觸する機會が次第に多くなつたものらしいが、兩者の間に爭鬪といふべき程の衝突はなく、主として物品の交易が行はれたものらしい。現に今日アイヌが家重代の寶物として大切に保存して居る物の中には內地製のものが頗る多い。

幕末に至つて德川幕府が蝦夷地の警備に意を用ふる樣になつてからは、內地から蝦夷地に渡る和人が多少多くなり、アイヌの事情も稍明かになつた譯であるが、當時既にアイヌの數は多からず、北海道廳の記錄によれば、文化六年に於けるアイヌの總人口は二一、六九七人であるが、それより十三年後の文政五年には二一、七六八人となり、更にそれより三十二年後の安政元年には一六、一三六人となつて居る。明治維新以後連續的戶口調査の行はれたのは明治五年からであるが、同年には一五、二七五人を計上し、それより五十五年後の昭和二年末には一五、六八二人となつてゐて、其の增率は極めて少い。玆に其の主なる原因と見るべきものを擧ぐるに、(一)元來アイヌは山野湖海を跋涉して捕獲した禽獸、魚族の肉を主要食料とし、姥百合、キトビル(一名アイヌ葱)、其の他天然の草木、果實等を併せ用ひてゐたものであるが、明治以後開拓事業の進むにつれて、和人の爲に其の領域を狹められ、食料を天然資源にのみ仰ぐことが困難となり、穀菽類、馬鈴薯等を常食とする樣になつて來た。かく彼等の食料に變化を來したことも彼等の體質を低下せしめて居るらしく、ひいては彼等の意氣をも銷沈せしめて居るらしい。又(二)アイヌは元來衞生思想が幼稚で、病氣に對する豫防法は固より其の治療法を知らず、隨つて激烈な苦痛を感ずる重患でなければ醫師の診察を避ける傾向がある。併し實は彼等の間には肺結核、黴毒、トラホーム等の患者が少くなく、次第に體質を薄弱ならしめて居るといふことである。其の外(三)過度の飲酒、(四)幼兒保育法の不完全、(五)血族結婚の弊なども與つて大いに力があるのである。打棄て置けば彼等の數は減少するばかりの恐れがある爲に、彼等を敎育し、保護する必要があるのは明かなことである。

然るに開拓使時代には主として力を土地の開發に用ひた關係上、アイヌに對する施設には殆んど見るべきものがなかつた。所が明治十六年三月十三日畏くも明治天皇は**アイヌ敎育資金**として金一千圓を御下賜あらせられた。當時北海道は三縣(函館、札幌、根室)分立時代であつたが、三縣共に聖旨を奉體してアイヌ兒童の就學を督勵し、敎

員の俸給、生徒の學資等を縣から補助することとした。之によつて始めて秩序ある土人教育が起つたものである。

其の後明治三十二年三月二日我が政府は**北海道舊土人保護法**を公布し（同年四月一日より施行）、國費を以て土人部落に小學校を設け、益〻其の子弟の就學を督勵した爲に、土人教育の施設は一段の進歩を見るに至り、現在國費による土人小學校は全道中に十餘校ある。修業年限、教科目等は和人小學校通りで、就學歩合も頗る良いが、其の學業成績を和人の兒童に比較すれば稍劣つて居り、殊に智能教科の成績は技術教科よりも不成績である。併し由緒ある家柄に生れた者及び和人との間に生れた混血兒中には比較的良好な成績を示して居る者もある。

此の外、北海道舊土人保護法は土人全般の保護救濟の道を講じたもので、農業希望のアイヌに對しては、一戸につき農業に適する未墾地五町歩以内を給與し、農具、種子をも補給して彼等の生活の安定を圖り、貧困者、不具者、老衰者には救助米、藥價、埋葬料等を給與し來つたが、大正九年以後は多數の土人の集團地に**土人病院**を設け、藥價及び入院料の半額は之を北海道廳が補助することにして居る。現在土人病院は靜内、平取、浦河、白老の四箇所に在るが、其の他の市町村内に混住するアイヌの爲には大正十二年六月以來**土人救療所**を設け、市町村長より交付する救療券持參者に施療して居る。今全道の土人救療所は凡そ百六十箇所に上つて居る。

尚右の外、アイヌの戸數十戸以上を有する市町村には、**土人保導委員**を置いて其の保護指導に當らせ、以て生活の安定と向上とに努めて居るのである。然るに既に述べた通り、北海道に於けるアイヌの總數は一萬六千人に達しないのであるから、如何にも心細く感ぜざるを得ない。併し茲にアイヌの人口增加の著しくない理由として看逃すことの出來ないものがある。それはアイヌの女子が和人と結婚することを名譽とし、和人に嫁ぐものの少くないことである。和人の家に嫁いだ當人は統計上土人として計上せられるけれども、和人との間に生れた混血兒は之を和人として計算するので

あるから、此の事からも統計上アイヌの增加率は少くなる譯である。

さて、我が官憲以外、アイヌの保護救濟に關して特記すべき篤志家に神學博士**ジョン、バチェラー**氏のあることを忘れてはならない。氏は英國人であるが、アイヌの教化傳道の目的を以て明治十年に來朝した。時に年は二十三歳。爾來氏は終始一貫アイヌの教化に全力を注ぎ、私財を傾倒して其の啓發保護に當つて居る。其の間に氏はアイヌに關する一切の研究を遂げ、アイヌ語辭典を始め、アイヌに關する貴重な調査を發表して汎く世の欽仰する所となつて居る。今や（昭和五年）氏は七十六歳の高齡であるが、アイヌの保護指導を以て畢生の事業とし、大正九年三月以來札幌市内に**アイヌ保護學園**を開設して居る。同學園はアイヌ子弟中の優秀者を收容し、一切の費用を給與して中等以上の教育を受けしめ、以て將來アイヌの指導者たらしめんとするものである。かかる次第であるからアイヌは氏を「アイヌの慈父」として絶大の尊敬を拂ひ、我が學界は氏をアイヌに關する權威者として仰ぎ、朝廷は氏の功績を認めて勳四等に

アイヌと其の住家

叙せられ、北海道廳は大正十二年以來氏を道廳囑託として今日に及んでゐる。

茲にアイヌの分布を見るに、函館、小樽、札幌三市を除いた外の三市及び十四支廳各管内には、それ〴〵多少のアイヌの部落があるが、最も多いのは浦河支廳管内で、五千數百人住んで居り、膽振支廳管内が之に亞いで三千數百人、河西支廳管内は更に之に亞いで千數百人住んで居る。

顧みれば、開拓使設置以前アイヌに接近した内地人中には、素質の良からぬ者もあつた爲に、彼等は内地人に對して猜疑心を懷いて

ねたものである。然るに其の後我が官憲の保護指導が宜しきを得たのみならず、彼等に接近する我が移住者の態度も良くなつた爲に、次第に大和民族を信頼する樣になつた。隨つて彼等は何時とはなしに内地人化して生活の程度も多少高まり、内地產の織物を身に纏ひ、又内地流の食物をも口にする樣になつて居る。

無論現今に於てもアイヌの老人連中には古來の遺風が殘つてゐて、髮形、身支度等に著しい相違があり、中年以上の婦人は口の周圍や手に文身を施して居るから、一見直ちに異種族たることが判るが、青年子女に至つては其の外見は内地人と異らないものが多くなつて居る。無論今日に於ても彼等の信仰、儀式などは古來の遺風を承け繼いで居るから、内地人の珍しく感ずることも多いが、彼等も等しく帝國臣民であるから、大和民族と同じく納稅、兵役の義務もあり、又名譽職にも就き、或は官吏となり、或は衆議院議員を選擧する權利等をもつて居る。

熊祭はアイヌの行ふ儀式中、最も有名なものであるが、アイヌが毎戸之を行ふ譯でもなく、又之を行ふ月日が一定して居る譯でもない。尙其の儀式も地方によつて多少の相違があり、之を行ふ意味も土地によつて全く一致して居る譯でもない。

併し熊狩の際に獲た仔熊を持歸り、之を屋外の檻に入れて一年内外飼育した上、多くは滿二歲に達せぬ中に、之を殺して神に供へ、更に大宴會を開くことに變りはない。之を行ふ時期は大抵冬であるが、殺すべき仔熊がない場合には、無論此の式を擧げることは出來ない。

熊祭を行ふ趣意は土地によつて言傳へが必ずしも一致してゐない。或る部落では仔熊を山神の使者と心得、之を愛育した上、殺す時には、其の靈魂が山神の許に行つて、生前愛育せられた狀態を報告する。山神は滿足して飼主に幸福を授けるものだと考へて居る。然るに他の部落では殺された仔熊の靈は、其の父祖の靈の所在地を訪うて、一年内外愛育を受けた飼主の善行を報告する。父祖の靈は感謝の意を表する爲に、幸運を飼主に與へるものだと信じて居る。此の外に又別の考へ方もあるやうであるが、結局自家の幸福を祈る爲の儀式と見れば差支はないやうである。いづれにしても仔熊に取つては誠に迷惑なことである。

熊祭（熊送ともいふ）の準備としては、先づ之を行ふ家で酒を釀造する。酒が造られた後に、日を定めて親戚知人を招待する。式に參列する男子は父祖傳來の式服を着け、陣羽織を着飾り、肩

から式刀をかけ、冠を戴き、女も美服を纏ひ、耳輪、頸飾をつける。先づ屋内で神を祭る儀式を行つた後、屋外に設けられた祭壇前の式場に出る。此處で再び神を祭つた上、仔熊の頸に繩をかけ、檻の外に出して式場につれ出す。かくて仔熊をして幾遍となく式場を駈け廻らせ、疲勞するのを待つて花矢（儀式用の矢）を放ち、最後に丸太の間に仔熊の頸を入れて搾め殺すのである。其の屍體は祭壇前に供へられ、飼主の祈禱があつて式が終れば、仔熊の皮を剝ぎ、頭骨だけは永久祭壇に棒の先にさして置かれるが、胃は藥用、肉は食用として親戚知人等に分配せられる。

以上の儀式中、參列者は酒を飲み、婦女の踊もあるのであるが、式後屋内に於て大宴會が行はれ、殆んど徹夜で酒を飲み、興到れば或は歌ひ、或は踊るのである。隨分慘酷な儀式であるが、アイヌの間では仔熊の靈は山神或は父祖の靈のある處に歸るので、當然歸るべき處に復歸するのであるから、仔熊の爲に幸福であると思うて居るのだといふことである。

併し、仔熊の殺される場合には、日頃飼育の任に當つた主婦は、悲痛な聲を放つて泣き悲むといふことである。

アイヌの外、千島の色丹島内には、**色丹土人**と稱する別種の民族が住んで居るが、之は便宜上、千島の章に述べることにする。

第二章　地勢

一　海岸の出入

北海道本島はオホーツク海、太平洋及び日本海によつて圍まれる大島で、島の胴體と見るべき部分の外形は大體菱形をなし、海岸の出入は極めて少い。併し其の西南部から南方に出て居る半島狀の肢體は之を**渡島半島**と稱へて、其の海岸の出入は稍複雜。其の上海岸段丘の著しく發達して居る處が少くない。島全體の輪廓は尾を一方に振向けた赤鱓の如しといふ人もあり、又若し千島列島を逃去らうとする小魚と見るならば、北海道本島は之を追ふ大魚の如しと見立てる人もある。誰が言ひ始めたものか、わざ〳〵詮議する程の問題ではないが、由來北海道近海は魚類の多い處。島の輪廓を魚に見立てたのは、好い思付である。

さて、渡島半島の南部は龜田、松前兩半島に分れ、津輕海峽を隔てて奥羽地方の青森縣と相對して居る。龜田半島の東端は之を惠山岬といひ、青森縣の尻屋崎と相對立して海峽の東門を固め、又松前半島の南端なる白神岬は同縣龍飛崎と相對して海峽の西門を守るものの如くに見える。

元來津輕海峽は太平洋と日本海との相通ずる通水路。國防上の要地であるから、龜田半島の南端なる汐首岬附近と其の對岸なる大間崎（青森縣下）附近及び當海峽北岸中部の函館附近の海陸は要塞地帶に編入せられて居る。汐首、大間兩岬の間が此の海峽中最も狹い處で、其の幅は僅かに九海里餘に過ぎない。然るに此の海峽の南北によつて生物の分布に著しい相違がある。例へば蝦夷松、椴松は北海道到る處の森林に繁茂して居るが、内地にはなく、又内地の山林に棲む猿や猪は北海道には棲んでゐないといふが如く、内地に有つて北海道に無く、又北海道に有つて内地に無いものが少くない。此の事は特に深く鳥類を研究した英人ブラッキストン氏が言ひ出したことで、津輕海峽が生物分布上の著しい境界線となつて居る所から、生物學上此處に一線を設けてブラッキストン線と呼んで居る。氏は文久元年函館に居を定め、其の所有船を回航して對支及び對露の貿易を營み尚函館青森間並に函館室蘭間の定期航海業を經營してゐた人で、函館に於ける文化的施設に對しても貢献することの少くなかつた人であるが、業務のかたはら頻りに鳥類を採蒐し、其の剝製を英、佛、米諸國の博物館に贈り、函館博物館へも三百二十餘種

千三百三十八羽の剝製を寄贈した。かくて鳥類を基礎として津輕海峽が動物分布上の著しい分界線たることを發表したものである。氏は明治十七年函館を去つて米國に渡り、同二十四年五十九歳で歿したが、函館に於ける其の住宅は今の船場町近海郵船會社支店構内に在つたものである。

白神岬を西に廻つて昔の要津松前（今の福山）を過ぎ、日本海に出て、渡島半島の西海岸を北上すれば、固より多少の屈曲はあるが、甚だしい出入はなく、近海の屬島も小島、大島、奥尻の三島あるのみで、頗る單調である。此の方面に於いて稍著しい灣を求めるならば、辨慶岬と積丹半島との間の海面で、其の北部を**岩内灣**、南部を**壽都灣**と稱へる。併し之とて深く入込んだ灣ではなく、兩灣一續き開き放しの淺い入込である。餘談に亘るが、此の灣に注ぐ川に尻別川といふのがある。昔齊明天皇の六年に阿倍比羅夫が蝦夷人を案内者とし、舟師二百艘を率ゐて肅慎（靺鞨）の征伐に向ひ、大河の河畔に於て其の所在を探知した上、彼等と戰つて勝を制し、首尾よく凱旋したことがある。其の大河の位置が不明である爲に、或は之を露領西比利亞の黑龍江とする説もあり、或は北海道の石狩川とする説もあるが、近來は此の尻別川なりとする説もあらはれ、往時奥滿洲地方に住んでゐた肅慎人の一部が、此の川の流域地方に移住してゐたものであらふといふ人もある。

積丹半島は人目を惹く大きな半島。其の北端は積丹、神威の兩岬に分れて居る。其の内**神威岬**は古來アイヌが神聖視した處。崖岸高く聳えて海波と鬪ひ、オカムイ、メノコの兩岩を始め幾多の奇巖が海中に削立して雄大な風景を示して居る。尚昔は和人の女子が此の岬より奥地に航海することを禁じた時代があつたもので、若し此の禁を犯すならば、忽ち魔の神の怒に觸れて神罰を蒙るものとしてあつた。俗謠追分の文句に

忍路高島及びもないが、せめて歌棄磯谷まで

といふのがあるが、之は其の頃漁夫が此の方面に出漁する場合に、其の留守を守る婦

忍路港

人の心情を述べたものだといふことである。無論今日は女人の禁制もなければ、魔の神の祟を信ずるものも無く、

忍路高島昔の事よ、せめて行きたい
露西亞まで

と唄はれる世の中になつて居る。忍路は積丹半島東頸部の余市から小樽港を擁する高島半島に至る間に在る一小港であり、歌棄、磯谷は壽都灣邊に在る土地の名である。

小樽港に就いては、後に都會の章に於て委しく説明することにするが、小樽から北方に向つて本島の北端に至る間の海岸は極めて單調で、弓形の海岸が連續して居るに過ぎないから、人目を惹く出入はなく、又石狩、天鹽の國境附近は山脚が海に迫つて峻嶮な岸になつて居るが、其の他は平坦な砂濱ばかりで、一向變化がない。近海に於ける屬島も苫前沖に燒尻、天賣の二島と、之より遠く北に離れて利尻、禮文二島があるに過ぎない。

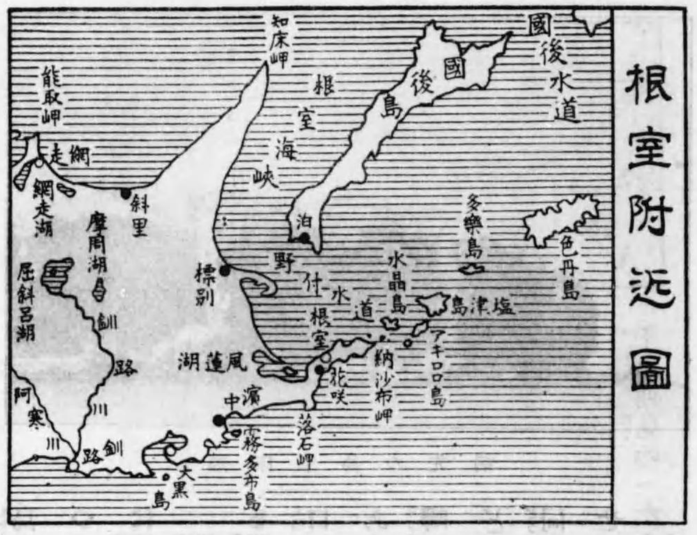
宗谷海峽附近圖

本島の北端部を見れば、樺太との間なる宗谷海峽に向つて二つの岬が突出て居る。共に丘陵性の岬であるが、西に在るのがノッシャプ岬、東に在るのが北海道本島最北

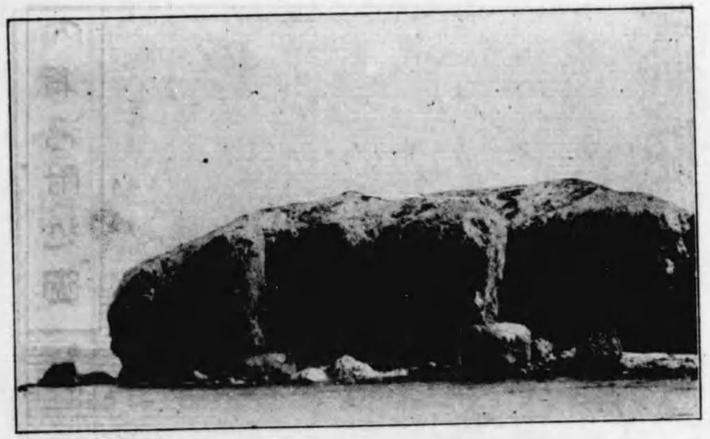
の**宗谷岬**で、其の間の灣の奥に樺太に對する要津**稚内**の港がある。

次にオホーツク海に臨める北見の海岸を見るに、宗谷岬より**知床半島**の根基部附近に至るまで、一大弓形の海岸をなし、其の大部分は平坦な砂濱で、本邦中稀に見る平滑な海岸である。隨つて此の海岸には砂丘が多く、其の内部に潟湖を湛へて居る處も少くない。其の内特に大きいのは**猿澗湖**で、其の面積は凡そ九方里。其の水は極めて細長い砂嘴（長さ約七里、幅二、三町）の一角を破つて海に通ずる。

知床半島は山勝な半島で、斷崖を以て海に迫れる處が多いが、内外兩面共に海岸の出入は極めて少い。同半島の外側は千島列島の一たる國後島と相對して其の間に**根室海峽**を挾み



同海峽は南に續く**野付水道**と共にオホーツク海と太平洋とを連絡する重要な水路となつて居る。野付水道の西岸一帶も出入の少い砂濱であるが、**野付**と稱する奇形の砂嘴及び面積約三方里の潟湖たる**風蓮湖**などがあつて單調を破り、尚**花咲半島**が突出して其の北に**根室灣**を湛へて居る。**花咲半島**は高臺性の半島で、稍屈曲に富み、北岸に**根室**、南岸に**花咲**の港を有し、南端には無線電信局の所在地として知られたる**落石岬**がある。同半島の東端は之を**納沙布岬**と稱し其の近海には水晶、鹽津、多樂、色丹等の



知床半島の先端

島々があつて、半島の延長線上に飛石の如く列つて居る。其の中最も大きい**色丹島**は千島列島に屬するのである。

落石岬から太平洋岸を西すれば、**釧路港**に至る間には**濱中灣**、**厚岸灣**などがあり、前者の灣口には霧多布島、後者の灣口には大黒島などもあつて、多少の變化があるが、釧路港から**襟裳岬**に至る間の海岸は弓形の平滑な海濱で、殆んど出入がない。襟裳岬から室蘭港に至る間も亦同樣である。**室蘭港**は東南二方を鞆鞆半島に擁せられ、口を西北に開いて內浦灣に通ずる。**內浦灣**は殆んど圓形をなせる一大灣で、一度

灣內の人となれば、諸方に火山を望み得る爲に一名を**噴火灣**或は**火山灣**ともいふ。其の海岸は室蘭附近の外には見るべき出入はなく、又灣を出て惠山岬に至る間の海岸も同樣である。

千島に關することは、一括して本編最後の章に述べることにする。

二　山脈と山

北海道本島の胴體部には、大體南北に走る數條の山脈と、略東西の方向を取る一條の火山脈とがあつて地體の骨骼をなし、肢體部（卽ち渡島半島部）には一筋の火山脈が通つて居る。先づ有名な蝦夷山脈から述べることにする。

蝦夷山脈は宗谷岬に起り、南方に向つて終に襟裳岬に達する山脈である。然る

に其の中央部は、後に述べる千島火山脈との交錯地に當り、數多の火山が群在し、蝦夷山脈を中斷する形になつて居る。爲に本來一つの山脈ではあるが、火山地體以北の蝦夷山脈を**北見山脈**（一名天北山脈）といひ、以南を**日高山脈**と呼んで居る。**天鹽岳**（一五九〇米）は前者に屬し、**ピパイロ岳**（二〇一七米）は後者に屬する著しい峯であるが、兩脈共に一般に高からず、しかも本島中最も著しい分水嶺になつて居る。

北見山脈の西方を見れば、之と天鹽川の流域を隔てて略南北に走る山脈がある。之を**天鹽山脈**と呼び、此の方面に於ける分水嶺にはなつて居るが、著しい高山はない。此の外日高山脈の北西に當つて南北に走る山脈がある。之は**夕張山脈**で、地下に石炭を埋藏することの多い山脈であるが、特に擧ぐべき高山はない。

以上の蝦夷山脈及び天鹽、夕張兩山脈を總稱して**蝦夷山系**と呼んで居る。

千島火山脈　は露領勘察加半島より南西に向つて、オホーツク海と太平洋との境界線上に千島火山列島を起し、更に北海道本島に渡つて知床半島となり、屈斜路、阿寒の兩火山群を造り、尙西に延びて蝦夷山脈と交り、其の交錯部に大雪火山彙、石狩岳、十勝岳等を有する一大火山脈である。

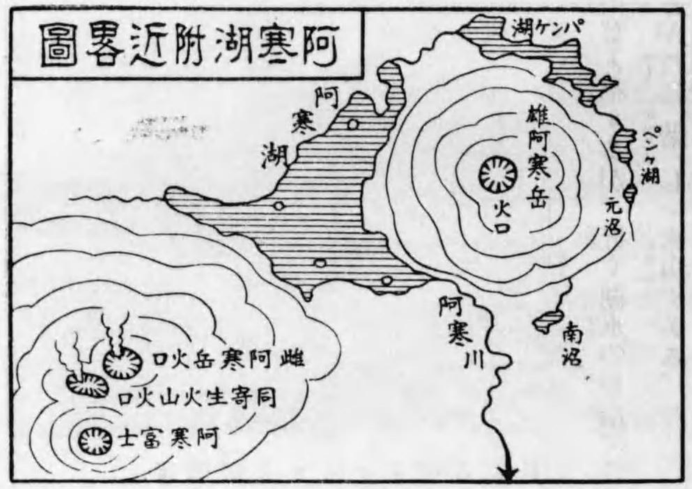
屈斜路火山群　釧路港の北方約二十里に**屈斜路湖**といふ湖がある。之は周圍十二里半、面積五方里餘の湖水で、釧路川の水源であるが、千島火山脈に屬する一つの大きな火山地體の凹處に水が溜つて出來たものである。此の附近は大小の火山が群在する處で、屈斜路火山群と稱せられ、湖中にも**トーモシリ**といふ二重式の火山が島となつて表れて居る。湖畔の火山中有名なのは**跡佐登**（四六〇米）といふ二重式火山で、現に盛に硫氣を吐き、山中諸處で硫黃の採掘が行はれて居る。

摩周火山　屈斜路湖の東方約四里に摩周といふ二重式の休火山がある。其の中央火口丘は之を神居岳といひ（九一八米）山頂に火口址が殘つて居る。其の西麓に在る**摩周湖**は周圍凡そ六里、面積一方里餘の火口原湖であるが、其の水は地下の伏流となつて何處へか向ふものと見え、地表には排水口が見えない。

阿寒火山群

屈斜路湖の南西數里の地に**阿寒湖**といふ湖がある。阿寒川の水源で、其の面積は一方里未滿。**姫鱒**の原産地とし、將又**毬藻**と稱する濃綠色、球狀の藻の特産地として有名な湖水である。毬藻は直徑二寸內外のものが多いが、往々八寸に達するものもあつて、誠に見事なもの。世界的の珍品であるから、天然記念物として保護せられて居る。

此の湖水の四近一體も亦幾多の火山、溫泉などのある一大火山地域で、之を阿寒火山群と稱するが、近く湖水の東岸に聳ゆる雄阿寒岳と、湖水の南西方に在る雌阿寒岳とが特に著しい火山である。



雄阿寒岳（一五〇九米）は整然たる圓錐形の休火山で、山頂に噴火口址が殘つて居る。山の西麓に阿寒湖があるだけではなく、南麓には南沼といふ小な水溜があり、東麓には元沼及びペンケ湖、北東麓にはパンケ湖があり、元沼以下の三湖は小水路を以て相連り、終に流れて阿寒湖に注いで居る。是等の湖水は皆堰止湖で、嘗て雄阿寒岳が活動中、麓に向つて流し出した熔岩流が水の流れを堰止めた爲に出來たものである。

雌阿寒岳は阿寒湖の南西方に座を占めて居る火山塊の主峯で、山頂の噴火口內數箇處か

阿寒湖より見たる雌阿寒岳

ら盛に噴烟して居る。其の上此の噴火口の南西壁を破つて寄生した小火山の火口壁の一部からも噴烟して居る。此の小火山の頂が雌阿寒岳の最高點で、海拔千五百〇三米ある。其の南に近く**阿寒富士**（一四七六米）といふ圓錐形の寄生火山がある。之は現在活動を休止し、其の火口の底には水を湛へて居る。

大雪火山彙　千島火山脈が北海道本島胴體部の中央部に於て蝦夷山脈と相交錯して居ることは既に述べたが、其の場處は石狩、十勝の國境附近で、此の地方を一大火山地域たらしめて居る。隨つて此の地方には火山が頗る多いが、特に有名なものは旭岳を主峯とする大雪火山彙で、旭川市を含む上川盆地の東方に座を占めて居る。

當火山彙の中央部に直徑半里餘圓形の**大噴火口**があつて、其の周圍に北鎭、北海、松田、荒井、中ノ岳等の諸峯を見る。併し是等の峯は皆火口壁中の隆起部に與へられた名稱で、別々の火山ではない。其の火口の底は之を御鉢平と稱し、海拔凡そ一九〇〇米。火口壁中の最高部たる北海岳は二一六一米で、此の火山彙の最高點ではないが、位置から見れば此の大噴火口が當火山彙の中心に當つて居り、火口底中には今尙硫化水素を噴出す溫泉がある。

大噴火口に近く其の南西に**熊ケ岳**といふ峯（二二〇一米）がある。今は活動してゐないが、其の頂に直徑約三町半圓形の火口が殘つて居る。此の休火山の南西に方り、更に高く聳えて居る山が有名な旭岳で、もとはヌタクカムウシュペといつた山である。**旭岳**は海拔二二九〇米の高度を有し、一に大雪山とも呼ぶ。當火山彙中の最高點

たるのみならず、北海道本島中の最高峯である。山上に地獄谷といふ長楕圓形の爆裂火口（長徑約十町、短徑四町餘）があつて、其の底から盛に硫化水素や亞硫酸瓦斯等を噴出して居る。此の山の東に接して**後旭岳**（二二三〇米）といふ休火山がある。山頂に噴火口址はあるが、極めて淺く、僅かに皿狀の凹を見せて居るに過ぎない。

後旭岳の東方に**白雲岳**（二二二九米）といふ休火山がある。其の山上に火口址はあるが、其の内部に圓頂丘が出來て居り、丘頂にも火口址と見るべき凹がある。

又最初に述べた大噴火口の北西方に一大爆裂火口址と見るべき深い谷があつて、其の縁に愛別、比布、永山の三山が聳えて居る。是等の山は爆裂火口壁の凸起部であるらしく、火口址と見るべきものは殘つてゐない。

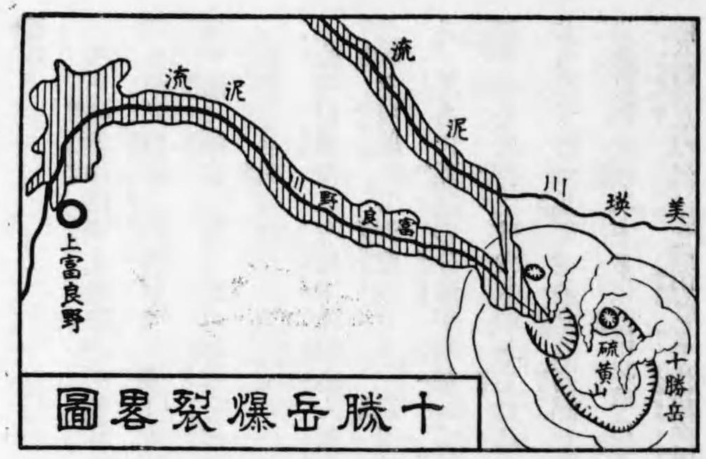
以上の外、大噴火口の北方には北鎮岳、鋸岳、凌雲岳、上川岳があり、北東には桂月岳、黑岳、東方には烏帽子岳、赤岳、小泉岳などがある。尙白雲岳の南方には松浦岳、小白雲岳があり、後旭岳の南方には小旭岳

層雲峡より見たる黒岳・桂月岳・凌雲岳

岳、旭岳の北方には前旭岳がある。是等の峯は何れも當火山彙中の著しい山ではあるが大抵熔岩塊より成る隆起體で、火口址を示してはゐない。

當火山彙中には數多の**雪溪**（萬年雪）があり、又諸處に高山植物より成る**御花畑**があつて、夏は色の殊に鮮麗な花が咲滿ち、登山者の目を喜ばせる。又山麓地方には松山、鹽谷を始め幾多の溫泉が湧出して居り、松山溫泉附近には天下の巨瀑に數ふべき**羽衣ノ瀧**が懸つて壯觀を示して居る。毎年夏季には登山者が多く、山中二箇處に石室が設けてある。

十勝岳　大雪火山彙の南方に當る石狩、十勝の國境にも石狩岳、オプタテシケ、十勝岳を始め幾多の火山があるが、其の中最も有名なのは十勝岳である。十勝岳は鐵道富良野線（旭川、下富良野間）中の一驛上富良野の南東約六里に聳ゆる活火山で、其の高さは海拔二〇七七米。楕圓形の火口の中に硫黃山といふ中央火口丘を有する二重式の火山である。此の山は近年折々爆發して山麓地方の人を驚かしたが、殊に有名なのは



十勝岳爆裂畧圖

大正十五年五月二十四日の爆裂である。此の日此の地方は可なりの大雨が降つてゐた爲に、舊火口附近で硫黃採取に當る鑛夫も全部下山してゐたのみならず、雲霧が深かつた爲に、山麓地方で爆發の音を聞くことは出來ても、爆裂火口の凡その位置をも確めることは出來なかつたのである。兎に角當日午前十一時半頃（一說には午後零時半頃）第一回の爆音が聞え、更に午後四時過第二回の爆音が聞えたといふことである。此の際新に出來た爆裂火口は大小合せて三箇處であるが、最も激しい爆裂のあつたのは硫黃山の北西部で、第二回の爆音は恐らく此處から發したものであらうと推定されて

居る。

もと硫黄山は南北兩腹の噴氣孔から盛に噴烟してゐたものであるが、此の時の爆裂によつて山の北西部が噴き飛ばされて、火山彈及び火山灰を爆裂火口より北東方約二里の間に降らした。此の時熔岩流は出なかつたが、一大熱泥流が流れ出て、山麓地方に大損害を與へた。

此の泥流たるや地下に滲込んだ水が深く火口の底以下の地點に集まり、其の附近の土砂を吸收して泥溜となり、以て地下に生ずる瓦斯の發散を妨げてゐたものであらふ。然るに瓦斯の分量が增加して泥溜の壓力に打勝つに至り、其の脹力によつて泥溜を地表に押上げたものと思はれる。かくて地表に押し出された泥は長らく地熱に熱せられてゐた爲に、非常な高熱を保つてゐたものに相違あるまい。隨つて其の泥は爆裂火口から流れ下るに當つて、行く〳〵其の流路に於ける殘雪を融解したのみならず降る雨及び溪流を收容して流動性の强い泥流となつたものと見える。當時山中には平均深さ三尺の殘雪が積んでゐたといふことである。

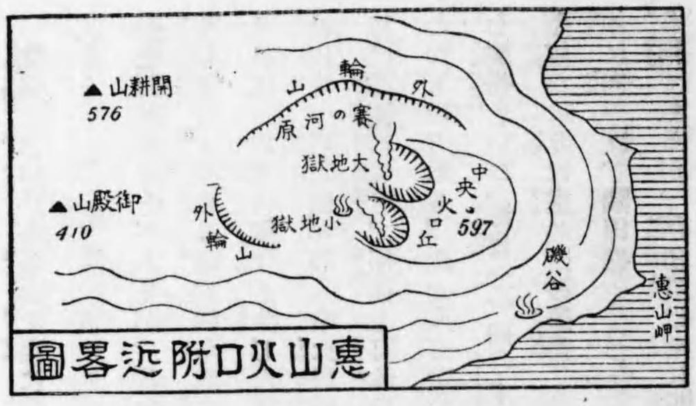
泥流の幅は場處によつて違ふが、狹い處も三町、廣い處では十六町餘に及び、其の深さは二丈に達する處もあつたのである。隨つて其の勢は頗る强く單に地表を流れただけではなく、流路の表土を削り、大木を倒し、しかも是等のものを運びつつ流れ下つたのであるから、其の破壞力は驚くべきものであつた。殊に其の速度も非常に早く泥流が火口を距ること約六里なる上富良野附近に達したのは爆裂より凡そ三十分の後であつたといふことである。

泥流の中、美瑛川の流域に向つたものは火口を距ること七里餘の地點に至つて止まり、富良野川流域を下つたものは上富良野北方の平地に堆積して美田を蔽うてしまつた。隨つて其の損害も甚大で、倒壞家屋は四百六十棟、斃死した家畜の數は數百頭（其の內馬は凡そ二百頭）、負傷者は二百十名、死者は百四十餘名に上り、荒廢に歸した田畑は千七百餘町歩に達したのである。

其の後、十勝岳の活動は一盛一衰の狀態を續け、折々爆發を起しては居るが、幸に甚だしい災害を與へることなしに經過して居る。

那須火山脈　北海道本島の半島部にも火山が少くない。之は那須火山脈に屬する火山で、惠山、駒岳、有珠岳、樽前山、眞狩岳などが其の著しいものであり、近海に於ける利尻島なども此の火山脈に屬する火山島である。

惠山　は龜田半島の東端なる惠山岬の西に聳ゆる二重式の活火山である。舊火口壁たる外輪山は完全には殘らず、唯北部と南西部に之を見るのみであるが、それは後に出來た中央火口丘が東部及び南部の外輪山を被覆した爲である。最高點は中央火口丘の東部に在つて、海拔五百九十七米。其の西方に大地獄、小地獄と稱する爆裂火口が相並び、共に北西に口を開いて馬蹄形を呈して居る。**大地獄**の內部には高さ一米餘の圓錐形の泥火山があり、其の頂に直徑一米の火口を有し、其の中に高熱の泥湯を湛へて居る所から、此の火口を**泥釜**と呼んで居る。尙大地獄にも**小地獄**にも

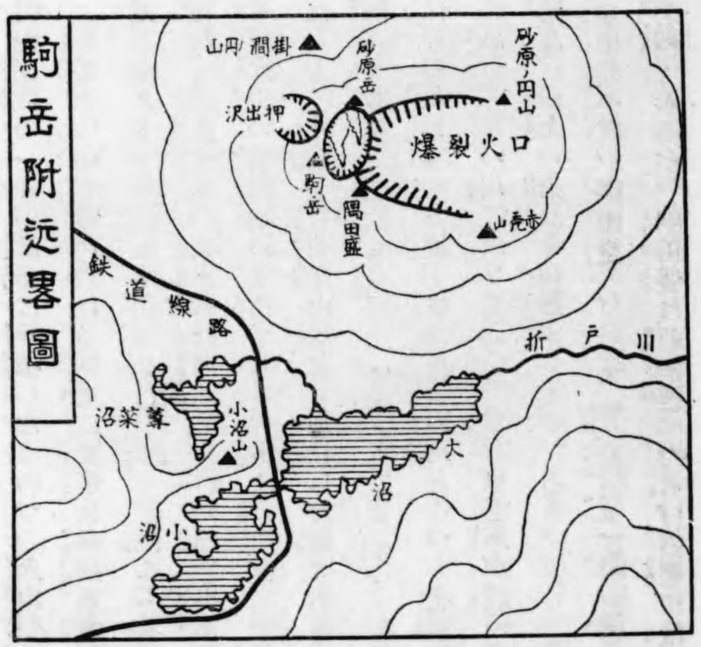


惠山火口附近略圖

各々十餘箇處の硫氣孔があつて、盛に硫黃瓦斯を噴出する爲に、其の瓦斯を岩石泥土を以て築いた隧道狀の溝渠に導き、硫黃分を凝固せしめた上、之を採取して居る。

中央火口丘と北部外輪山との間なる火口原は之を**賽の河原**といひ一面兩地獄爆裂の際に出來た岩屑に蔽はれて居る。次に北部外輪山の西方を見れば**開耕山**（一名根山。五七六米）といふ峯があり、其の南方に**御殿山**（四一〇米）といふ山がある。どちらも安山岩より成る乳房狀の寄成火山で、火口の址はない。又小地獄の北西端には溫泉が湧出て居り（硫黃泉）、尙山の南東麓なる磯谷にも硫化水素を含めるアルカリ鹽泉がある。

駒岳　恵山から遙か北西に當り、内浦灣の南岸附近に廣く座を占めて居る活火山を駒岳といふ。有史以後に於ける當山噴火の記錄によれば、寛永年間以來屢々其の活動を強めたことがあるが、其の多くは小噴火。大噴火といふべきは三回である。其の中最近の大噴火は昭和四年六月十七日に起つたもので、被害も甚大であり、又細かに見れば、地形に變化も生じたが、山全體の姿には著しい變動はないのであるから、茲に先づ昭和四年の大噴火以前に於ける山容を述べることにする。元來駒岳の山頂部には長徑約九町、短徑七町餘の楕圓形火口があり、其の底に在る小火口から噴烟してゐたものである。此の火口壁の南西部に於ける峨々たる岩山が駒岳火山の絶頂で、之を**駒岳**といひ、海拔一一四〇米の高さを有する。之より**駒の背**（九六〇米）と稱する火口壁傳ひに北に進めば**砂原岳**（一、一一五米）があり、**馬の背**（八五〇米）と稱する火口壁を南東に向へば、**隅田盛**（八八〇米餘）といふ峯がある。何れも火口壁中の隆起部に對する名稱であるが、隅田盛は前に述べた火口の東に續く馬蹄形**爆裂火口**の南西壁である。



此の爆裂火口は頗る大規模のもので廣く其の口を東に開き、其の端と思しき場處の北側には**砂原ノ圓山**、南側には**赤禿山**といふ峯がある。又駒の背の西にも口を北西に開ける爆裂火口があるが、之は前のものに比すれば小規模で、之を**押出澤**と呼んで居る。此の外砂原岳の北西には**掛澗ノ圓山**といふ火口址を示さぬ寄生火山があり、尙山の南麓方面には數多の小圓丘が群在して居る。之は或時代に流れ

出た泥流の一部が諸處に堆積したもので、火山學上**流山**といふものである。

駒岳火山の南麓に於ける低地に瓢形に相連る**大沼**（周圍五里餘）**小沼**（周圍四里餘）と稱する湖水があり、小沼と小沼山（三〇三米）を隔てて其の北方に**蓴菜沼**（周回約二里）がある。何れも駒岳火山の噴出物に堰止められた爲に出來たもので、現在沼の中に在る島々も皆同火山の噴出物の堆積である。俗に大沼百二十六島といふが、之は大沼の島だけではなく、小沼、蓴菜沼の島をも加算した數である。大沼と小沼の水面は（海拔一三〇米）同高であるが、蓴菜沼は一段高く（一五六米）、其の水は流れて大沼に入り、大沼の水は其の北東端なる銚子口から**折戸川**となつて北東に流れ、内浦灣外に於て太平洋に流れ込む。此の川に沿うて三つの水力發電所が設けてあるが、何れも函館水電會社の經營で、以上の沼水を利用するものである。

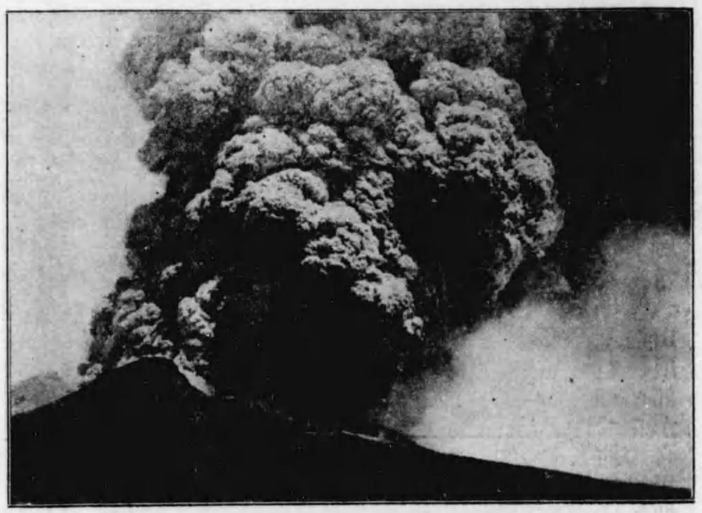
之を風景の上から眺むれば、大沼附近一體の地は北海道中稀に見る一大美觀で、四季共に飽かぬ眺めを呈し、北海道廳營の公園とし、日本新三景の一として有名なものであるが、秋の紅葉期節が特に勝れた眺望となつて居る。湖畔の逍遙にも深い趣味があるが、小舟による島廻りは更に深い興味を與へる。又駒岳山上から公園を俯瞰す眺めも固より雄大であるが、公園全體を見渡すのに最もよい場處は小沼山上である。想ふに大沼公園の風景は駒岳及び沼、島並に樹林などによつて形造られて居るのであるが、若し駒岳といふ大背景がなかつたならば、雄大といふ感じはなくなるであらう。元來此の公園の沼も島も駒岳が拵へたものであるが、駒岳其の物の山體が大背景になつて居るのであるから、

大沼より見たる駒岳

大沼公園の風景は駒岳火山が生み出したものと謂はなければならない。顧みれば明治天皇は蓴菜沼の岸に於て此の地の風景を賞し給ひ、大正天皇は東宮にましました時、今上天皇陛下は攝政宮にましました時、此の地の風光を御賞覽あそばされたことがあつて、今に其の址は大切に保存せられて居る。

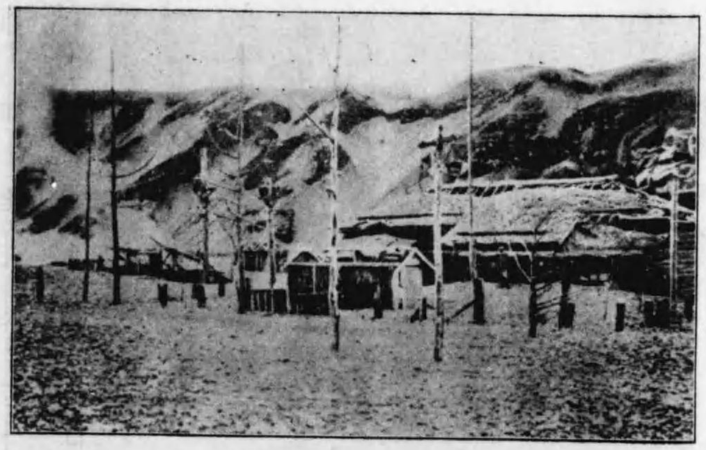
沼の中には蝦、鯉、鮒などが棲んでゐて漁業が行はれ、蓴菜沼は其の名の如く蓴菜をも産するが、當公園の名産として最も有名なものは鮒の雀燒である。

さて、昭和四年六月十七日駒岳が急に大噴火を起した。其の前夜即ち十六日の午後十時頃山の東麓なる鹿部村では微な鳴動と微震を感じたといふことであるが、之が大噴火の前兆であるとは思はなかつた。然るに翌十七日午前一時半頃から山麓地方一體に鳴動を感じ、當時風下に當つた鹿部村方面には火山灰が降り始めた。さては駒岳の噴火に相違なしと、夜明を待つて避難の準備を整へてゐた所が、午前十時頃一大鳴動が起ると同時に、駒岳の山頂部から黑烟が高く昇り始めた。之より活動の勢は增す



昭和四年六月大噴火當時の駒岳

一方。電光、雷鳴が頻りに起り、降灰は益々甚だしく、遂には輕石、岩塊が雨の如くに降加はり、午後一時頃からは浮石流が山上から押流されて來始めた。浮石流は白色多孔の輕石の流れで、山頂部から四方に向つて幾條も押流されたものであるが、多くは山の中腹前後に至つて止まつた。然るに其の鹿部村方面に向つたものは、流れ流れて海岸に至り、終に海に入つて海面一帶を輕石で蔽ふたのである。餘談に亘るが、かく海に流れ込んだ輕石及び海面に降つた輕石は潮流に運ば



鹿部村の被害家屋

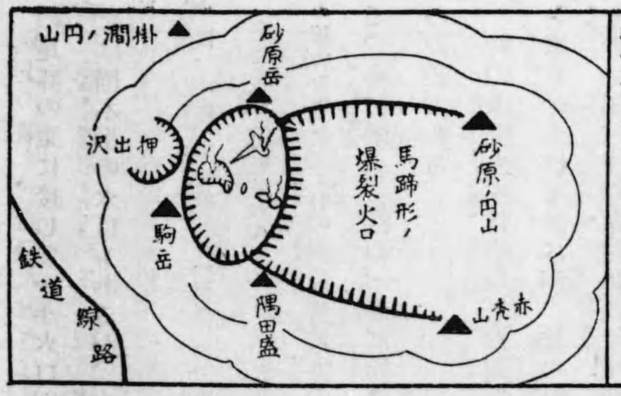
れて函館方面の海岸にまで流れついた。爲に函館地方では之を集めて、砂利代りに道路に敷きつめたのである。

さても駒岳の活動は益々甚だしく、十七日午前二時頃に於ける噴烟の高さは海拔一萬二千九百二十八米に達し（函館測候所の觀測）、夜に入つては火口上に火柱を認めたのである。かくて同夜九時頃より十一時頃までの間が噴火活動の極盛期。それより後は次第に其の勢を減じ、十八日午後に至つては殆んど鎭靜し、十九日には唯平穩な噴烟を見るのみとなつた。

以上の如く、此の大噴火は凡そ一晝夜の間に過ぎなかつたのであるが、自然の力は實に偉大なものである。被害地域は森町外七箇村（砂原、鹿部、臼尻、尾札部、椴法華、七飯、尻岸内）で、北海道廳推定の被害總價額は約八百三十萬圓である（全潰、全燒家屋三六五戸。半潰、半燒、半埋沒家屋一五五〇戸。斃馬九三頭、斃牛四三頭。被害の水田四〇町歩、畑一三〇九町歩、牧場一七三九町歩、原野六八五九町歩、山林二六九三三町歩。昆布の損害百八十四萬五千圓。道路、橋、電氣軌道等の被害を含む）。右の内最も被害の甚だしかつたのは大噴火當時風下の衝に當つた鹿部村で、全村殆んど輕石、岩屑等に蔽はれて、少しも草木の青色を見ることが出來なくなつたのである。

此の大噴火中に噴出した固形物の總量は凡そ一立方粁（一キロメートル）の半分（九町立方の約半分）と推算せられて居るが、其の内最も多いのは浮石流の輕石である。噴火當時地上風は北西の風、上層氣流は西風であつた爲、高く空中に噴き上げられた固形物は大抵其の風下方面に落下し、噴火口を距るに從つて其の堆積量が少くなるのは當然であるが、

昭和四年六月　大噴火後駒岳畧圖

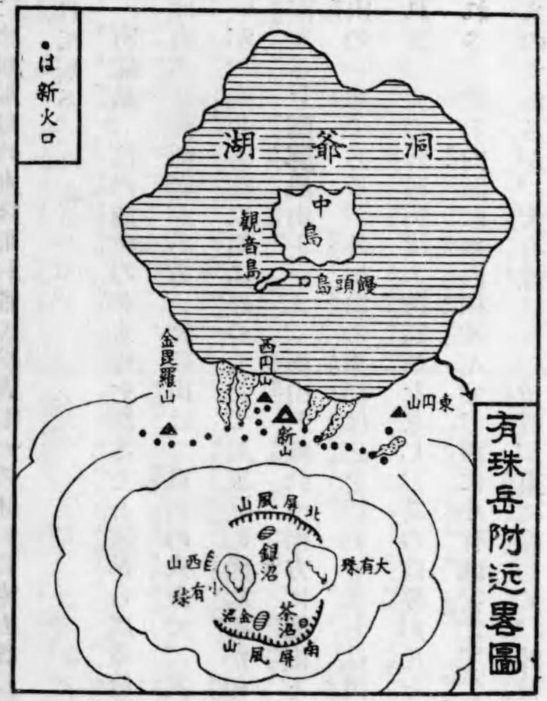


比較的に輕い火山灰は隨分遠方にまで達したもので、噴火當日(十七日)運動會を開いてゐた室蘭市の或學校では降灰の爲に之を中止し、又同日午後八時頃襟裳岬沖(駒岳の東方約百四十海里)を航行してゐた特務艦早鞆は、降灰の爲百米以外を視透すことが出來なかつたといふことである。

さて、此の大噴火が駒岳山中何れの部分に起つたかといふに、從來噴烟してゐた楕圓形火口の内部で、噴出物が堆積した爲に、火口底は約三百尺(九十米餘)高まり、其の表面に大小合せて四つの噴火口を開いて居る。其の中最も大きいのは蝌斗狀をなしてゐて略圓形をなせる其の頭部の直徑が凡そ二町ばかり。其の尾部の東に接して一小火口があり、尙其の南東に瓢簞形の火口もあり、又其の北方には撞木形の火口もあるが、大噴火の活動の主力は蝌斗狀の火口であらふと見られて居る。

有珠岳　は内浦灣の北東岸を距ること遠からざる地に聳ゆる活火山で、其の北麓には有名な洞爺湖がある。此の山は二重式の火山で、其の外輪山は完全には殘つてゐないが、南北兩部は明に殘つてゐて屏風狀の隆起帶が相對して居る。北なるを**北屏風山**南なるを**南屏風山**といふ。兩山と離れて西方に**西山**といふ峰があるが、之は西部外輪山の一部である。外輪山の東部は之を認めることは出來ないが、大體の地形から察すれば、元の外輪山は大體圓形をなし、其の直徑が凡そ半里内外あつたものの樣に思はれる。其の内部に東西相並んで、西に小有珠、東に大有珠といふ中央火口丘が出來たものであるが、大有珠は其の位置が東に偏して、外輪山の東部を覆うて居る。外輪山の東部を見ることの出來ないのは之が爲である。

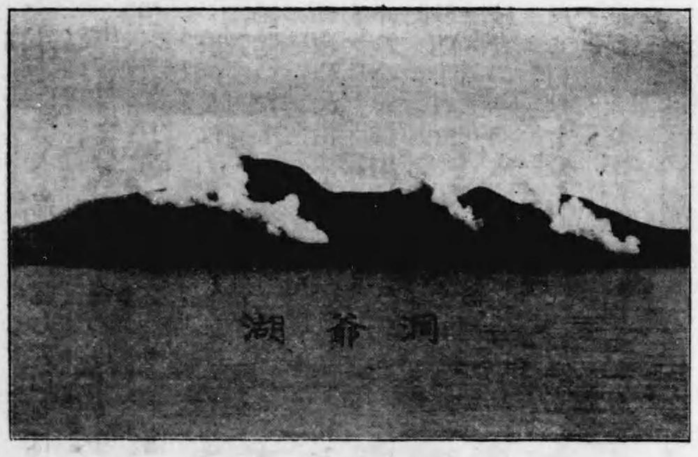
○大有珠は一に東山ともいふ。もと地下から押上げられた熔岩が凝り固まつた一大岩山であるが、其の後に起つた爆發作用の影響によつて、峯に大きな割目が生じて大小二峯に分れて居る。其の絶頂は海拔七二五米で、當火山中の最高點である。大有珠の南東腹に噴汽孔があつて微弱ながら蒸氣を發して居る。



熔岩の固まつた岩山で、大有珠よりも少しく低く、其の南腹の噴汽孔から蒸氣を出して居る。

火口原は南北兩部に能く發達し、灌木、雜草が繁茂して居るが、其の中に茶沼、金沼（南部火口原中）及び銀沼（北部火口原中）といふ小池がある。

有珠岳は古來屢噴火したのであるが、最近の大噴火は明治四十三年七月二十五日に起つたもので、八月上旬に至るまでの活動が特に激しく、此の活動によつて洞爺湖の南岸に沿ふ裾野の地形に大變化を生じた。即ち湖畔の小丘なる東圓山から西方なる小丘金毘羅山に至る約二十七町の間及び金毘羅山の北東にあたる小丘西圓山附近に合計四十有餘の噴火口を生じて盛に噴烟しつつ或は石塊を飛ばし、或は火山灰を噴き上げたのみならず、其の内五箇處の火口からは盛に泥流を流した。しかも各泥流はいづれも白烟を放ちつつ一時間に約二十五哩の速度を以て流動したのであるから、其の狀は恰も大蛇が洞爺湖に向つて急進するものの如く、或は機關車が盛に白烟を吐きつつ疾走するものの如くに見えたといふことである。かくて泥流五條の内四條は湖岸まで



噴火鎮靜當時の有珠岳

達したのであるが、其の中最大のものは幅が三町に達する處もあつた。

其の上西圓山附近より東圓山に至る間長さ約二十三町、幅五町内外の湖畔の土地は一體に隆起し、湖岸に於て凡そ五尺高まつた。此の隆起地域中西圓山に近く其の南東には特に著しく隆起した處があつて、もと湖水面上約六十米餘(二百尺)の高さであつた處が、湖面上約二百〇九米餘(六百九十尺)の高さを保つ山となつた。今之を**新山**と呼んで居る。

かく湖畔に於ける裾野の地形には多大の變化を生じたが、此の噴火による直接の被害は

意外に輕く、荒廢に歸した田畑は約六十町歩、森林は三十町歩、埋沒家屋は四戸、半潰一戸に過ぎなかつたのは不幸中の幸であつた。若し此の噴火に當つて、其の全力が一箇處に集まつたならば、大爆裂を起して破壞作用を逞くしたに相違なく、損害も甚大であつたであらうが、噴火口が次第に增して終に四十餘箇處となり、噴火力が一箇處に集中しなかつた爲に、損害が比較的に輕かつた譯である。

今や湖畔の裾野の開拓し得る處は、既に開かれて畑となり、噴火直後の狀態とは大いに異つて、湖畔に洞爺溫泉も開かれ、長輪線の虻田驛から電車も通じ、自動車も往復して湯治客を送迎して居るが、新火口は元の儘に殘つてゐて、其の附近から多少瓦斯を噴出して居る。

洞爺湖　は有珠岳の北麓に在る陷落湖で、略圓形をなし、其の周圍は約九里、面積は四方里餘の湖水である。其の中央に**中島**といふ可なり大きな島があり、近く其の南方に**觀音**、**饅頭**の二島がある。いづれも安山岩より成り、湖底から噴出した熔岩の固

まつたものと見られて居る。湖水の水は排水口を南東岸に開き、高さ七丈餘の懸崖にかかつて壯觀ノ瀧となつてゐたのであるが、今は此處に水力發電所が出來た爲に、瀧の壯觀を見ることは出來ない。湖中に姫鱒、アメ鱒、蝦、蟹などが棲んで居り、湖上には石油發動汽船が往來して居る。姫鱒は元來此の湖にはゐなかつたのであるが、明治二十六年阿寒湖から移殖したものであり、今は其の孵化場を設けて、年々其の仔魚を放養して居る。湖畔は風景も好く、又避暑の好適地であるから、富豪中には此處に別莊を設けて居る人もある。

樽前山　洞爺湖から遙か北東に離れて支笏湖といふ湖水がある。其の北岸に近く惠庭活火山が屹ち、南岸に接して風不死岳の休火山が座を占めて居る。風不死岳の南に連る活火山が有名な樽前山で、苫小牧町の北西約五里の地に聳えて居る。樽前山は古來屢々噴火を起した活火山で、もとは二重式の火山であつた。卽ち山上に在る外輪山は楕圓形をなし、長徑は凡そ十一町（一二〇〇米）、短徑は七町餘（九〇〇米）。其の東部なる東山（一〇二三米）が此の山の最高點であつた。其の內部に在る中央火口丘は長徑七町餘、短徑約五町の火口を備へてゐたものであるが、明治四十二年四月の大噴火の際火口の底から押出された熔岩が殆んど火口全部を埋めた上、次第に其の上に高まり、舊火口の上に一大圓頂丘を築いた。爲に舊火口に大きな熔岩塊の栓を施した形となり三重式の火山になつたのである。此の熔岩より成る圓頂丘は長徑約三町四十間（四〇〇米）、短徑約三町二十一間（三六五米）、高さ約百七十二米（約五六七尺）のものであるから、其の頂は從來の最高點たる東山よりも約三十米高く、山麓地方からも明に

支笏湖と樽前山

之を望むことが出來る。

爾來此の山の活動には盛衰があり、折々山麓地方の人を驚かす樣な噴火を起して今日に及んで居る。其の間或は熔岩丘に大小の割目が出來、或は其の一部が崩壞して居るが、今も大體は原形を維持して居り、丘腹諸處から白烟を吐いて居る。

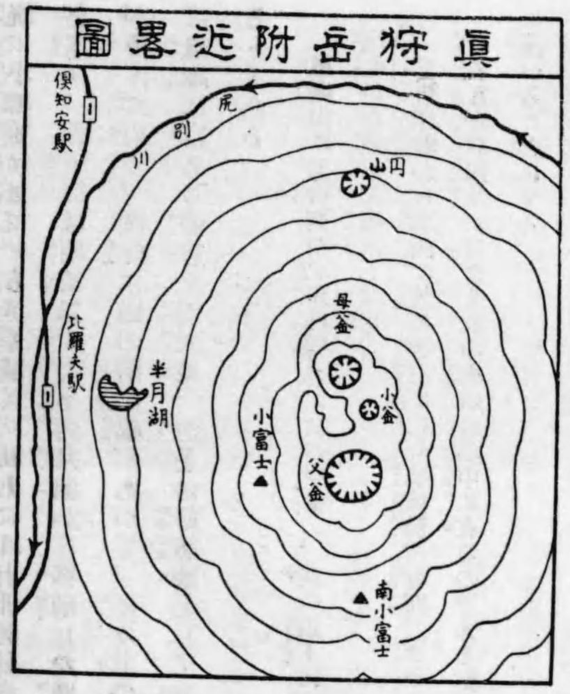
支笏湖　は周圍十里餘、面積約五方里、一大法馬形の陷落湖で、洪水、渴水の憂ひがなく、又冬になつても水の凍ることがない。其の水は東岸の排水口から千歲川となつて流れ出るのであるが、川に沿うて此の湖水を利用する水力發電所が四箇所ある。皆王子製紙株式會社の經營で、其の電氣は苫小牧、札幌、小樽等に送電せられて居る。湖上には石油發動汽船が通うて主に石材、木材などを運び、湖中には明治二十七年阿寒湖から移殖した姫鱒を始め、紅鱒、ザリガニなどが棲んで居り、湖畔に鱒の孵化場があつて、年々其の仔魚を湖中に放流する。尙湖畔は風趣に富める靜寂な別天地。避暑の好適地として知られ、時に高貴な方々を迎へることもある。

惠庭山は支笏湖の北岸に聳え（一三二〇米）、其の頂上に在る一大火口の東部に於ける數箇の噴汽孔から蒸氣を噴出して居る。

支笏湖畔から南西に連る連山中にも德舜瞥、登別、クツタラウシ、幌別、鷲別等の火山があり有名な登別溫泉の如きも此の火山地域中に在るのであるが、同溫泉のことは、都會と交通の章に述べることにする。

眞狩岳　は後方羊蹄山とも羊蹄山ともいふ。洞爺湖の北方約六里に聳ゆる休火山で

完全な圓錐形を呈し、其の形が富士山に酷似して居る爲に**蝦夷富士**とも呼ばれて居る。



山頂に父釜と稱する長徑三町餘（三五〇米）、短徑二町餘（二五〇米）の噴火口が殘つて居る。其の東壁の一部なる北鎭岳が此の山の最高點で、海拔一八九三米に達する。父釜の北方に小釜、母釜といふ凹みがあるが、之も噴火口の址である。父釜を少しく西に下つた處に爆裂火口の外壁たる圓錐丘があり、南腹にも同樣の隆起がある。前者を**小富士**、後者を**南小富士**或は**眞狩小富士**と呼ぶ。此の外北麓近くの山腹に**圓山**といふ圓錐狀の小山があるが、之は寄生火山で、其の頂に馬蹄形の火口址がある。尙西麓近くの山腹に半月形の一小湖がある。其の形によつて**半月湖**と呼んで居るが、之は二重式寄生火山の火口原中に出來た湖で、周圍は約八町。鯉鮒、鰻等の養殖が行はれて居る。

世に富士形の火山は頗る多く、富士の名を負ふ山も甚だ多い。就中蝦夷富士は其の最たるもので、其の端麗にしてしかも堂々たる英姿は全國中稀に見る所、其の高さは富士山の凡そ半に過ぎないが、天下の一名山として推奬するに足るものである。山の中腹以下は蝦夷松、椴松等の森林に蔽はれて居るが、此の喬木帶を過ぐれば展望漸く開け、山頂に近けば堰松が多く、又高山植物より成る御花畑もある。天氣清朗の日頂上に立てば殆んど北海道西半の山海を望み得べく、眺望が頗る雄大な爲に、夏は登山者が甚だ多く、山麓には蝦夷富士登山會の事務所があつて、登山者の便宜を圖つて居る。

松前半島の西方なる**大島**、**小島**は全部火山岩より成る火山島であり、其の北方なる**奥尻島**中には火山岩に蔽はれて居る場處がある。又苫前沖の燒尻、天賣の二島及び宗谷海峡附近の**禮文島**中にも、島の基盤を破つて噴出した火山岩地域があり、**利尻島**は純然たる火山島で、**利尻富士**（一七四一米）といふ極緩傾斜をなせる富士形の休火山が海岸まで裾野を引いて居る。

三　川と平野

石狩川　は北海道第一の大河。源を石狩岳に發し、北西に向つて旭岳を主峯とする大雪火山彙の東麓を過ぎ、更に其の北麓を流れて此處に層雲峡の奇景を作つて居る。**層雲峡**は下は層雲別より上は大函に至るまで凡そ五里の間。近く石狩川の兩岸には蝦夷松、椴松を戴ける怪巒奇峯が立ち並んで相對峙し、其の山脚は峻嶮攀ぢ難き斷崖で、其の高さは少くも數十丈。崖上時に飛瀑を落し、崖腹時に石柱を連ね、到る處に神鑿鬼斧の妙技を示して居る。此の大奇觀は明治初年以來、石狩川上流地方の探檢

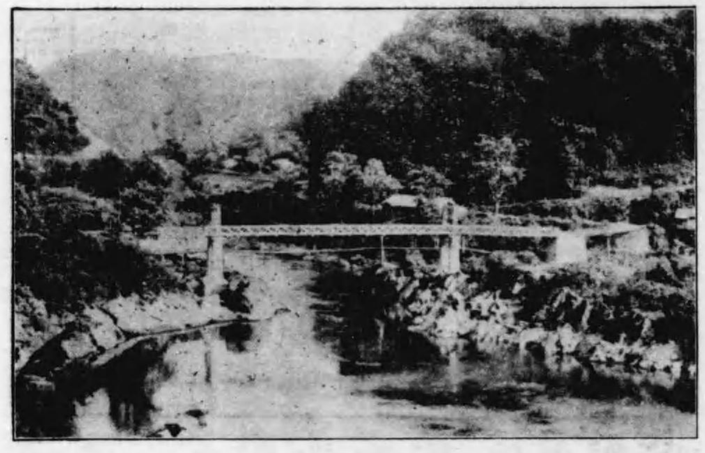
層雲峡の大函

或は測量等に當つた少數の人々の目には觸れてゐたものの、何分にも交通不便の地にある峡谷で、容易に出入することが出來なかつた爲に、人跡稀なる千古の秘境たるに止まり、長く世に紹介せられなかつた。然るに大正年間に至り、峡の中央部なる鹽谷温泉の開發と之に伴ふ道路の開鑿、橋梁の架設及び大雪登山客の激增等が主因となつて、漸く世に宣傳せられ、今や北海道中第一の峡谷として誰知らぬもののない大遊覽地となつて居る。奇峯怪巖、峡流、飛瀑、森林等の美を兼ね備ふる大景觀。眞に天下の奇勝と謂ふべき別天地で

あるが、殊に大函、小函の險、銀河、流星の兩瀑布（雌雄兩瀑）、地獄谷の激流等は特に名高い勝景として知られて居る。鹽谷溫泉の開發に關しては別に語るべきものがあるが、之は上川方面の保養地として後に章を改めて述べることにする。

川は行く〳〵幾多の支流を收容しつつ方向を南西に轉じ、旭川市の北郊に至つて**牛朱別川**を容れ、更に市の西郊に於て**忠別川**を受ける。兩支流は共に源を大雪火山彙中に發する川であるが、忠別川は十勝岳方面より來る**美瑛川**を容れた上、石狩川に合する。同火山彙の西麓地方より旭川市方面に連る平地が**上川盆地**で、本道中最も能く水田の開かれた處である。

石狩川は上川盆地を辭して間もなく、盆地の西に横たはれる山地を貫き、**神居古潭**の峽谷を作つた上南西に向ふ。峽谷の全長は約一里、其の中神居古潭驛附近數町の間は勝景の地として夙に和人の間に知られて居る處である。川に架けたる釣橋の下僅かばかりの處は水面も稍廣く、水底も甚だ深くて數個の渦卷を見る淵になつて居るが、

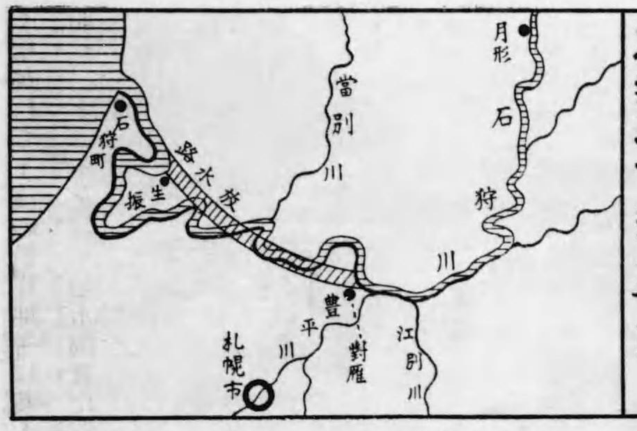


神居古潭

橋より上は川幅は狹く、兩岸には綠色の輝岩が低く連つて居るに過ぎないから、特に聲を大にして宣傳する程の風景ではない。

之より石狩川は石狩の北境より南下し來る一大支流**雨龍川**を容れ、更に十勝岳方面の諸水を集め、夕張山脈の東麓地方を流れ來る**空知川**を合せ、尙夕張山脈及び支笏湖方面の諸流の合流たる**江別川**を受ける。之より本流は方向を北西に轉じ、札幌市を貫流する**豐平川**及び增毛山塊方面より南下する**當別川**などを收容し、洋々たる大河となつて日本海に流れ込む。河口の幅は約五町半。其の南岸に嘗て

石狩川下流略圖



石狩川の水運が盛であつた時代に一時殷賑を極めたことのある石狩町の市街がある。

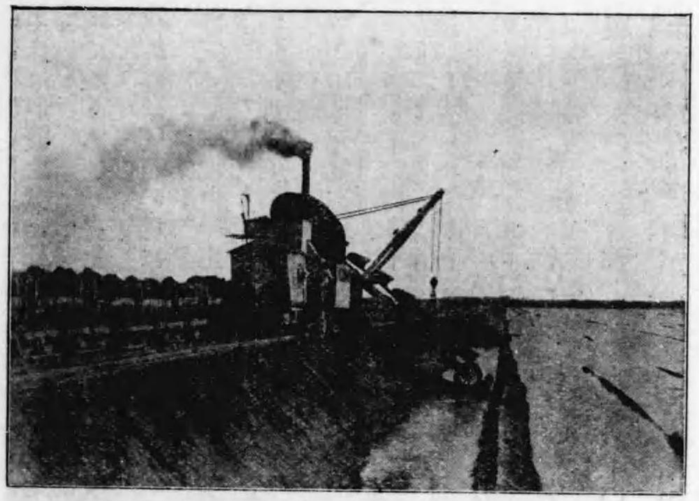
本流の長さは九十二里餘。之に支流を加ふれば凡そ五百里に上り、其の流域は九百五十餘方里で、本島全面積の約五分の一に當る。沿岸諸處に大小の平地があるが、殊に廣いのは下流地方の**石狩平野**で、地味肥沃、よく開拓の行はれて居る處である。尙本川の流水量は極めて多く、單に灌漑の利を與ふるのみならず、水運の便を備へ、小汽船は河口から約二十四里の上流なる月形まで通ふ。併し元來河道の屈曲の多い川で、水排けはよくないから、毎春解雪期及び夏秋の候に於ける暴風雨の際には水量が著しく增加して下流の沿岸地帶に甚大の水害を及ぼす。爲に政府は本川治水の必要を認め明治三十二年を以て治水調査に着手した。爾來年を閲すること十餘年。其の調査が完了した爲に、同四十三年度から其の工事を起した。茲に其の計畫の概略を述べんに、上流に於ては往々浸水の害を蒙る旭川市及び深川、瀧川兩町の沿川に堤防を築き、下流に於ては江別町より石狩町に至る間の本流並に支流當別川等の下流に改修工事を施すのである。其の中特に人目を惹く大工事は江別町より下流の改修工事で、或は堤防を築き、或は護岸工事を施し、或は浚渫を行ふのであるが、殊に有名な工事は對雁、生振間の**直通水路**である。元來兩地の間は川の屈曲が甚だしく、其の水路の全長が約十里に達する爲に排水がよくない。仍つて兩地の間に長さ三里十八町四十間、幅五百間の直通水路を新に開鑿することにしたのである。

著者は昭和四年六月五日北海道廳技師石田鼎氏の御好意により、札幌市學事主任及び同市小學校長諸賢と共に發動機船に乘つて江別、石狩兩町間の改修工事を視察した

が、觀るもの聞くもの皆之れ水害防止の大施設。其の大規模の工事に驚かざるを得なかつた。由來北海道の河川は明治時代の末期に至るまで殆んど皆原始河川で、堤防もなければ、護岸工事も施されず、自然の流路其の儘に委せてあつたものである。今や石狩川、十勝川、釧路川、常呂川などに治水工事が行はれて居るが、是等の工事が北海道の河川に加へられた現代的施設の先驅である。今後是等以外の河川にも追々治水工事が施されるに相違あるまいが、全道の河川が皆加工河川となるまでには、多大の年月を要することであらふ。

現在の石狩川治水工事には築堤、護岸、掘鑿、浚渫等樣々なものがあり、又之に附屬する色々の仕事がある。**築堤工事**のみでも無論大工事に相違ないが、其の方式は大體各府縣に行はれて居るものと同じで、特に說明する必要はない。然るに**護岸工事**に至つては一異彩を放つて居る。卽ち石狩川の下流地方に於ては、此の工事に最も必要な石材が得られない爲に、之に代るべき代用品を先づ造らなければならない。其の代用品は**混凝土塊**と稱する人造石で、セメント一、砂三、砂利六の割合にまぜたものを水で練りあげ、之を鐵製の型の中に入れて搗固める。それを凡そ一週間日蔭の棚に並べておけば石の樣に堅くなる。塊（ブロック）の大きさは長さ一尺九寸五分、幅五寸、厚さ三寸で、塊中一定の部分に直徑約五分の孔を二つ明けて置く。此の孔は後に塊を河岸に据ゑる時、針金を通す爲のものである。塊一個の重さは約五貫目。實費が凡そ十七錢かかる。

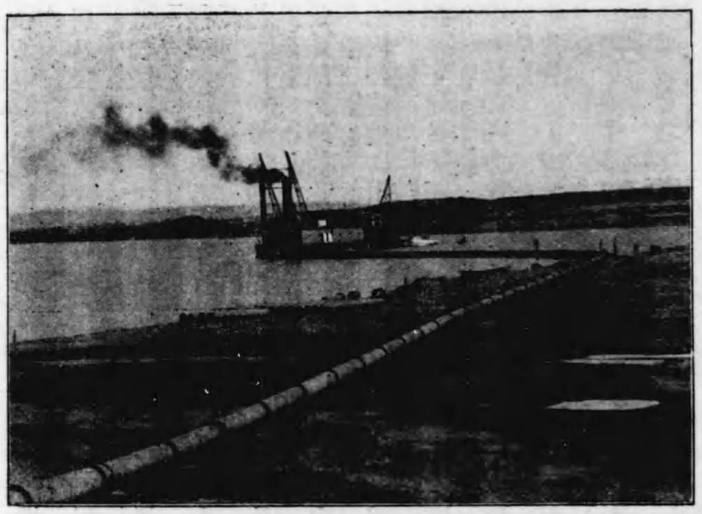
元來護岸工事には、河川の狀態によつて樣々の法があるが、石狩川に於ては河岸の缺壞し易い處を緩傾斜に削りならし、其の上に細い針金で柳の枝を莚の樣に編んだものを敷き、更に其の上に混凝土の塊を規則正しく横に並べ、直徑約二分の針金を二本づつ通して離れ〳〵にならないやうにするのである。此の方法を**混凝土單床護岸工事**といふのであるが、無論水面以下の岸にも塊を敷き詰めるのであるから、其の作業には可なり手數がかかる。さるはかり其の出來上つた處を見れば、如何にも頑丈で



作業中の掘鑿機と土運列車

あり、又立派である。

直通水路の掘鑿には、頗る便利な**掘鑿機**が用ひられて居る。機は軌條の上を自由に進退し得る機械で、其の活動が始まると、機の一方に裝置してある一連のバケット帶が上方から斜に下方に向つてグル〳〵楕圓狀に廻轉する。かくて各バケットは地面に喰入り、土砂を其の中に入れて之を上方に運び、機の他方にある樋から落す。其の土砂を受る爲に、五合積土運車二十五臺乃至三十臺より成る土運列車が待受けて居る。それ故に機は一方に於て地面を掘鑿しつつ



石狩川浚渫中の昭和號

他方に於ては其の土砂を土運車に落し、滿つるを待つて次第に前進する。其の掘鑿率は土質によつて多少の相違はあるが一時間に三十坪乃至四十坪の土を掘り、其の深さは軌條面より約十三尺の下まで掘下げることが出來る。

土砂滿載の土運列車は機關車に曳かれて土捨場に行くのであるが、其の土砂は大抵堤防工事の盛土に用ひられて居る。

又、川底の浚渫には、**昭和號**といふ最新喞筒式浚渫船を用ひて居る。同號は横濱船渠會社の製造にかかり、蒸氣力によ

つて電氣を起し、此の電力によつて諸機械を運轉するのであるが、舳から前方に出て居る吸水管に取りつけられたカッターが先づ川底を掘りくづす。掘られた土砂は水と共に吸水管内に吸ひこまれ、船内を通過して艫から出ようとする。然るに艫からは直徑三尺餘もある排水管が長く連つて居り、始めは水面に浮んで居るが、後には陸上に横たはつて其の口を泥捨場に開いて居る。それ故土砂は泥捨場に沈澱し、水は陸上の排水溝を通過して再び河中に流れこむのである。餘談に亘るが、此の式の浚渫船は單に河の浚渫に用ひられるばかりでなく、近來は築港工事にも用ひられてゐて、港底を掘り下げると同時に、一方では其の土砂を以て埋立地を造るやうになつて居る。さて昭和號の能力は毎時五十坪の土砂を水面下三十尺の河底に於て浚渫し、長さ五百間の排水管によつて、其の土砂を水面上三十尺の場處に排出することが出來る。

之を要するに、石狩川の治水工事は本邦稀なる大工事で、工事全部の完了するのは昭和二十二年度の豫定である。

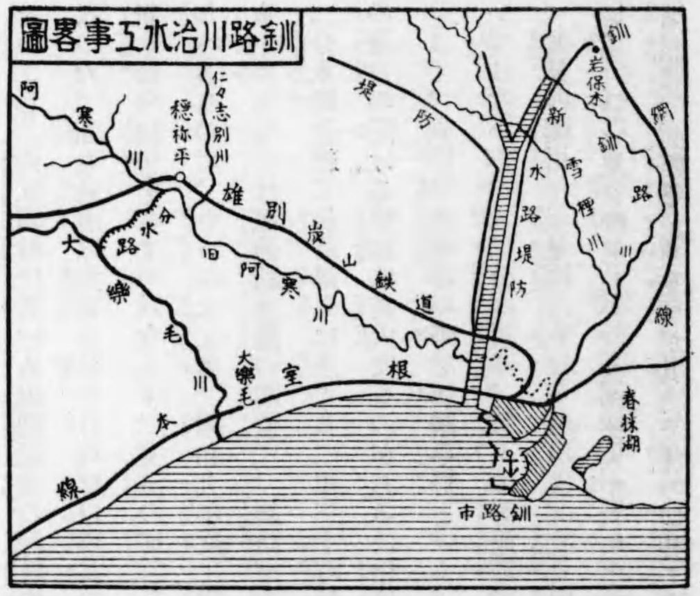
天鹽川は源を天鹽岳に發して北西に流れ、後方向を北に轉じて北見、天鹽兩山脈の間を流れる。其の間名寄川を始め幾多の支流を受け、再び北西に向つて日本海岸に近づく。併しすぐには海に入らず、急に方向を南に轉じ、海岸に沿うて發達せる砂丘の内麓を南下した上、天鹽に至つて始めて海に注ぐ。本流の長さは凡そ七十八里。其の下流兩岸に廣がる平地を**天鹽平野**といふ。

十勝川は源を十勝岳の南側に發して南流し、後次第に方向を南東に轉じ、下流は十勝、大津の二流に分れて太平洋に注ぐ。本流に收容せられる支流は甚だ多いが著しいものは石狩岳方面の山地から南下し來る音更川及び利別川である。本流の長さは約五十里。大津川河口の大津より數里の上流なる豐頃までは發動機船が通ふが、溯航には四時間、下航には二時間を要する。

流域の平野は**十勝平野**で、農耕の好適地であるが、川沿地帶は時に大水害を蒙り、被害の年額が三百萬圓至乃千萬圓に達する爲に、帶廣町内の伏子より豐頃附近の茂岩

に至る間に治水工事が行はれて居る。此の工事に着手したのは昭和元年度で、或は堤防を築き、或は護岸工事を施し、尙或は水路の切替を行ふので、目下盛に工事が行はれて居るが、其の竣工は同十五年度の豫定である。

釧路川は源を屈斜路湖に發す。行くゝ〳〵幾多の支流を容れつつ大體流路を南に取り、釧路市を經て海に注ぐ。本流の長さは凡そ三十四里。其の中標茶以下約十二里の間は川舟が上下する。もとは阿寒川も釧路川の下流に注いでゐたものであるが、今はさうではない。こゝで話が阿寒川に外れるが、阿寒川は元來源を阿寒湖に發し飽別、徹別、仁々志別等數多の支流を受けつつ南東に向ひ、終に釧路川に流れこんだ一大支流で、舌辛以下數里の間は川舟が通じたものである。然るに下流地方に於ける氾濫の害を除く必要上、明治二十三年中流の穩禰平から南西に向つて大樂毛川に通ずる第一分水路を開鑿した。其の後大正六年に至り、釧路港内に流れ込む土砂を少くする爲に、釧路築港事務所が其の下流の切替工事を施した。即ち釧路川と阿寒川との合



流點を西に距ること約一里の地點から阿寒川の水を南に向はせ、之を釧路港外に流す新川即ち第二分水路を掘つた。然るに大正九年の洪水以後穩禰平より川上に於ける阿寒川の水は全部第一分水路を經て大樂毛川に流れ入ることとなり、穩禰平より川下の舊阿寒川には僅かに仁々志別川の水が流れるのみとなつた。

ここで再び話を釧路川に戻すが、釧路川流域に於ても洪水氾濫の害を除く必要もあり、又釧路港内に流れ入る砂

を少くし、尙又河畔に於ける濕潤荒蕪の泥炭地改良の必要上、治水工事を施すことと
なつた。卽ち政府は大正十年六月八日以來其の工事を行つて居るが、本流に於て直通
新水路の開鑿をなすのみならず、支流の切替をもなし、之に伴ふ築堤、護岸の工事を
加へるもので、中々の大工事。昭和九年度に完成する豫定である。是等諸工事中、最
も主要なものは**直通新水路**の開鑿で、釧路市の北方約四里半の岩保木より舊阿寒川第
二分水路を經て釧路港外に達する二里三十町餘の新川の工事である。完成の曉に此
の地方の受ける便益は甚大なものがあるに相違ない。

さて、釧路川流域の平野を**釧路平野**といふ。其の一部には卑濕に失する泥炭地もな
いではないが、大部分は農業、牧畜の好適地である。

北見の諸川　北見國に於ける河川は、北見山脈又は千島火山脈に屬する山地に發源
し、いづれも南西より北東に向つてオホーツク海に注ぐ。卽ち斜里、網走、常呂、湧
別、渚滑、幌別、頓別等の諸川が殆んど相平行の水路を取つて流れ、其の下流に於け
る海岸平野が相連つて**北見平野**を形作つて居る。併し元來流域が狹い爲に、大河、長
流は少く、全長三十七里の**常呂川**（此の川の下流に於て、築堤を主とする治水工事は昭和三年八月竣
工）及び三十三里の**湧別川**が此の方面の大河である。

以上の外、日高の**沙流川**（二九里）、膽振の**鵡川**（三七里）及び後志の**尻別川**（三七里）など
は、それ〴〵其の地方に於ける主要な川であり、其の下流河畔に多少の平野がある。

第三章　氣候

北海道といへば、各府縣の人々は直ちに嚴寒を聯想する傾きがある。元來其の位置が我が國の內では餘程北に偏つてゐて、氣溫が一般に低く、殊に降雪期が長くて、寒さも强い地方であるから、此の聯想の起るのも已むを得ないことである。道內の渡島半島の凡そ南半は奧羽地方の氣候に近い處といはれて居るが。函館市の公園五稜郭の外濠では、嚴寒中厚い氷を切出して居る。

北海道の川に鮭は上るが、鮎の上る川は極めて少い。苹果は北海道の一名產であるが、柑橘類は育たない。函館方面では杉や赤松を見受けるが、之は本州方面から移殖したもので、北海道本來のものではない。松、杉、檜、竹などの林は殆んど各府縣到る處に見受けるが、北海道にはなく、之に代つて蝦夷松、椴松、樺、楢、春楡、刺楸オヒヨウなどが繁茂して居る。其の外茶、煙草、落花生、柿などは內地では育つが、

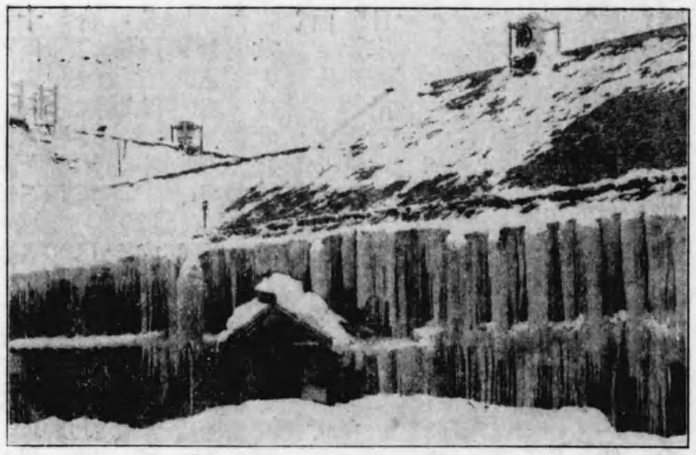
五稜郭外濠の氷切

北海道では育たない。

斯樣な次第で、一度津輕海峽を橫ぎつて北海道に渡れば、本道本來の生物は內地のそれと趣を異にするものが少からず、寒地に於ける色彩が强くなる。之は氣候の然らしむる所である。併し降雪量は存外多くない。元來北海道は一般に雨量が多くなく、殊に蝦夷山脈附近から東には少い。其の比較的に多いのは同山脈以西で、積雪の比較的に深いのも亦此の方面であるが、北陸方面よりも遙に少く、平地に於て五尺以上の積雪を見る處は多くない。唯降雪期間が長く、大抵十一月初旬から四月中旬頃まで約

半年間が降雪期となつて居り、此の間は寒さも強いから、根雪が常に地面を包んで居る。隨つて眞に一陽來福の春景色になるのは五月。此の月には梅、桃、櫻などが一時に花を開き、約半歳の鬱憤ばらしかと思はれる程に、花見團體が活躍する。各種の學校では大抵五月中に運動會を行ふ。

北海道の冬の寒さは北陸方面よりも強い。殊に海岸を距ることの遠い本島の中央部は、大陸的の氣候で、夏は存外暑さが酷しく、冬は寒さの意外に強い處である。上川盆地は其の代表的の地として有名な土地であるが、盆地の西部に位する旭川市の測候所では、嘗て明治三十五年一月二十五日に攝氏の零下四十一度といふ氣溫を觀測したことがある。此の時には時計が自然に止まり、又洋燈の火が自然に消えてしまふといふ樣な珍現象が起つた位で、北海道でも未曾有の寒さ。樺太の南半が我が國の領地になる以前に於ては、之が我が國で測り得た最低の氣溫であつたのである。無論かういふ寒さは旭川市附近でも滅多にあることではなく、通例は最低の平均が攝氏の零下三



旭川市嚴寒期の氷柱

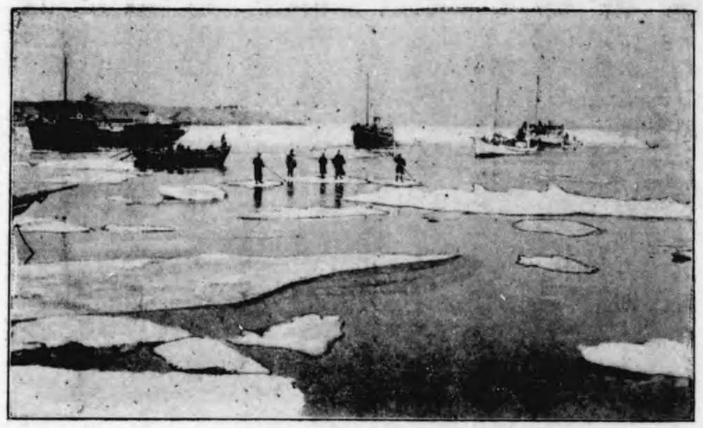
十度である。

北海道本島中旭川地方と相並んで寒さの強いのは十勝の帶廣地方である。帶廣測候所で從來觀測し得た最低の氣溫は攝氏の零下三十八度二分で、明治三十五年一月二十六日に測つたのである（旭川測候所で攝氏零下四十一度の氣溫を觀測した翌日）。勿論帶廣でも毎年かういふ低い氣溫に出會ふ譯ではない。普通の年の最低氣溫の平均は同零下三十度七分で旭川と大差はなく、寧ろ旭川よりも少しく低いのを常とする。

隨つて旭川や帶廣などでは、氣溫が零下二

十度よりも下る場合には小學校の始業時刻を午前十時とし、零下三十度以上に下る場合には臨時休業とし、花火を打上げて其の合圖にする。之は單に旭川、帶廣兩地に限る譯ではなく、道内の他の地に於ても、實施して居る處が少くない。

位置や地形から察すれば、十勝を始めとして其の東西に連る釧路、根室、日高、膽振などは北に山を負ひ、南は太平洋に向つて居る處であるから、北見、天鹽、石狩方面よりも多少氣溫が高かるべきである。然るに事實は其の反對で、太平洋沿岸地方は日本海沿岸地帶よりも寒さが强い。本島の最北部なる稚内地方の海は殆んで結氷することはないが、根室港附近の海面は屢結氷する。之は外ではない本島の日本海方面には近く其の海岸を洗つて北上する**對馬海流**（暖流）があり、又其の支流が宗谷海峽を經てオホーツク海に向つて居り、以て其の沿海地帶の寒さを和げるに反し、太平洋方面に於ては、勘察加方面より流れ來る**千島海流**即ち**親潮**（寒流）が其の海岸近くを流れて陸上の氣溫を低めるのみならず、根室方面には屢**流氷**が流れついて一層寒さを强くするのである。斯樣な次第で北海道の氣候には近海を流れる海流が甚大の關係を持つて居る。



根室港の流氷

流氷は大抵毎年十二月下旬から、翌年四月下旬に至る間主として根室近海及び北見東海岸地方に襲來して沿岸一帶を封鎖する。爲に船舶の交通も杜絶し、漁船の出動も休止することになる。

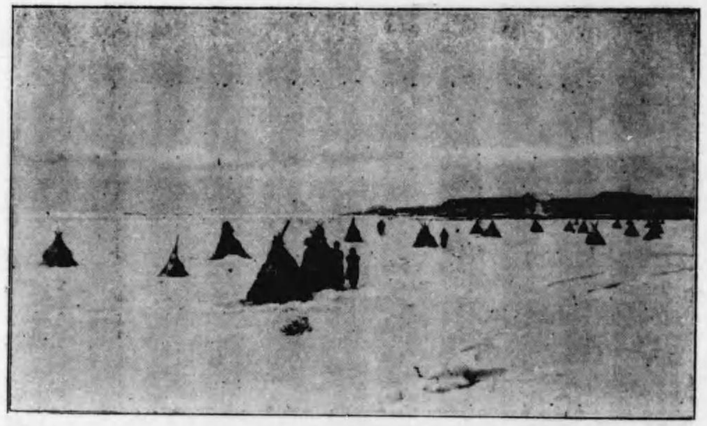
尙、太平洋近海及び宗谷海峽方面に於ては、毎年五月頃から八月頃に至る間、屢々海上に濃霧がかかつて航海者を惱ますことが少くない。殊に十勝、釧路、根室の海濱地帶では、濃霧が陸上にも襲來することが多い爲に、此の季節に

は展望の利かない場合が多い。航海者は之を**ガス**と呼んで居るが、一度甚だしいガスに出會へば、眞に咫尺を辨ぜず、一間先も見えないから、安心して船を進めることも退けることも出來ない。爲に船では警笛などを鳴らし、他の船との衝突を避けながら其の霧るのを待つのである。ガスは主として寒暖兩流の相接觸する場處に生ずるもので、暖流上の比較的高溫多濕の空氣が、寒流上の冷却せる空氣に觸れ、急に氣溫が低下する爲に、運び來つた水蒸氣が凝結して霧となるのである。ガスは宗谷海峽にも多く、又津輕海峽でも時々出會ふが、本島近くの日本海には極めて少い。顧みれば明治三十八年五月二十七、八日の日本海大海戰の前、露國の波羅的艦隊が東航するに當つて、同艦隊が津輕海峽或は宗谷海峽を通過するか、或は對馬海峽に向ふかは世の一大疑問であつた。然るに時の我が聯合艦隊司令長官東鄕（平八郎）大將は、敵の艦隊が必ず對馬海峽に來ることを確信して、之に對する準備を整へ、以て大成功を收めたことがある。大海戰後に至り敵の降將ネボカトフが降伏手續を濟ませた際、東鄕大將に向つて「閣下は如何にして我が艦隊が對馬海峽に向ふことを知り給ひしか。」と尋ねた。すると大將は微笑を浮べながら、

「今は濃霧の發生し易い時。津輕、宗谷の海峽は大艦隊の取るべき安全なる航路にあらず。仍つて公等は必ず對馬海峽に來るべしと確信せり。」

と答へた。爲にネボカトフは大いに大將の聰明に感服したといふこと。誠に痛快な話である。

次に北海道の夏は相當に暑く、氷店も出れば海水浴場も繁昌する。今茲に夏の最高氣溫を求めると、帶廣で攝氏三十七度八分（大正十三年七



根室港内氷上のコマイ魚釣

函館市内大森濱の海水浴

月十二日觀測）、網走で同三十六度（同十三年八月十一日觀測）、旭川で三十五度（同九年七月二十五日觀測）を觀測したことがある（東京で觀測した最高氣溫は明治十九年七月十四日の三十六度六分）。併し之は是等の測候所で測り得た氣溫の最高極數で、一時の變調氣溫。固より常態とは見られない。毎年氣溫の最も高い八月の最高氣溫の平均を見れば、帶廣は攝氏三十二度二分、旭川は同三十一度六分（札幌は同三十一度、網走は三十度八分）である（京都は同三十五度四分、大阪は同三十五度二分、東京は三十三度六分）。卽ち北海道本島中の大陸的氣候地域たる帶廣、旭川地方の夏の

氣溫は其の位置に比すれば意外に高く、爲に上川平野の如きは、特に米作の好適地となつて居る譯であるが、固より苦痛を感ずるといふ暑さではなく、又其の高溫も日盛數時間のことで、暑さの繼續時間が短く、朝晩は涼しい。つまり夏は北海道にも存外暑い處もあるとはいふものの、苦にする程の暑さではない。寧ろ冬季に於ける長い嚴寒期が北海道發展の障碍になつて居る譯である。

さりながら之を西比利亞或は滿洲方面の酷寒に比すれば、遙に凌ぎ易く、決して悲觀すべき處ではない。現に未開墾地に於ける伐木作業及び木材の運搬の如きは積雪堅氷のある時期が便利であるから、冬も雪の降らない日には盛に戸外で活動する人が少くないのである。今や政府は北海道第二期の拓殖計畫を立てて其の實行に移つて居り、又北海道の冬も恐るるに足らずとし、移つて其の開拓に當る人が年々增加しつつある。スキーヤーの如きは冬を待ち構へ、積雪を見るや否や、直ちにスキーの滑走を始めて汗を流し、全く寒さ知らずに冬を送つて居る。

顧みれば、秩父宮殿下には昭和三年二月二十一日から三月四日まで御滯道あらせられ、冬の本道各地を御視察あらせられ、札幌市附近の三角山、手稲山及び昆布驛附近の青山溫泉では、スキーの滑走をも試みさせられた。皇族の御方々で嚴寒期に本道を御視察あらせられたのは、實に殿下が其の嚆矢。本道官民は勿論、國民一般が深く感激したことである。

雪中の伐木作業

第四章　産業

鑛業　北海道には金、銀、銅、滿俺、鐵などの鑛山もあるが、金屬鑛山には大いに誇るべきものはなく、石炭、硫黃など非金屬鑛山に於て我が鑛業界の重鎭となつて居る。殊に石炭の産額は頗る多く、全國中唯福岡縣に及ばないだけである。炭田は石狩を始め、釧路、天鹽方面等諸處に在るが、全道の石炭産額の約九割を出すのは石狩炭田で、其の他は極めて少量である。

石狩炭田　は夕張山脈の西側で、北は空知川より南は夕張川（江別川の支流）に至る間の山地に於ける諸炭坑の總稱である。此の地域は南北凡そ二十一里、東西約五里に亘り、北海道炭礦汽船株式會社を始め、三菱鑛業株式會社、三井鑛山株式會社、大倉鑛業株式會社等數多の鑛業權者が盛に採炭して居る處。我が國では福岡縣の筑豐炭田に亜ぐ大炭田で、其の埋藏量は四十億噸と稱せられ、炭質頗る優秀であるが、最初何處

で石炭を發見したものか判然しない。

北海道及び樺太の探檢家として有名な**松浦武四郎**（明治二十二年二月十日歿す。此の人の略歷は本書近畿の卷第四四頁に載せてある）が安政年間に蝦夷地を跋渉して空知川を溯つた時、川岸に露出して居る炭層を認めたことがある。其の地は現に北海道炭礦汽船株式會社が經營して居る**空知炭礦**の礦區に屬するといふことであるが、之以前に於ける發見者の有無は不明である。

又現在同會社が採炭して居る**幌内炭礦**の沿革を見るに、明治元年今の石狩町の人**木村吉太郎**なる者が、小樽の本願寺別院建築用材を幌内附近の山中で伐採中、圖らず炭層を發見したものだといふことである。併し木村は其の何たるかを知らず、唯翌二年下山の際、其の塊を持ち歸つて、之を多くの人々に示した。所が膽振國千歳郡島松の獵師**紺野松五郎**が其の石炭なることを知り、同四年幌内に行き、炭塊數個を取り來つて之を開拓使廳に差出した。然るに當時同廳は函館から札幌に移つて間もない時、多用に紛れて之を顧みなかつた。此の事を傳へ聞いた札幌の人**早川長十郎**は同五年わざ〳〵幌内に行つて炭塊を持ち歸り、具に其の狀況を同廳に申告した。此の時開拓使四等出仕であつた**榎本武揚**（明治四十一年十月二十七日薨ず）は親しく其の狀態を聞質した上、其の炭塊を分析せしめて、良質の石炭なることを確めた。かくて同六年榎本は開拓使中判官となり、道内の物産取調を擔任することとなるや、自ら空知川を溯つて其の沿岸の炭層を視察し炭塊を持ち歸つて之を分析せしめたのみならず、開拓使雇の米人**ライマン**を派遣して空知、幌内のみならず、此の方面に於ける炭層の位置、炭量等を調査せしめた。其の後同九年に至り、ライマンは北海道地質測量の結果を報告するに當つて、夕張地方に石炭の存在することを明言した。

其の頃から多少石炭に注意する樣になり、同十三年開拓使廳の**島田純一**及び**山際永吾**は**幾春別炭礦**を發見した。併し直ちに採掘に着手はしなかつた。漸く同十六年秋先づ幌内炭礦が採掘を始め、同十八年に至つて幾春別炭礦の開鑿工事が起つたが、ど

ちらも官業。まだ試驗的の時代で、採炭業は一向に振はなかつた。今日石狩炭田の最大中心となつて居る夕張地方の如きも、既にライマンが石炭の存在を明言したるに拘はらず、地勢峻嶮、交通不便の爲に、當時はまだ一向調査も出來てゐなかつた。

然るに、北海道廳（明治十九年一月二十六日開廳）の技師に坂市太郎といふ人があつた。嘗てライマンに隨つて測量を實習し、尙深くライマンの言を信じてゐたのみならず、夕張方面の地理に通じてゐた處から、明治二十一年秋此の方面の踏査を企て、幌内から炭層を逐ひ、山谷を踰えて夕張地方に入り、今の夕張町内の谷間に累々たる炭層を發見した。之が今日北海道の炭礦中採炭額の最も多い夕張炭礦（石狩國夕張郡夕張町）開發の基となり、同炭礦は同二十三年六月の開坑以來北海道炭礦汽船株式會社の經營として今日に及んで居る。

現在夕張町内には右の外同會社經營の新夕張炭礦（町内字新夕張）、眞谷地炭礦（町内字眞谷地）、登川炭礦（町内字登川）及び三菱鑛業株式會社經營の三菱大夕張炭礦（町内字大夕張）などがあつて、一大炭礦地となつて居り、夕張町は此の地の炭礦開發の爲に發達したものである。

以上の外、石狩炭田中には北海道炭礦汽船會社經營の萬字（石狩國空知郡栗澤村字萬字）、萬字美流渡（同村字美流渡）、幌内（同郡三笠山村字幌内）、幾春別（同村字幾春別）、奔別（同字内奔別）、空知（同郡歌志内村）及び三菱鑛業株式會社經營の美流渡（同郡栗澤村字美流渡）、三菱美唄（同郡沼貝町字美唄）、芦別（同郡芦別村）並に三井鑛山株式會社の砂川（同郡砂川町及び歌志内村）、北海道鑛業株式會社の新歌志内（同郡歌志内村字下歌志内）、住友坂炭礦株式會社の上歌志内（同郡歌志内村）、大倉鑛業株式會社の茂尻（同郡赤平村）、日本石油株式會社の光珠（同郡沼貝

町字美唄）等數多の炭礦があつて、いづれも盛に石炭を採掘して居る。爲に石狩炭田は本道石炭總產額の八割乃至九割を出して居る。

釧路炭田　は釧路平野の中央部に散在する採炭業地の總稱であるが、今は其の產炭額は多くない。其の中稍著しい炭礦は太平洋炭礦株式會社經營の釧路礦業所春採坑（釧路市字春採）、同別保坑（釧路郡釧路村）及び雄別炭礦鐵道株式會社の雄別炭礦（阿寒郡舌辛村）並に北日本鑛業株式會社の尺別炭礦（白糠郡音別村字尺別）などである。

此の外、天鹽、北見、膽振、後志等にも多少石炭產地はあるが、いづれも產額が少なくて、特に擧げる程のものはない。併し北海道に於ける近來の石炭全產額は凡そ六百五十萬噸內外で、全國の石炭總產額の四分の一以上を占め、其の約半數は道外に向つて積出される。室蘭は石炭積出しの最も多い港で、小樽が之に亞ぎ、どちらにも石炭積込用の高架棧橋が設けてある。

硫黃　北海道には火山が多い爲に、硫黃の產地に富み、諸處に其の採取が行はれて居る。其の全道の產額は日本全國總產額の四分の一以上を占め、岩手縣に一歩を讓るのみである。道內第一の硫黃產地は膽振國有珠郡社臺村の幌別硫黃鑛山で（北海道硫黃株式會社の經營）、鐵道室蘭線幌別驛の北方約四里に在り、其の內約二里半の間には專用の馬車軌道が設けてある。

之に亞ぐのは岩雄登鑛山で（後志國磯谷郡南尻別村より膽振國虻田郡狩太村及び俱知安町に跨る。北海道硫黃株式會社の經營）、俱知安驛の西方約三里に在る。此の外平山鑛山（石狩國空知郡上富良野村。平山硫黃鑛業株式會社の經營）、鹿部鑛山（渡島國龜田郡七飯村より茅部郡鹿部村に跨る。軍川驛の東方約三里半。岡富鑛業株式會社の經營）、熊泊鑛山（渡島國茅部郡臼尻村。軍川驛の南東約八里。大正硫黃株式會社の經營）などは著しいもので、何れも年產額千噸以上に達する。

石油　北海道中には諸處に石油徴候地があつて、其の分布區域は可なりに廣い。隨つて現に採油中のものもあり、又試錐中の處もあるが、まだ産額の多い油田を發見するには至らない。現今稍成績の好いのは石狩國石狩郡石狩町内に屬する**石狩鑛山**のみである。此の鑛山は石狩町の市街地を北東に距ること約三里に在つて、日本石油株式會社の經營。原油を鐵道函館本線輕川驛附近なる石狩鑛山附屬北海道製油所に送つて精製して居る。

金屬鑛山　北海道にも諸種の金屬鑛山が少くないが、誇とすべき大鑛山は甚だ少い。其の中最も有名なものは**鴻之舞鑛山**で、北見の紋別港附近でオホーツク海に注ぐ藻鼈川の河口から約六里の上流に在る。當鑛山は大正五年一月の發見で、金、銀、銅を産し、住友合資會社の經營である。之に亞ぐものは**國富鑛山**といひ、後志の岩内郡小澤村に在つて、鐵道岩内線國富驛の北十餘町に位し、此の間に鑛山專用の馬車軌道が通じて居る。金、銀、銅、鉛、亞鉛、滿俺を産し、田中鑛業株式會社の經營である。

又膽振の虻田郡洞爺村の**洞爺鑛山**は大正七年八月此の附近の農民が發見したもので新しい鑛山であるが、金、銀、銅、鉛、亞鉛を含む礦石を出し、存外好成績を示して居る。日本産業株式會社の經營で、其の礦石は全部有珠港から海路遙に大分縣佐賀關製煉所に送つて居る。

此の外、田中鑛業株式會社經營の**明治鑛山**（後志國余市郡赤井川村に在る。鐵道函館本線銀山驛の東方三里餘。此の間鑛山專用の馬車軌道が通じて居る。金、銅、鉛を含む鑛石を國富鑛山に送つて製錬する）、及び**轟鑛山**（同國同郡同村内。明治鑛山の南東一里半餘。此の間專用の馬車軌道がある。金、銀を産す。鑛石の一部を國富鑛山の製錬所に送る）、並に川崎造船所經營の**靜狩鑛山**（膽振國山越郡長萬部村靜狩。鐵道長輪線靜狩驛の北方約十五町。金、銀鑛の優良品を秋田縣小坂鑛山に賣り、其の他は自山にて製錬）などは稍著しいものであり、尙株式會社日本製鋼所經營の**倶知安鑛山**（膽振國虻田郡東倶知安村）は鐵鑛産地として知られて居るが、其の産額は多くない。其の鐵鑛は全部之を室蘭市内の日本製鋼所輪西製鐵所に送つて製錬して居る。

針葉樹の原生林

今や北海道の鑛產物年總產額は凡そ六千萬圓內外に上り、鑛業は道內產業上重要な地位を占めて居る。

林業　北海道の森林全面積は六百五十餘萬町歩に上り、本道總面積の約六割を占めて居る。其の內國有林が最も多く御料林、公有林、私有林が次第に之に亞いで居る。今之を林相によつて區別すれば、濶葉樹林が最も多く、濶葉樹と針葉樹との混淆樹林が之に亞ぎ、針葉樹林が最も少い。濶葉樹の主なるものは楢、桂、厚朴、槭樹、栁、刺楸、鹽地、菩提樹、

落葉松の人工林

栁、山毛欅、七葉樹等であり、針葉樹の主要なものは蝦夷松、椴松、落葉松、姫小松、櫚等で、それ〴〵用途に相違はあるが、年々伐採せられる森林の富は莫大である。殊に蝦夷松、椴松は製紙原料、建築用材等として重んぜられ、其の他の樹木は或は建築用材、或は家具、樽、箱鐵道枕木、漆器等の用材とし、或は薪炭材等として廣く需用せられる。

元來北海道の開墾事業は、先づ太古以來の原始林を伐採し、更に其の地を開拓して田畑とするのであるから、夙に開拓

が行はれた地方に於ては、殆んど原始林を見ることが出來ない。今日交通の便利な地方に之を求めるならば、札幌の市街附近に**圓山**及び**藻岩**の原始林があり、江別の町内に**野幌**の原始林がある。いづれも天然記念物として保護せられ、漸く太古以來の林相を傳へて居る譯である。併し今日でも十勝、釧路、北見、天鹽等の國境方面には、まだ嘗て斧鉞を加へたことのない大自然林が多くて、本道に於ける林業の前途を誇るものの如くに見える。

道内に於ける林産物年總産額は凡そ三千萬圓であるが、官民共に森林の經營に努め、頻りに造林を爲しつつあるから、將來は益々發達するに相違ない。唯憂ふべきは**山火**の害で、其の被害は頗る多い。爲に全道森林地には「山火注意」の札が到る處に掲げてあつて、頻りに警戒を加へて居るが、しかも尙毎年百回以上の山火がある。其の原因は種々で、煙草の吸殻、開墾地火入の延燒、汽車の飛火などによるものもあり、又原因不明の場合も少くないが、兎に角一度山火が起れば、次第に燃え擴がつて幾日も消すことが出來ない。爲に軍隊の出動を見ることさへもある。幸に兵士の力で消し止め得る場合もあるが、さもない時には自然の大雨を待つより外道のないこともある。山火の最も多いのは五、六月頃であるが、此の頃は風が强いから被害區域も廣くなり易い傾向がある。失火原因の判然たるものの内、最も多いのは煙草の吸殻であるから、喫煙家が森林内に於ける煙草の吸殻の始末に注意するならば、山火の回數は餘程少くなるに相違ない。此の外山中に於ける焚火の不始末に基づく山火も少くないから、登山者は焚火の後始末に甚深の注意を拂はなければならない。山火の跡は實に悲慘で、折角育て上げた樹木は忽ち燒け焦げて用に立たず、後の整理に手數を要する上、燒跡の焦土には容易に造林することが出來ないのである。

道内諸處に製材業及び製紙業などが起つて居るが、其の盛なのは主として市街地であるから、本書從來の例によつて、他の諸工業と共に之を都會の章に述べることとし茲に本道に於ける木材積出しの大門戸を求めると、釧路、小樽、室蘭などで、是等の

港から内地は勿論海外にも送り出して居る。

農業　蝦夷島を北海道と改稱した明治二年に於ける本道の耕地面積は僅かに八百十五町歩であつた。其の後年を經ること約六十年、今や本道の耕地は約八十萬町歩となり、實に九百八十一倍餘に增して居る。隨つて現在の耕地の大部分は曾ては大森林に蔽はれて、熊、羆などが徘徊してゐた處。現在北海道廳の所在地たる札幌市の如きも、開道當時は全土殆んど密林に蔽はれて、殆んど無人の境であつたのである。然るに今や往時の大森林は化して或は美田良圃となり、或は市街地、村落となつて、昔時の俤を留めず、身の蝦夷地に在るを疑はしめるに至つて居る。其の發展は實に驚くべきものであるが、直接土地の開墾に當つた者は主として開道以後內地から移住した農民である。是等の人々は奮然蹶起北海の天を望み、馴れし故鄉を立出でて、海陸幾百里を隔つる密林中の人となり、雪の降る日も風の日も、樹を伐り、土地を拓いて倦むことを知らず、終に北海道をして我が國の一大實庫たらしめたのである。蓋し移住農民不斷の努力は、本道の開發に與つて大いに力あるものと謂はなければならない。今や我が政府は本道第二期の拓殖計畫を樹てて其の實行に移つて居る。其の事業の內容は多方面に亘り、單に農業方面のみではないが、新に多數の農民を迎へて耕地の增加を圖ることも主要事業の一つであり、又年々之に應じて移住しつゝある農民も多いから、本道に於ける農業は將來更に一大發展をなすに相違ない。

近來本道の農產物年總價額は約一億六千萬圓に上り、本道產業中第一位を占める工業（工業品年產總價額は凡そ一億七千萬圓）に一歩を讓るのみである。由來本道は地域頗る廣濶にして、各地其の風土を異にし、作物は固より耕種、肥培等に至るまで、地方によつて自ら適否の別あるが爲、一地方に於ける試驗、調査の結果を、直ちに採つて他地方に應用することの出來ない事情がある。隨つて道內適當の地を選んで、廣く農事試驗機關を配置し、彼之相呼應して農業上の研究調査を行ふ必要がある。現在札幌市の北西に接する琴似村に**北海道農事試驗場**（本場）があるが、此の外に**支場**が五箇處ある

（石狩國上川郡永山村の**上川支場**、十勝國河西郡帶廣町の**十勝支場**、北見國常呂郡野付牛町の**北見支場**、渡島國亀田郡大野村の**渡島支場**及び根室國標津郡標津村の**根室支場**）以上は何れも國費による研究機關であるが、外に地方費による**農事試作場**が九箇處ある。

北海道に於ける重要農產物は米、麥、大豆、小豆、豌豆、菜豆、玉蜀黍、蕎麥、黍、馬鈴薯、南瓜、蕃茄、胡蘿蔔、薄荷、除蟲菊、亞麻、甘藍、牛蒡、大根等である。本道の面積は他の府縣よりも著しく廣いから、是等の物の產額を他の府縣と對照して其の順位を見ることの當を得ないのは勿論であるが、一方本道の人口は地積に比すれば著しく少いのであるから、假に統計表面によつて其の順位を定めるならば、右の內米、麥、牛蒡、大根の外は皆日本第一の地位を占めて居り、麥の內燕麥だけは矢張日本第一の產額を示して居る。

米　北海道に於ける稻作の起源は松前藩時代で、今より凡そ二百五十年前である。卽ち靈元天皇の貞享二年（五代將軍德川綱吉時代）渡島國亀田郡文月村の人吉田吉右衞門が水田若干を開いたのが最初だといふことである。其の後元祿五年（同將軍時代）に至り、作右衞門といふ農夫も同郡亀田村に稻作を試みたが、二三年にして之を廢した。其の頃卽ち同七年同國上磯郡茂邊地村に於ても稻作を試みる者があつて、新米を藩主に献上したことがある。かくて元文四年（八代將軍吉宗時代）には松前藩が亀田郡大野村及び松前郡福島村に水田を開いて稻を試植したが、四年にして之を廢した。此の外にも稻作を試みる者があつたが、孰れも好成績を擧げ得なかつた爲に、同藩時代には稻作は見込のないものと斷念せられてゐたものである。

然るに、德川幕府が本道を直轄することとなつてから、一時稻作を奬勵した爲に、安政三年頃（十三代將軍家定時代）には渡島國は勿論、後志、石狩方面にも多少水田が開かれ、文久年間（十四代將軍家茂時代）には函館地方のみに於ても約三百町歩の水田を見ることとなつた。然るに慶應二年の凶作に會ひ、渡島地方に於て僅かに白髭、赤毛の種子を殘し得るに過ぎなかつた爲に、一頓挫を來して稻作は殆んど廢せられ、之に代つて

稗の栽培が盛んに行はれることとなつた。

明治二年開拓使が設置せられた時、渡島方面には多少の水田が殘つて居り、又農家も稲作を斷念しなかつたのみならず、翌三年から同十六年に至る間は、年々相當の收穫を得た爲に、此の間に水田開發の氣運が起つて來た。卽ち明治五年頃より石狩、膽振等の移民中にも米作を試みる者が出來た。其の中石狩國札幌郡に移住した**中山久藏**なる人は明治六年渡島の龜田郡内から、赤毛と稱する籾種を買入れて之を試植し、年々反當り二石以上の好成績を收めた所から、鋭意水田を開發して世の模範となり、開拓使も亦力を稲作の奬勵に注ぐやうになつた。

然るに明治十七年は氣候不順にして夏雨が多く、爲に稲の生育が不良で、全道の平均は反當り僅かに二斗四升に過ぎなかつた。之が爲に稲作は復其の氣勢を挫かれ、明治十九年北海道廳開設當時には稲作は著しき進歩を見るに至らず、まだ之を危險視する傾向があつた。

さりながら、開道以來頻りに各府縣から本道に移住して開墾に從事した農民は、元來主力を米作に注ぎ、米食に慣れ、又畑作よりも米作の利益の多いことを知つて居る者ばかりである。隨つて彼等は米の買喰ひを非常に心細く感じ、何とかして稲を作らうといふ考へが念頭を去らなかつた。種々苦心研究の結果、稲の品種を選び、又其の成育に必要な氣溫に達する土地を選定すれば、稲作も有望なりと信ずるやうになつたものである。かくて**上川平野**が米作地として先づ名を爲したものであるが、其の起りを調べると、面白い話がある。

時は明治二十四年のこと、時の京都府知事**北垣國道**が觀光の爲、北海道に渡り、上川地方を視察した。當時旭川はまだ市街の測量も出來ては居らず、唯**永山村**に僅かばかりの屯田兵が移住してゐるに過ぎなかつた。此の時北垣知事は永山村に入り、路傍の草の實を取り上げて之を掌上に揉み出しながら、同村戸長**本田親美**を顧みて、「草の實が斯の通り成熟して居る。稲も草であるから、作れば出來ないことはあるまい。」

と話した。本田戸長は此の一言に感奮し、翌二十五年請うて老農中山久藏の自作にかかる種籾一升の寄贈を受け、小使久保吉五郎を相手として、新に三畝歩の水田を開き始めて稻を試作した。生憎此の年は旱天續き、灌漑用水の不足に苦しんだが、井水を汲んで、灌漑に努めた爲に、稻は漸く成熟し、五斗の籾を收穫することが出來た。乃ち之を永山、東旭川の兩兵村及び雨紛の篤志家に分配したのであるが、之が上川平野水田開發の基となつたのである。前年本田戸長を感奮せしめた北垣知事は此の年七月北海道廳長官に轉じ、時の屯田兵司令官陸軍少將永山武四郎（明治二十八年十二月四日男爵を授けられ、同二十九年十月陸軍中將に昇り、同三十七年五月二十七日六十七歳で薨ず。其の墓は札幌市共同墓地に在る。）と共に永山屯田兵の閲兵式を行つた後、本田戸長が自ら進んで試作した稻作の好成績であつたことを聞き、大いに滿足し、爾後頻りに水田の開發を奬勵したものである。又種籾の分配を受けた地方の有志も亦皆力を稻作に注いだ爲に、上川平野の米作は次第に隆盛に向つた。

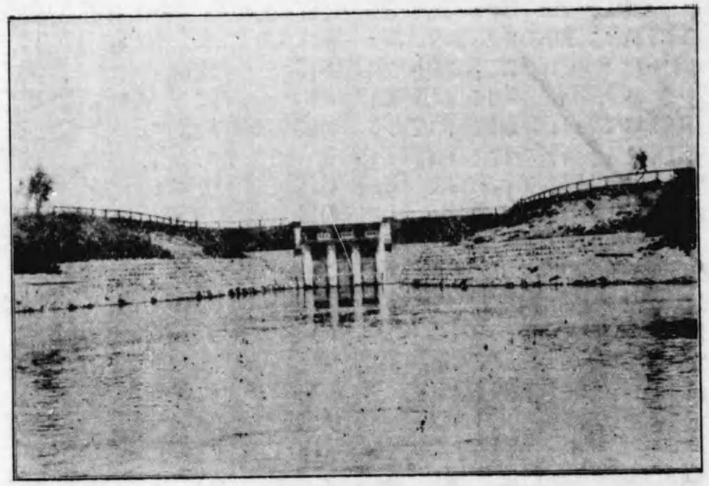
本田親美

餘談に亘るが、本田戸長は其の後或は選ばれて旭川町（旭川が市となつたのは大正十一年八月一日）初代の町長となり、或は貯蓄銀行の重役となり、或は馬車鐵道、倉庫會社等の社長となり、常に旭川の發展に對する努力を惜まなかつた。今日旭川市の有する基本財産約四百六十萬圓の内凡そ三百八十萬圓は實に本田戸長の盡力によつて得たものだといふことである。明治四十二年二月二十三日六十三歳を以て歿し、神居の共葬墓地に葬られたが、其の後旭川市の有志者が本田翁功績碑を市内常磐公園内に建て、以て翁の功績を永久に傳へて居る。其の除幕式は大正十四年九月二十日に行はれたので

ある。北垣長官晩年の經歴の大要は既に本書近畿の部（第八五頁）に述べて置いたから、茲には載せない。

さて、上川平野に於ける稲作は次第に盛になつた。之に刺戟せられて他の地方に於ても米作熱が高まつて來た。稲の品種の改良、選擇にも多大の努力が拂はれるやうになつた。然るに水田の開發は小規模のものは兎に角、大規模のものに至つては、精細なる調査設計を要し、又其の工事に大金を要する爲、實に容易の業ではない。幸に東京に勸業銀行が設けられ、本道には拓殖銀行が設立せられて、資金融通の途が開かれた爲に、多大の便利を得ることとなつた。即ち石狩國夕張郡角田村に於て、明治三十一年勸業銀行から四萬圓を借り入れ、一大灌漑溝を開鑿したのを始めとし、同三十五年土功組合法の發布があつて以來、各地に土功組合が設けられて、大灌漑溝が開鑿せられる樣になつて來た。

今や上川平野は見事に開かれて、見渡す限り殆んど水田ばかり、其の他の地に於ても土功組合による灌漑溝及び造田の工事が行はれて、水田が著しく增しつつある。由來、米は我が國に於ける食料品中、最も重要な地位を占め、必須缺くべからざるものとなつて居る關係から、其の價額の變動が比較的に少い。外國の需要狀態如何によつて、相場に著しい變動の起り易いものに比すれば、當り外れの極めて少い安全な農產物となつて居る。其の上北海道の灌漑溝及び排水溝の開鑿費に對しては五割、造田費に對しては四割の補助金が出る關係もあり、又本道に適する稲の品種としては、



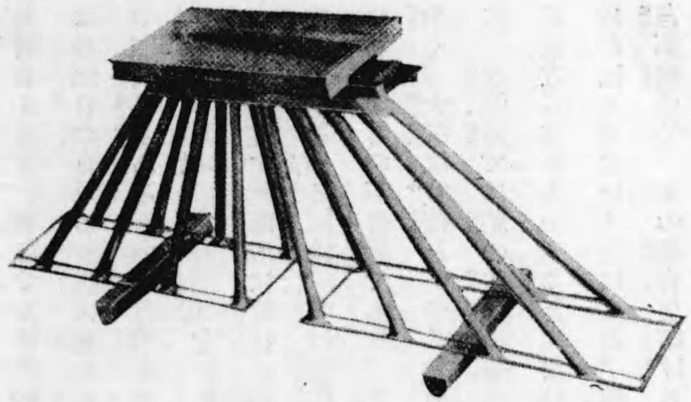
大正用水第一號導水門

既に赤毛三號、坊主一號、同二號、同五號、同六號、津輕早稲一等、十勝黒毛、北見赤毛、魁などが優良なものとして選定せられて居るから、水田開發事業は盛になる一方と見てよい。

本道に於て土功組合による大規模の水田開發事業の元祖と稱せられる**深川土功組合**（事務所は鐵道函館本線から留萌線の分岐する處の深川町に在る）の經營にかかる**大正用水**の如きは石狩川の水を引用するもので、大正元年に起工し、同五年に通水したものであるが、其の水路の全長は幹線、支線、小支線、放水路等を合算すれば、實に三十里餘に達し其の灌漑面積は五千町歩に近いのである。其の外**空知土功組合**（灌漑面積約四千町歩）、**神龍土功組合**（同約三千町歩）、**秩父別土功組合**（同約三千町歩）、**沼田土功組合**（同約千町歩）の如きも有名なものであるが、現に工事中の**北海土功組合**（同約一萬一千町歩）は今では本道第一の大灌漑工事として知られて居る。

目下、本道に於ける水田全面積は十七萬町歩に近く、米の年産額は二百六十萬石を突破する盛況を示して居る。（其の内凡そ百萬石は上川平野に產するのである。）隨つて本道に於ては米は自給自足の狀態に達して居るが、將來開發して水田と爲すべき好適地が凡そ三十二萬町歩あるといふ見積りであるから、今後水田の開發が進むにつれて、本道の米作が廣く日本の食料問題を解決する上に、多少の關係を持つことになるであらう。

さて、茲に北海道に於ける稻作法について特に注意すべきことがある。元來各府縣に於て稻を作るには、先づ苗代を設けて其の苗を育て、適當の時期を見て、之を水田に移植するのが普通である。之が所謂田植であるが、北海道で田植をする處は極めて少く、大抵は實蒔といつて、種籾を直接水田に蒔くのである。なぜさうするかといふに、北海道では稻の生育に適する高溫時期が短い爲に、百日以内に稻を育てあげなければならないといふことになつて居る。隨つて稻の發育を促す爲には一日をも爭はなければならないことになる。然るに苗代から苗を移植することにすれば、田植後一時苗が弱つて、其の發育を妨げる。又本道で米作を重ずる農家は一戸につき大抵三町五



籾　蒔　機

段歩内外、多きは七、八町歩の水田を持つて居るから、之に一株〳〵手によつて苗を植付けるとすれば、全部の田植には少からぬ人手と日數がかかる。爲に此の方面から見ても、田植は不得策と謂はなければならない。

實蒔にしても、一株分幾粒宛かの種籾を規則正しく適當の距離を保たせつつ蒔付ける仕事を、一株〳〵別々に人手で行ふならば、容易ならぬ勞力と少からぬ時間を要して、大規模の稻作は出來ないことになる。然るに幸にも旭川の人**末武安次郎**といふ篤志家が苦心研究の末、誠に便利重寶な**水田籾蒔機**を發明し、明治三十八年十月十二日專賣特許を得て、翌年之を道内の水田經營者に提供した。當時は上川平野に於ても稻の試作時代であつたが、本機の出現あつて、始めて大規模の水田經營も困難ならずとの自信を得たものである。今本機を執つて水田中に立ち、兩手を以て機を上下しつつ進んで行けば、一度に一定數の種籾が十六株分宛蒔くことが出來、株と株との間の距離も一定して規則正しくなる。隨つて稻に對する日當りもよく、除草、刈取などにも少からぬ便利がある。しかも一人で一日八段歩内外の蒔付が出來る爲に本機は忽ち本道に於ける水田經營者の必需品となり、水田開發上多大の貢献をなしたものである。本機の發明者安次郎は大正二年四月に歿したが、同九年本道産米百萬石祝賀會が擧げられた時、本道開拓功勞者の一人として表彰の光榮を荷つたのである。餘談に亘るが嘗て本道初等教育界の重鎮として名を成し、遂に道廳長官の表彰を受けた教育功勞者で、現に旭川市の文化商會主たる末武政一氏は、安次郎の五男である。

顧みれば、北海道は嘗て米作不可能と見られた處である。然るに其の後官民協力研

究の結果、今では立派な米作地として自給自足の域に達し、更に將來は窮迫せる我が食料問題に對して、之を緩和せんとする氣運が開かれつつある。此の事は本道農業界の大なる誇と謂はなければならない。

麥類　北海道に於ける麥類の作付段別總面積は、約十六萬町歩に達する。其の內大部分を占めるのは燕麥で（十二萬町歩を超ゆ）稞麥が之に亞ぎ、小麥、大麥が更に之に相亞ぐ。**燕麥**は主として馬糧に用ひられ、道の內外に需要ある外、軍馬の飼料として每年陸軍糧秣廠に買上げられるものが特に多い。**稞麥**は農家の主要食料に供せられ、**小麥**は小麥粉及び醬油釀造に用ひられ、**大麥**は農家の食料ともなり、又麥酒の釀造にも供せられる。

稞麥、小麥、大麥の產額は各府縣に對して誇るに足らないが、燕麥の產額は本邦全產額の九割以上を占めて居る。

豆類　北海道に蠶豆は少いが、大豆、小豆、豌豆、菜豆はいづれも廣く栽培せられ、其の產額は皆日本第一である。隨つて道內の需要を滿たした上、內地に移出する高も頗る多く、尙靑豌豆、菜豆等は盛に海外に輸出せられて居る。

馬鈴薯　は農家の食料として重要なるのみならず、澱粉製造の原料となり、又澱粉を取去つた滓は酒精釀造の原料ともなる。爲に廣く全道に作られ、其の產額は日本第一である。

亞麻　亞麻の纖維は網糸、疊糸、綱類、粗布、夏服地などの原料になるもので、普通麻と稱へて居るが、日本在來の麻とは全く種類の異るものである。其の來歷を繹るに、明治初代のこと**黑田淸隆**が屯田兵制調査の爲、露國に出張した時、持ち歸つた亞麻の種子を屯田兵に試作せしめたことがある。然るに當時亞麻から其の纖維を採取する方法を知らず、收穫物を其の儘保存して置いた。所が明治十五年農商務省の吉田（健作）技師が本道巡廻中之を見出して、本道が亞麻の好適地なることを知り、道內に一大製麻會社を設ける必要を說いた。其の結果同二十年北海道製麻株式會社が設立せられ

ータクラト

同二十二年札幌附近に二十町歩の亞麻栽培地を設けた。其の上同年白耳義から其の耕作及び製線に堪能な老農を聘して其の方法を一般農家に傳授させた。爾來其の栽培は道内各地に行はれ、今や亞麻は本道に於ける重要農産物の一つとなつて居る。

甜菜　本道に於ける甜菜栽培の最初は明治十二年で、開拓使が其の種子を外國から輸入したものである。爾來其の栽培を奬勵したが、成功を見るに至らずして中絶した。然るに大正八年十勝國帶廣町外の川西村に北海道製糖株式會社が起り、翌年同國清水に日本甜菜製糖株式會社（大正十二年明治製糖株式會社に合併）が起つて甜菜から白糖を製造することとなつた爲に、其の栽培が行はれることとなり、今では道内に於ける作付段別は一萬町歩を超え、其の收穫高は三億斤以上に達する。併し其の過半は十勝國内の占める所となり、兩會社の製糖高は三千五百萬斤以上に達して居る。

北海道製糖株式會社直營の甜菜畑は四百餘町歩の大農場であるが、其の耕鋤に**トラクター**を用ひ、大農法によつて居るので有名である。現在同社使用のトラクターは六臺であるが、八寸乃至一尺二寸の深さに土を起し、一臺一日に八町九反歩の耕鋤能力を持つて居る。

從來甜菜耕作は農家の不慣の爲、豫期の成績を見ることが出來ず、新作物として多少不安を以て迎へられてゐたが、大正十二年度から、其の耕作者に對して、道廳が補助の途を開いた爲に、其の耕作者が次第に增しつつある。

薄荷　本道は全國第一の薄荷産地で、北見方面（網走支廳管内）及び石狩の一部（上川支

廳管内）が其の主産地である。其の栽培地の農家に於て簡單な機械を以て薄荷油を製し、之を神戸、横濱などから入込む商人に賣渡すのであるが、其の相場の高下の烈しいものである爲に、多少不安定の憂がある。爲に近來は其の栽培を減じて、より安全な米作に力を盡す傾向が生じて來て居る。

苹果　北海道産の果物中、最も重要なものは苹果で、其の産額は青森縣に及ばないだけである。其の主産地は積丹半島の東頸部なる余市町附近。町の本部ともいふべき舊市街は海濱に在つて、水産業の一大中心であるが、一帶の丘を隔てて其の南方に續く、山田方面に入れば、見渡す限り苹果畑。北海道帝國大學附屬余市果樹園、高山農園を始め數多の苹果園が打續いて居る。**高山農園**は特に有名なもので、其の經營者は高山吉五郎氏。明治四十四年八月時の皇太子殿下（後の大正天皇）が拓殖狀況御視察の爲、本道へ行啓あらせられた時、侍從御差遣の光榮に浴した。今氏の邸内には其の記念碑が建てあり、又氏は年々苹果を宮中に献上して居るのである。

聞けば、苹果の實の袋かけ、中拔の行はれる時期には、此の地方に入込む人夫が凡そ千人に上るといふこと。以て其の盛況の一端を察することが出來る。本道に於ける苹果の種類は頗る多いが、**緋ノ衣**（輸入番號によつて十九號ともいふ）**紅玉**（六號ともいふ）は優良品として知られて居る。

此の外、余市附近は梨、水蜜桃、葡萄及び野菜の栽培も行はれて、其の名産地にもなつて居る。

牧畜業　北海道には放牧適地が約九十七萬町歩あり、飼料も豐富、氣候も適順で、牧畜上天恵の多い處である。隨つて既に開拓使時代から斯業の發達を圖つて今日に至つて居るのであるが、耕作に馬を用ひる關係から、馬の飼育は特に盛で、其の總頭數は凡そ二十五萬頭。頭數の多いことは日本第一である。牛の總頭數は凡そ四萬五千頭に過ぎないが、今後農業の發達、耕地の開拓に伴つて、牛馬合計を百萬頭に達せしむる可能性確實なりと認められ、今や所謂百萬頭計畫を樹てて、第二期拓殖計畫完了と

馬耕

同時に其の實を擧げようと努力して居る。

道内畜産の改良發達に資する廳營の機關として、札幌市の南郊（札幌驛の南約二里）眞駒内に**北海道廳種畜場**がある。同場は明治九年の創立で、其の地積は三千四百餘町歩。馬、牛、豚、雞、兎を飼育して、優良種畜を供給して居る。隨つて同場の本道畜産に對する貢献は頗る甚大であるが、所謂百萬頭計畫に適應する爲の擴張事業の一として、**北見分場**を常呂郡訓子府（同名の驛を距る一里十餘町の地）に設けた。此の分場では專ら幼駒を育成するのである。

馬　往時本道に於ける馬は、總て南部地方から移入してゐたが、文化元年膽振國有珠、虻田兩郡内に始めて牧場を開いて、馬の蕃殖を試みたものだといふことである。其の後開拓使時代になつてから、種馬を米國より輸入し、諸處に牧馬場を設けて馬の改良蕃殖を圖り、同時に牧馬を奬勵した。爲に馬の飼育は年と共に盛になり、道内到る處に牧場を見るやうになつた。殊に太平洋沿岸地方は一般に雨量が少く、又熊笹、アイヌ藁など優良な飼料が多い爲に、牧場が多く、特に日高山脈の西側に於ける緩傾斜地は牧馬の好適地として知られて居る。日高國**新冠**に於ける御料牧場は道内に於て最も有名な馬の牧場であるが、其の地積は二十餘方里に上り、其の周圍を繞る木柵の延長が六十八里に達する。當牧場は明治八年開拓使が開いたものであるが、同十六年宮内省の所管に移つて新冠御料牧場といつてゐたものである。併し今は帝室林野局札幌支局新冠出張所となつて居る。此の外釧路の白糠、標茶及び十勝の仙美里の陸軍軍馬補充支部を始めとして觀るべき牧場が頗る多い。

眞駒内種畜場

牛　本道に始めて牛が移入せられたのは貞享元年で、天明年間には四季放牧によつて牛を飼養する者もあつたといふことである。併し安政五年函館奉行が渡島の軍川に牧場を開いて畜牛の蕃殖を圖つたのが、本道に於ける牛の牧場の最初だと傳へられて居る。開拓使時代以後頻りに外國種を輸入し、其の蕃殖に努めて今日に及んで居るが、ホルスタイン、エーアシヤー、ヒヨートホーンの三種が好成績を擧げて居る。本道に於ては乳牛の飼育が牡牛よりも遙かに多く、其の乳を飲料に供する外、多くはサツポロミルク、金線ミルクなど煉乳の原料に供せられて居る。

豚　本道に始めて豚が移入せられたのは寛政十一、二年頃で、江戸から傳來したものだといふことである。函館の開港後同地在留の外國人中には之を飼育するものがあり、開拓使では明治四年豚四頭を外人から買入れて、之を札幌で飼育したことがある。其の後新種を輸入し、同九年札幌に養豚場を設けてハムを製造した。之が恐らく本道に於ける肉製品製造の始めだらうといはれて居る。其の後次第に其の飼養者が增し、近來道内の豚總數は凡そ三萬三千頭に上つて居る。

緬羊　本道に於ける緬羊飼養の最初は安政四年で、江戸から函館に十頭移入したものだといふことである。明治七年五月開拓使が東京から四十八頭の緬羊を移入し、始めて牧羊場を開いてから、民間でも多少牧羊を試みるやうになつたが、まだ著しい發達を見るには至らず、現在全道の緬羊の總數は凡そ五千五百頭に過ぎない。併し本道の風土は緬羊に適するといふので、農林省は札幌驛の東南約二里なる月寒及び空知

月寒種羊場

郡瀧川に種羊場を置き、種畜の拂下などを行つて其の飼育を奬勵して居る。月寒種羊場は札幌名所の一つに數へられる大牧場で、其の地積は千百〇五町歩。凡そ二千三百頭の緬羊が番犬監視の下に平和な生活振を發揮して居る。瀧川の種羊場は地積千七百町歩、月寒種羊場と略同數の緬羊を飼育して居る。

以上の外、養鷄、養狐、養兎、養蜂等も行はれて居るが、まだ大なる誇とするまでには至つてゐない。

開拓を待てる農耕地

本道内には將來の開拓を待てる未開地がまだ多い。其の内には放牧に適する地もあり、又植樹に適する地もあるが、水田或は畑となすべき所謂**農耕適地**が七十八萬餘町歩ある（水田三十二萬餘町歩、畑四十六萬餘町歩）。之を國有と民有とに分てば、**國有**は二十一萬三千餘町歩**民有**は五十六萬九千餘町歩である。之をどう處置するのであらうか。

國有未開地　は土地の狀況及び移住家族の多少により、一戸につき五町歩乃至十町歩の未開地を無償で貸下げ、五年間に其の六割以上を開墾すれば、無代で貸下地全部の地主にする。

民有未開地　は其の地主をして先づ之を開放せしめ、次に道廳に於て、交通の關係地味の良否を十分に調査し、公平に土地の價格を定め、之を農耕適地の外、放牧地又は植樹地を合せ、凡そ十五町歩以内に分割し、堅實に開墾自作を爲さんとする者に、其の土地の買入に關する斡旋の勞を執る。其の買入れ資金としては年三分五厘の低利資金を貸付け、五年間は据置き、二十五箇年賦償還とする。卽ち最初五ヶ年間は利子

のみを拂ひ、其れより後二十五ヶ年間に元利金を均等に償還すればよいのである。

以上、國有地、民有地の開墾自作の希望者は、共に道廳に「未開地貸付願」或は「未開地賣拂願」を差出して、其の許可を受けなければならないから、之を許可移民といつて居るが、**許可移民**に對しては、一戸につき三百五十圓の奬勵金を交附することにしてある。尙開墾費の補助として一ヶ年間に畑七反歩以上の開墾者には開墾費の四割を支給し、水田造成の爲に設ける灌漑溝幹支線の工費に對しては工費の五割を補助し更に造田費の四割を支給する。

此の外、畜牛馬匹、土地改良、甜菜糖業、酪農奬勵の爲、一定の條件が備はれば、それ〳〵奬勵金の支給があり、又移住の最初に當つては、汽車、汽船の割引證も交付せられ、移住地に入込んだ上では、教育、衞生に關する保護法も備はつて居る。

若し本道に移住して開墾に從事しようとする人は、北海道廳拓殖部編纂の**北海道移住案内**を見るがよい。之は郵便切手二錢を添へて同部に請求すれば、無料で送つて貰ふことが出來る。之を見れば移住を志す人の心得べきことは大抵示してある。

水産業　北海道近海は夙に世界三大漁場の一として有名な處。まだ道内の開墾事業が起らない明治維新以前から漁業は行はれてゐたものである。其の後盛に開墾事業が行はれる樣になつてからも、漁業は少しも衰へず、長く本道第一の産業であつた。近來各種の産業が起り、殊に工業及び農業が著しく進歩した爲に、漁業は第三位に下つては居るが、水産年總産額は凡そ一億三千萬圓に上り、勿論本道重要の産業に相違ない。

元來、本道の近海に、寒、暖兩流が流れてゐて、寒流に棲む魚も、暖流を好む魚も共に來游することは、魚族の種類、數量を多からしめるもので、水産業上天與の一大幸福である。卽ち日本海方面に於ける**對馬暖流**は其の一派流を津輕海峽に向はせた上近く本道の西海を北上して樺太に向ふが、其の途中一派流は宗谷海峽を經てオホーツク海に入つて居る。又勘察加方面より來れる**千島寒流**（親潮）は千島列島に沿うて南下

し、本道の南海岸を洗ひつつ暖流黒潮（日本海流）と接觸して居る。尙樺太の東海岸に沿うて南下する**樺太寒流**は近く北見の東岸近海を流れて居る。其の上漁場として最も適當と稱せられる深さ二百米以下の海面が廣く本道を圍んで居ることも亦本道漁業上の一大幸福である。

斯樣な次第であるから、漁業は最も古くから發達して今日に至り、漁業者、漁船及び漁獲高の多いことは本道が日本第一である。數ある水産物中特に漁獲高の多いものは鰊、烏賊、鮭、鱈、昆布等で、いづれも日本第一の産額を示し、此の外鰮、鰈、鮃、鱒、帆立貝、鮹、海鼠、タラバ蟹なども其の漁獲高は日本第一である。就中産額の特に多いものは鰊で、其の豐凶は本道の金融に至大の關係がある。

鰊　本道近海に來游する鰊は季節によつて冬、春、夏の三種に分けることが出來る。**冬鰊**は嚴寒の際本道中の太平洋沿岸に來游することのあるもので、形の大小も定まらず、又年によつて來游の有無も定まつてはゐない。概して其の體は瘠せ、脂肪も乏しく、よし來游しても漁獲高の少いものであるから、固より漁業上重きを爲すものではない。本道の鰊漁上最も重要の地位を占めるのは春鰊である。

春鰊は日本海及びオホーツク海の沿岸に來游するもので、殊に日本海方面に多く、其の中でも特に積丹半島附近が主産地で、余市が其の中心地になつて居る。來游季節は土地によつて異り、日本海岸の南部は三四月頃を盛とし、中部は稍後れて四五月頃北見方面は五六月頃を漁期として居る。春鰊は概して形が大きく、其の長さは七八寸乃至一尺一二寸に達し、體が能く肥えてゐて、脂肪も多い。皆産卵の爲に海岸近くに來るのであるから、一に**産卵鰊**といひ、又大群をなして來游する爲に**群來鰊**ともいふ。漁期に入れば、漁夫は建網或は刺網を魚道と思しき海中に沈めて魚群を迎へ、漁れた鰊を海岸に運ぶ。岸に待構へて居る多數の人夫は鰊を背に負へる畚といふ木製の箱に入れさせた上、收納屋に運搬するのである。

さて、其の鰊は生魚又は薄鹽を施して賣りもするが、其の量は少い。先づ體が大き

鰊　潰　し

く、脂肪に富んだものを撰び、之を**身欠鰊**にして食用に供する。身欠鰊を製するには、鰊潰といつて生魚の鰓、卵巣、臓腑などを取去り、木架につるして乾す。一兩日乾した後、小刀を以て背部、腹部、脊骨部の三部に切り分け、更に之を木架に懸ける。かくて十餘日乾した上、背部のみを集めたものを身欠鰊といふのである。

鰊潰の際に取出した卵巣は、直ちに之を海水中に投じ、二三晝夜を經て、其の凝固したものを引上げ、蓆の上に擴げて乾燥する。之が所謂鯑で、毎年正月の必需品である。

又、身欠鰊製造の際に出來る腹部、脊骨部の乾燥品は之を**胴鰊**といつて肥料とし、鰓、内臓を乾燥したものは之を**笹目**といつて、矢張肥料にする。此の外肥料として**鰊の粕**といふものがある。之は身欠鰊に適しないもの又は人手不足の場合に、鰊を海水を入れた釜に入れ、數十分間煮た上、之を掬ひ上げ、締胴といふ壓搾機にかけて壓搾する。次に壓潰された鰊を乾燥場に運び、之を碎いて蓆の上に擴げ、十分乾燥したものである。

煮た鰊を壓搾する際に出る液體は種々のものを含で居るが、之を容器に移して上層に浮ぶ液體だけを汲取り、之を日光に曝して置けば、夾雜物は沈澱して、透明なる魚油のみが浮ぶことになる。此の魚油は卽ち**鰊油**で、工業用品として賣買せられる。

此の外、鰊は鹽漬、罐詰、燻製などにも製せられるが、其の販路も狹く、製造高も多くはない。

さて、もと春鰊は本道日本海方面到る處の海岸に近づき、此の方面の漁港を賑した

ものであるが、魚道が變化したものか、或は濫獲の結果か、兎に角同方面の南から次第に北に向つて近づかなくなつた。卽ち福山方面が先づ不漁となり、次に江差、熊石地方、更に壽都、岩内方面といふやうに不漁が北方に進み、現在では余市附近から北でなければ、殆んど鰊を漁獲することが出來なくなつた。隨つて岩内以南の漁業者は鰹や烏賊などの漁獲に力を注ぐやうになつて居るが、鰊の不漁北進の理由はまだ判然しない。

夏鰊は毎年六月上旬から約二箇月の間、主として本道太平洋沿岸に來游するもので、脂肪にも富み、又肥えても居るが、春鰊よりも小く、體長は四五寸乃至六七寸に過ぎないから、一に**小鰊**ともいふ。之は春鰊の幼魚であらうといふ人もあるが、まだ其の確證はなく、單に推察說に過ぎない。小鰊は殆んど食用には供せず、〆粕製造の原料として居る。隨つて副產物として鰊油の出來ることは春鰊と同じである。

鮭は常には海に棲んで居るが、產卵期には必ず川に溯り、其の上流の砂利の中に卵を產みつけた上雌雄共に死んでしまう。其の時期は毎年九月から十二月までである。砂利の中の卵は四五十日の後、孵化して幼魚となり、初は川に生活して居るが、五六月頃長さが三四寸になると、下つて海に入り、それから四五年間は全く海に生活して居る。かくて成長し盡して產卵期になれば、川に溯るのであるが、其の時になれば少しも餌を攝らず、適當な產卵處を見つけるまで、激流奔湍を物ともせず、先を競うて上流に溯る。かくして適當な場處に到れば、尾を以て河底の砂利を掘り、深さ七八寸の窪みを造つて其の中に卵の一部を產みつけ、更に少しく溯つて新に窪みを掘りつつ其の砂利を以て前の窪みを掩ひ隱す。斯樣にして卵を生み盡した親鮭は見る影もなく痩せ衰へ、尾の如きはササラの如くになり、間もなく雌雄共に死んでしまう。隨つて產卵後の親鮭は食用にはならない。產卵前の親鮭を川で漁るのは困難でないが、之を漁れば鮭の繁殖を妨げるから、北海道では川鮭の漁獲には大いに制限を加へ、主として海で漁らせることにして居る。海鮭の中最も優良品は將に產卵の爲に、

川に上らうとする時に漁つたものである。

さて、鮭の主産地は根室及び國後、擇捉二島方面で、石狩、北見、十勝方面が之に亞ぐ。近來冷藏法の發達につれて鮮魚の儘の消費が增しつつあり、又罐詰、燻製も行はれて居るが、鹽鮭として賣出されるものが最も多い。

鱒は全道到る處で漁獲せられるが、國後、擇捉二島及び根室並に知床半島地方が主産地となつて居る。其の漁期は五月から八月まで。鮮魚の使用が增しつつあるが、主として鹽藏とし、尙罐詰にもして居る。

所で、鮭も鱒も濫獲の結果漁獲高が次第に減少する傾向がある。爲に近來は其の挽回策として官民共に鮭、鱒の孵化場を設け、人工孵化によつて得たる仔魚を河川に放流することに努めて居る。卽ち國費による鮭鱒の孵化場は膽振國千歲郡千歲村（千歲鮭鱒孵化場といふ）、釧路國上川郡虹別村（西別鮭鱒孵化場）及び千島國擇捉郡留別村（留別孵化場）の三箇所に在るが、最も有名なのは千歲孵化場で、其の創立は明治二十一年である。民營の鮭の孵化所は道內に四十七箇所あるが、其の內二十一箇所は鱒の孵化をも兼ね行つて居る。之は鱒のみの孵化場の經營維持が困難な爲である。此の外阿寒湖、支笏湖、洞爺湖には姫鱒のみの人工孵化場がある。

鱈は本道到る處の沖に棲息し、沖合漁業中重要な地位を占めて居る。其の主産地は利尻、禮文二島及び根室並に千島方面で、日高、天鹽、釧路方面が次第に之に亞ぐ。漁期は千島方面では四、五月から八、九月頃まで、其の他は十一月から翌年三、四月頃までである。其の製品にはソボロ、搾粕、肝油等もあるが、大部分は棒鱈、或は開鱈として賣出される。

鰹も鱈と同じく本道の沖合到る處に棲んで居る。其の漁獲は近年發動機船の使用により、急激に發達したもので、全道到る處の漁場に行はれて居るが、後志の岩內が最も盛で、渡島半島の西岸地方及び膽振、日高方面が之に亞ぐ。漁期は十一月から翌年五月までの間。棒乾、鹽藏などとして賣出され、尙搾粕にも用ひられる。

鰮の主産地は渡島半島近海及び天鹽、日高、釧路方面で、眞鰮、背黑鰮が主である。眞鰮の一種たる大羽鰮の漁期は六、七月頃であるが、其の他は十月から十二月までを最盛期とする。煮乾、鹽漬にもするが、多くは搾粕用に供せられる。

鰈及び鮃は本道到る處の沿海で漁れるが、後志、石狩、天鹽が主産地となつて居る。日本海方面の漁期は十一、二月頃から翌年五月頃までであるが、太平洋方面は二月から八、九月頃までである。鮃は殆んど皆鮮魚として消費せられ、鰈も鮮魚使用が相當に多く、秋冬には内地への移出も少くない。併し鰈は鰈油、搾粕製造にも用ひられる。

鮪は日本海方面及び太平洋方面の沿岸でも漁れるが、主産地は太平洋方面である。併し釧路港を根據地とする漁船が其の沖合漁業を始めるまでは左程重要なものではなかつた。然るに大正三年頃から發動機船による鮪の沖合漁業が起つて以來、急に其の漁獲高が多くなり、毎年六月から十一月に至る漁期には、近きは日高、根室より遠きは紀州、東海道方面及び常磐、三陸並に富山、新潟方面より出漁する鮪船が、皆釧路港に集り、眞に帆檣林立の偉觀を呈することとなつた。今や釧路港は北太平洋に於ける鮪の沖合漁業根據地として名聲を博して居るが、其の今日あるを致すに與つて大いに力あるのは、現に釧路市に於ける株式會社共同魚菜市場の專務取締役たる**嵯峨久氏**である、氏は能く漁業の理論に通じ、又能く其の實際に長ぜる人。一度其の溫乎たる風丰に接して、其の談論を聽けば、漁業に關する氏の蘊蓄の深きに驚かざるを得ない。鮪は稀に節に造るが、殆んど鮮魚として消費せられ、釧路港及び擇捉島から氷藏運搬船によつて東京方面及び本州各府縣に直送せられるものも頗る多い。

大鮃の主産地は根室及び北見の沖合で、漁期は三月から七月までと、十月から翌年一月初旬までの二期である。皆鮮魚として消費せられるが、大正十四年以來米國輸出の途が開かれて、前途頗る有望なものとなつて居る。

烏賊本道に於ける烏賊の主産地は渡島半島の近海で、殊に其の南部に多く、膽振

日高方面にも少くない。鰯烏賊が主で、鑵烏賊が之に亞ぐ。鑵烏賊の漁期は四月から六月までであるが、鰯烏賊は七月から十二月までで、九、十の二月が最盛期である。生食もし、又鹽辛などにも用ひられるが、主として鰯に製造せられて居る。

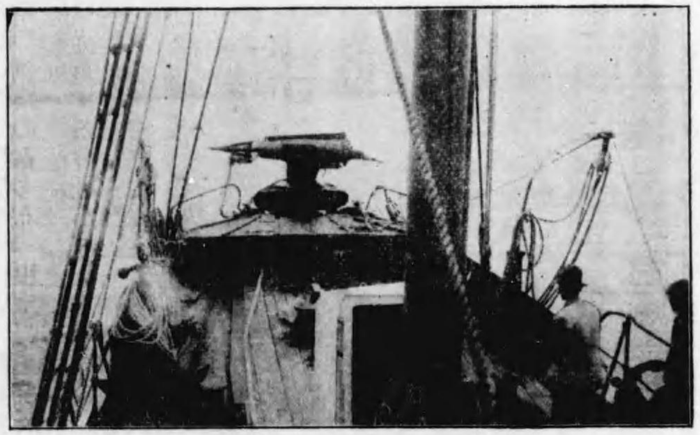
帆立貝　の主産地は根室、北見、天鹽方面で、其の漁期は七月から十月までである。主として貝柱を製するが、罐詰用に供せられるものも少くはない。

海鼠　は本道近海到る處で漁れるが、天鹽地方に最も多く、膽振、後志、日高方面が之に亞ぐ。漁期は七月から約三箇月の間。漁獲物は多くは海參に製して支那に輸出せられる。

タラバ蟹　は本道に於ける罐詰製造業中重要の地位を占めるものであるが、近來其の漁獲高が次第に減ずる傾向が甚だしい爲に、其の主産地たる北見、天鹽二國の沖合では、昭和二年から五年間其の漁獲を禁止して居る。隨つて現在は國後、擇捉兩島東岸の沖合及び北千島方面で漁獲するだけである。漁期は三月から六月までと、九、十の兩月との二期であるが、北千島では五月から九月までである。漁獲物は專ら罐詰に製造せられる。

根室港の昆布積出

昆布　は全道の近海に産するが、主産地は千島、根室、釧路、日高、渡島、天鹽及び利尻、禮文二島方面で、採取期は七月から十月までである。利尻、禮文兩島及び渡島の東岸なる鹿部、尾札部近海は優良品の産地として名高いのであるが、昭和四年六月駒岳大噴火の際、降石が渡島の東岸近海に於ける海底を蔽ふこと數尺に達し昆布の根の附着すべき石を其の下敷にした。爲に此の方面は將來再び昆布の名産地として名



捕鯨船の銛發射砲

をなし得るか否かが氣遣はれて居る。昆布の販路は全國に亘るが、國内に於ては大阪市に仕向けられるものが特に多く、海外に於ては支那が最大販路である。隨つて支那に日貨排斥が起る場合には、本道の昆布、海參など支那向の商品には大影響がある。

捕鯨業　本道に於ける捕鯨期は六月から十月までで、其の漁場は太平洋方面である。鰮鯨、抹香鯨、長須鯨が主で、背美鯨、白長須鯨、座頭鯨は甚だ少い。其の肉は道内でも消費せられ又罐詰にも造られるが、冷藏の上九州方面に送られるものも頗る多い。捕鯨船の根據地は室蘭市、釧路の霧多布、根室の花咲及び色丹島の斜古丹、擇捉島の留別並に紗那で、捕鯨に從事する會社が今は三つある。

水産試驗場　本道に於ける水産の指導奬勵に當るべき機關は種々あるが、其の權威たるべき水産試驗場は**余市町**に在つて、國費支辨である。本試驗場は函館、室蘭、根室、稚内に支場を置き、別に支笏湖畔(膽振國千歳村)には姫鱒の孵化場を設けて居る。

鮎の人工孵化場　北海道に於て鮎の上る川は渡島、後志兩國の日本海方面に注ぐものである。余市町を流れる余市川は夙に鮎の名産地として知られて居るが、一時濫獲酷漁の結果、殆んど全滅に近づいた。爲に同地水産組合では、大正十年以來鮎の人工孵化場を設け、人工による仔魚を放流して好成績を收めつつある。此の外、後志、渡島方面に三箇所鮎の人工孵化場があるが、何れも民營である。

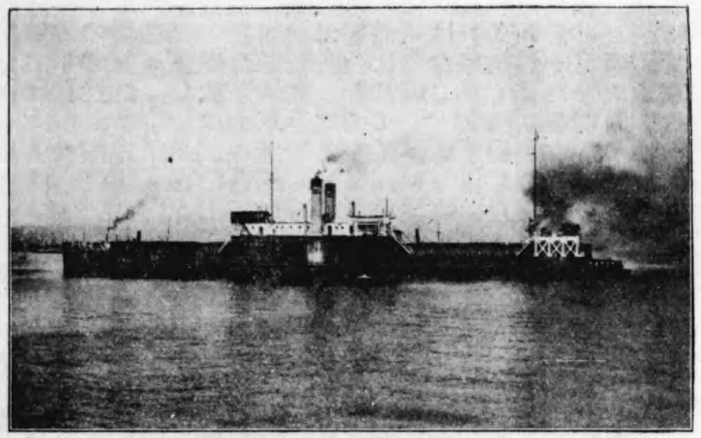
第五章　都會と交通

青函連絡

青森、函館間は海上六十海里。關釜（下關釜山間一二二海里）、稚泊（稚内、大泊間九十海里）兩航路と共に國有鐵道三大航路の一つで、我が領土を縱貫する交通路の一大要衝。北海道並に樺太の開發が本航路に負ふ所は實に甚大なものである。現在鐵道省が青函連絡に用ひて居る連絡船は大正十三年始めて就航した翔鳳、飛鸞、津輕、松前の四隻で、いづれも三千四百餘噸。四隻共に**客載貨車渡船**といつて、客の乘込む可き船室の外に、貨車を載せるべき車輛甲板を備へて居る。翔鳳、飛鸞の船客定員は各〻各等合計八百九十五名、津輕、松前は各〻九百九十名。車輛甲板は各船共に十五噸積貨車二十五輛を載せ得る。船内の設備は誠に能く整ひ、無線電信局あり、食堂あり、喫煙室、寢臺室あり、實に氣持のよい船である。

聞けば現在此の種の船で、世界第一といはれる大船は、米國オンタリオ湖に浮べる第二オンタリオ號で、其の航程は五十五海里、噸數は五千五百六十八噸。併し船全體の構造設備は、我が翔鳳丸などよりは遙かに劣つて居るといふことである。又獨逸、瑞典間五十八海里を往復する同種の船はドロッチング、ビクトリヤ號型であるが、其の噸數は三〇七四噸で、我が翔鳳丸（三四六〇噸八）よりも小い。隨つて青函間に於ける客載貨車渡船は、海外に於ける同種の船に比すれば、頗る優秀なもので、世界に對して誇となるものである。しかも此の渡船が青森に於ては築港岸壁に横着けとなり、函館に於ても同棧橋驛の岸壁に横着けとなるから、小蒸汽船や艀舟などに乘換へる必要はなく、廊下傳ひに苦もなく船車連絡待合所に出入することが出來る。其の待合所が又能く整頓したもので、休憩室もあれば食堂もあり、賣店もあれば廣場もあり、實に堂々たる大休憩所である。

青函間の航海には四時間半を要し、毎日前記の渡船が三回往復して居る。此の外別に**貨車航送船**といふ船が往復して居る。之は主として客載貨車渡船を以て輸送するの



貨車航送船第一青函丸

を不便とする重い品物及び嵩高な物を積む貨車のみを輸送する船で、大正十四年に航送を始めたもの。下關、小森江間を往復して居る貨車航送船よりも、遙かに大きな船である。卽ち其の噸數は二三二六噸で、十五噸積貨車を一時に四十三輛輸送し得る。實に便利なことになつたものである。

今、東京市上野驛から函館に向ふとすれば、青森までは急行列車で約十六時間半。列車を離れた人々は皆長いプラットホームを急ぎ足。船車連絡待合所の食堂になだれ入る。和食、洋食は客の望み次第。思ひ〳〵の食事して、待つ間

程なく乘船時刻。乘り込む客は幾百人。士農工商、官公吏。文士、山伏、宣教師、資本家、著述家、教育家、團體、同伴、一人旅。老若男女の其の中で、乘り込み急ぐは三等客。二等、一等それ〴〵に入込む室はかはれども、目指す港は函館港。陸奥灣は一見湖水の如くにして、終年風波の憂ひなく、津輕海峽は潮流早しといへど、潮流も波も物かは、堂々たる連絡船はさながら海の王者の如く、ひたはしりに走り進む。時刻をはかつて船室外に立出づれば、行くての右に當り、低く坐せるは臥牛山（函館山）。それより少しく左に當り、稍遠く聳ゆる峯は駒岳。いつに變らぬ姿を見れば、はや其の懷に入りたる心地。船は程なく巴狀をなせる函館港內に入り、靜に其の巨軀を棧橋驛の岸壁に橫たへる。

鐵道函館本線　は函館を起點とし、五稜郭、大沼、森、長萬部、黑松內、倶知安、小澤、小樽、札幌、白石、岩見澤、美唄、砂川、瀧川、深川等の諸驛を經て旭川に至る二六五哩四分の鐵道である。函館棧橋驛から旭川までは普通列車によれば約十四時

間を要し、長輪線經由稚内港行の急行列車によれば十時間三十五分かかる。茲に先づ函館市の近況を述べることにしよう。

函館市

は北海道の大關門として誰知らぬものもない大都會。渡島半島南岸の中央よりも稍東に位し、巴狀をなせる函館灣頭に在る、市は東西二里十四町餘、南北一里二十六町に亘り、其の大部分は平地であるが、其の本部ともいふべき重要市街地は、灣の南東を擁する半島部で、其の南端に火山岩より成る臥牛山が蟠つて居る。**臥牛山**は一に函館山といひ、遠き過去の時代には一つの島であつたものが、其の島影に堆積した土砂の爲に本土と連絡したものと思はれる。山麓の平地に續く緩傾斜地帶には人家もあるが、其の他は全部明治三十二年七月以來陸軍用地となり、一般民衆の出入を禁じて居る。

さて、函館は古くは宇須岸といつた處。之は蝦夷語ウショロケスの轉訛で、「灣の端」の義だといふことである。然るに後花園天皇の享德三年（將軍足利義政時代）河野政通なる者が此の地（今の富岡町六番地）に居館を築いた。館は東西三十五間、南北二十八間と傳へられ、其の形狀が箱に似てゐた爲、之を箱館と稱へたのが地名としても用ひられることになつたものだといふことである。然るに一說によれば、往昔今の谷地頭町二番地の後丘に、蝦夷人の築造にかかる城砦（チャシ）があつたもので、之をハクチャシと稱へてゐた。之が轉訛して「ハコタテ」となつたものだといはれて居る。其の孰れに從ふべきかを知らないが、兎に角之を漢字に書き表はす場合には**箱館**としたもの、それを改めて**函館**としたのは明治二年八月のことである。

話が再び室町時代に戻るが、後柏原天皇の永正九年（將軍足利義稙時代）に蝦夷人が箱館に於ける河野の館を襲ふた。時の館主季通（政通の子）は奮戰して死し、館も陷つた。此の時河野の一族は殆んど皆自刃したが、當時三歲の女子だけは乳母に負はれて松前に逃れたものだといふことである。其の後長らく箱館の消息を窺ふべき記錄はないが、櫻町天皇の寬保元年（將軍德川吉宗時代）に松前藩が**龜田番所**を河野の館址に移して、箱

館に出入する旅客及び船舶を吟味せしめることとした。

併し箱館が廣く世の注意を惹く樣になつたのは、光格天皇の寛政十一年（將軍德川家齊時代）頃からのこと。此の年幕府は東蝦夷地を其の直轄地とし、南部、津輕の兩藩をして蝦夷地の警備に當らせたものであるが、兩藩は箱館に其の本營を置き、兵を東蝦夷地及び千島の要地に配置した。現在**函館地方裁判所**などのある處（汐見町一番地）は南部の陣屋址である。有名な**高田屋嘉兵衞**は寛政八年から毎年箱館に出入したものであるが、彼れが幕府の御用船頭として北海に活躍することになつたのも寛政十一年からである。卽ち彼れは店を箱館に開いて弟金兵衞を其の支配人とし、自分は物資の輸送及び擇捉島、根室並に幌泉等の漁業の開發などを始め、日露の外交問題にまで盡力したものであるが、其の店は今の**大町**七、八番地にあつたのである。斯樣な次第で、箱館は寛政十一年頃から次第に樞要の地となり、移住者も追々增加し、商船、貨物の出入も多くなつた所から、同天皇の享和二年（家齊時代）幕府は此の地に**箱館奉行所**を設けた。今**渡島支廳**のある處が其の址である。

然るに同天皇の文化四年（家齊時代）松前家が奧州梁川に移され、蝦夷全島が幕府の直轄となるや、箱館奉行は松前（福山）に移つて、**松前奉行**と改稱し、其の跡を**箱館役所**と呼んで吟味役を置いたものである。所が仁孝天皇の文政四年（家齊時代）に至つて、幕府が再び蝦夷全島を松前家に還付した爲に、松前奉行は箱館役所に移つて復箱館奉行といふことになつた。併し松前が大いに景氣を恢復したのに反して、箱館は稍不振の狀態に向つた。當時箱館に於ける**高田屋**の勢力は大したものであつたが、翌五年箱館の店を本店として兵庫、大阪、江戸に支店を置き、弟金兵衞を養子として家業を讓つた。**金兵衞**は箱館に於て、別に土地五萬坪を借り受け、凶歲に備へる爲の米倉數棟を建て、更に家屋數棟を增築し、數寄を凝らした庭園をつくるに至つた。世人は之を「高田屋御殿」と呼んで隆々たる家運を祝福したものであるが、此の倉屋敷は今の**蓬萊町**百五十五番地邊に在つたものである。

餘談ながら、高田屋嘉兵衛は晩年を郷里淡路國津名郡都志に送り、文政十年四月五日五十九歳で歿し、明治四十四年九月十五日正五位を贈られた。高田屋の二代目金兵衛は露國と秘密貿易の嫌疑を受け、仁孝天皇の天保四年（家齊時代）其の全財産を沒收せられた。之は天保二年五月十二日高田屋の雇船が日高國樣似沖に於て露國船と行き合つた時、其の船頭榮德新造が、高田屋の船標ある幟を立てゝ敬意を表し、露國船が赤旗を揭げて答禮の意を示したことがあつた爲で、決して國禁を犯した譯ではなかつたが、當時は鎖國氣分が濃厚で、外國船擊攘の令の行はれてゐた時であるから、單なる敬意の應答が有司の誤解の種となり、所謂「闕所」の處分を受けたもの。金兵衛は實に氣の毒な人である。

其の後、孝明天皇の安政元年三月三日（將軍德川家定時代）幕府が米國の水師提督ペリーと日米和親條約を結んで、下田、函館を薪水食料の供給港とした爲に、ペリーは同年四月軍艦數隻を率ゐて箱館に入港し、港の狀態を視察した上下田に向つた。幕府は此の年六月松前藩に命じて箱館地方六、七里の土地を上らしめ、箱館奉行の管轄としたが、翌二年二月松前、江差地方以外全部の蝦夷地を復も幕府の直轄として、箱館奉行の管轄とした。そこで箱館は再び樞要の地となり、樣々な施設が行はれて、著しく發展の氣運に向つて來た。其の一二をあげると、安政三年には**諸術調所**（綜覽館）が設けられ、尙同年**辨天臺場**が起工せられ、翌四年には有名な**五稜郭**築造の工事が起された。何れも箱館奉行の建議によつて出來たものである。

諸術調所　は綜覽館ともいひ、伊豫大洲の藩士武田斐三郎成章を教授として、蘭學及び化學、航海、測量、砲術等を教授せしめた處。今の天神町內函館病院のある處に設けられたものである。後に述べる辨天臺場も五稜郭も、共に武田教授が和蘭の築城書によつて設計を立て、松川辨之助、井上喜三郎が工事に當つたものである。

辨天臺場　函館半島中の一突角で、內港と外港との界目に當る處に、今、辨天町、臺場町とい

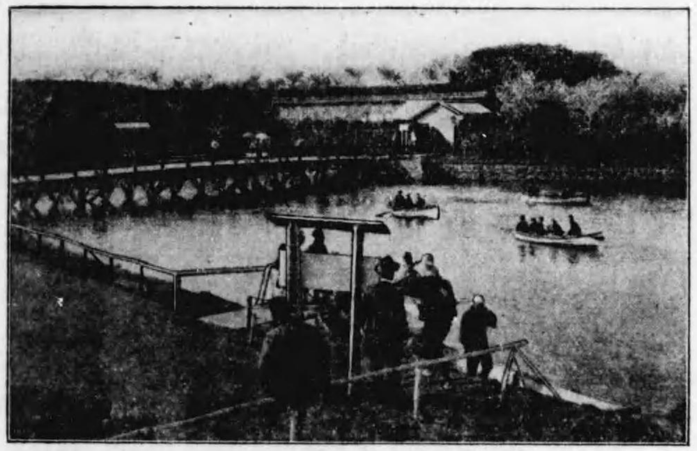
ふ町がある。辨天臺場は臺場町四十二番地に在つたもので、安政三年に起工し、文久三年に竣工したものである。此の臺場の外形は不等邊六角形をなし、其の周圍に高さ三十三尺の石垣或は土壘を繞らし、全面積は一萬一千六百十一坪あつたものである。當時此の臺場に備へつけた大砲は嘗て露艦ヂアナ號の備砲たりしもので、露國から德川幕府に寄贈してゐたものである。

顧みれば、露國の使節プーチャチンを載せた軍艦ヂアナ號が伊豆の下田に入港したのは安政元年十月十五日であつた。プーチャチンは日露和親條約締結の使命を帶びてゐたのであるが、まだ其の談判の纒まらぬ中、卽ち同年十一月四日有名な下田の大地震に遭ひ、ヂアナ號は殆んど航海し得ざる程に破損した。そこで其の備砲五十二門を下田に陸揚げし、船に應急の修理を加へた上、伊豆の西岸なる戸田に廻航して大修繕を施すこととした。然るに其の廻航中暴風にあつて同艦は駿河灣内に沈沒した。幸に其の乘組員は無事に上陸した爲に、プーチャチンは幕府の援助の下に戸田に於て新に其の乘船を建造することとした。かくて其の工事中プーチャチンは再び下田に於て談判を開き、同年十二月二十一日和親條約に調印した上、翌年三月二十二日新造船に乘つて歸國の途に就いた。斯樣な次第であつたから、同艦歸國の後、露國外務大臣は特に書を幕府に寄せて、ヂアナ號遭難後に於ける我が官民の好意を謝し、同號が下田に殘して置いた備砲五十二門を我が國に寄贈することにしたのである。

仍つて幕府は此の砲を辨天臺場に据ゑつけたが、明治元年十月二十六日榎本釜次郎等の軍が箱館を占領した際、辨天臺場を臨檢して、其の備砲の艦載砲なることを知り、之を回天艦に移した。然るに翌年五月七日の海戰中回天艦は淺瀨に乘上げた上、官軍に燒拂はれ、砲は海中に沈沒した。後に至つてジョン、ヘンソンなる者が其の砲を引揚げて函館に寄附した。今函館公園内に並べてある砲は卽ちそれで、もと〳〵ヂアナ號の艦載砲であつたのである。

餘談が長くなつたが、兎に角辨天臺場は明治二年の箱館戰爭に當つて、脫走組の一團が據つて以て最後まで烈しく官軍に抵抗した處であり、又同九年明治天皇が函館に行幸あらせられた時、親しく砲術を天覽あらせられたのも此の臺場であるが、同二十九年函館港改良工事の際、破壞せられた爲、今は全く舊觀を留めず、唯町名に臺場の名を存するのみである。

五稜郭　は箱館奉行の廳舍として築かれたもの。安政四年の起工で、元治元年に竣工したのである。郭は其の名の如く五稜形で、周圍に濠を繞らし、其の内部に高く石壘が連つて居る。其の地積は五萬四千百二十二坪、もと壘内に廳舍、役宅、同心長屋などがあつたもので、同年六月箱館奉行（小出秀實）が始めて此處に移つた。明治維新後此の廳舍は箱館裁判所となり、更に箱館府



五稜郭の濠

となつたが、明治元年十月二十六日榎本釜次郎（武揚）、大鳥圭介等を主將とする舊幕思ひの脱走組の占領する所となり、翌二年五月十八日まで其の根據地となつた。然るに此の日榎本等が官軍に降つた爲に同年七月開拓使が東京民部省内に創設せらるるに及んで、郭は其の管理に屬することとなつた。其の後同五年五月郭内の廳舍などは之を破壞し、其の用材を札幌に運んで、建築に用ひたといふことである。

かくて其の空郭は同六年十二月陸軍省の所管に移り同九年七月明治天皇は函館へ行幸あらせられた時、此の史蹟を訪はせられ（同月十七日）、以て往年の戰況を御下問あらせられた。然るに大正二年十一月郭は函館區に無料貸下となり、區は翌年六月一般民衆の遊覽地として之を開放した。爾來五稜郭は函館名所の一つとして人の出入が多く、郭内には松が生ひ茂つて翠色滴るが如く、石壘及び濠は昔の儘に殘つて居る。今や壘上に櫻が多く、春は櫻花の名所になつて居るが、之は函館新聞が一萬號發行記念として植付けたものである。濠の一部は夏水泳所として利用せられ、尙短艇の練習所となつて居るが、冬は龍紋氷の切出しが盛に行はれる。此の氷の切出しは最初中川嘉兵衞といふ人が思ひついたものだといふことである。

ここで復話が幕末に戻るが、德川幕府が安政五年諸外國と通商條約を結んだ結果、箱館は開港場の一つとなり、翌六年六月二日を以て開港した。そこで箱館は天下晴れての外國互市場の一として益々發達したが、明治二年には既に述べた通り、官軍が五稜郭を本營とする脱走組に攻擊を加へた爲に、世に所謂箱館戰爭が起つて、箱館は一時戰亂の巷となつた。今舟見町七面山にある函館海戰忠魂碑は此の時の海戰に戰死した官軍將卒の墓碑であり、又汐見町二十八番地の招魂社は是等官軍戰死者の靈を祀る社である。此の社内にも一つの記念碑があるが、其の石材は七面山の海軍墓碑と共

に、高田屋倉屋敷の庭にあつた名高い龜石の一部を用ひたものだといふことである。又谷地頭町内なる國幣中社**函館八幡宮**（函館市の鎭守）の西方に、**碧血碑**といふ記念碑がある。之は箱館戰爭中に戰歿した脫走組將士の遺骨を葬つた處で、明治八年に竣成したものである。

さて、箱館戰爭平定の後、卽ち明治二年八月十五日蝦夷地の名を改めて北海道とし、全道を十一箇國に分けたことは、既に沿革の部に述べた通りであるが、箱館を改めて函館としたのも亦此の際のことである。

翌三年閏十月九日に至つて、前年七月八日東京なる民部省内に開廳した**開拓使**が函館なる舊箱館奉行所（今の渡島支廳所在地）に移つた。爲に函館は全道に對する爲政の中心となつたが、それは一時のこと、同四年五月開拓使は札幌に移轉し、**函館出張開拓使支廳**の所在地となつた。此の役所は翌五年九月に至つて**函館支廳**と改稱したものである。

斯樣な次第で、函館は政治上に於ては、地方的の一中心といふことになつた譯であるが、固より海上交通の要路であり、又水產業家の策源地及び內外に對する商業上の要地として年と共に繁榮を加へ、明治九年七月には明治天皇の御臨幸を仰ぐの光榮を荷つた。是より先、天皇は東北御巡幸の旨を仰せ出だされ、同年六月二日東京御發輦。日數重ねて青森縣七戸に御駐輦あらせられたる際、北海道殊に函館官民の切なる奏請を御聽許あらせられ、函館にも御臨幸あらせらるることになつたものである。かくて七月十六日午前八時御召船明治丸に御坐乘あらせられて青森港御出帆。同日午後一時半函館に御入港あらせられ、函館稅關波止場より御上陸あらせられた。稅關に御小憩の上、當時富岡町にあつた東本願寺別院（當時は掛所といへり）の行在所に向はせられた。其の後同別院は他に移り、今は其の址に**彌生小學校**が建つて居るが、大正六年同校出身の有志が立派な記念碑を建てた。

さて、此の御臨幸の時、函館駐在の英國領事リチャルド、ユースデンは英國領事館